

令和 7 年度 授業概要



S Y L L A B U S

聖園学園短期大学
保育科

目 次

1 年次

◆基礎教養科目

キリスト教人間学ⅠA	1
キリスト教人間学ⅠB	2
くらしと憲法	3
日本語の表現ⅠA	4
日本語の表現ⅠB	5
保育の英語	6
体育講義	7
体育実技	8
情報処理Ⅰ	9
児童文学	10
子ども文化	11
ボランティア活動	12
自然科学入門	13

◆専門科目

音楽の理論と合奏	14
声楽ⅠA	15
声楽ⅠB	16
音楽表現ⅠA（ピアノ）	17
音楽表現ⅠB（ピアノ）	18
造形表現Ⅰ	19
教育原理	20
保育者論	21
心身の発達と学習過程	22
特別支援教育総論	23
保育原理	24
子ども家庭福祉	25
社会福祉	26

社会的養護Ⅰ	27
子どもの保健	28
子どもの食と栄養	29
乳児保育Ⅰ	30
子どもの健康と安全	31
子育て支援	32

2 年次

◆基礎教養科目

キリスト教人間学ⅡA	33
キリスト教人間学ⅡB	34
日本語の表現Ⅱ	35
英会話演習	36
身近な数とカタチ	37
情報処理Ⅱ	38

◆専門科目

声楽ⅡA	39
声楽ⅡB	40
身体表現Ⅰ	41
音楽表現Ⅱ	42
造形表現Ⅱ	43
身体表現Ⅱ	44
保育内容の指導法 健康	45
保育内容の指導法 人間関係	46
保育内容の指導法 環境	47
保育内容の指導法 表現	48
子どもと健康	49
子どもと人間関係	50
子どもと環境	51
子どもと表現	52
教育原理	53

教育制度	54
教育課程・保育の計画と評価	55
幼児理解と教育相談	56
保育・教職実践演習（幼稚園）	57
子ども家庭支援論	58
子ども家庭支援の心理学	59
保育内容総論	60
乳児保育Ⅱ	61
社会的養護Ⅱ	62
子育て支援（2年生）	63
卒業研究	64

実 習

※実習指導については、2年間を通して行う。

教育実習指導Ⅰ	75	保育実習指導Ⅰ（保育所）	77
教育実習指導Ⅱ	76	保育実習指導Ⅰ（施設）	78
		保育実習指導Ⅱ	79

注. 今年度開講しない科目については省略

授業科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの目的

授業科目に授業内容・レベル等に応じて番号を付し分類することで、学修の段階や順序等をあらわし、教育課程の体系性を明確にすることを目的とする。

2. 科目ナンバリングの構成

本学における科目ナンバリングの構成は、次のとおりとする。

(1) 学科コード（1桁の数字）

区 分	コード
保育科	1

(2) 分類コード（1文字のアルファベット）

区 分	コード
基礎教養	F (Fundamental Liberal Arts)
専門	E (Early Childhood Education and Care)
その他	O (Others)

(3) 授業形態コード（1文字のアルファベット）

区 分	コード
講義	L (Lecture)
演習	S (Seminar)
実技・実習	T (Training and Practice)
その他	O (Others)

(4) 授業科目コード（3桁の数字）

区 分	コード
001～999	3桁の任意の数字

3. 科目ナンバリングの配置

本学における科目ナンバリングの配置は次のとおりとする。

例) 授業科目コード 01「キリスト教人間学Ⅰ」の場合

<u>1</u>	<u>F</u>	<u>L</u>	<u>001</u>
学科 コード	分類 コード	授業 形態 コード	授業 科目 コード

1 年 次

科目名		キリスト教人間学ⅠA		科目コード	1FL066	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者		門戸 美智		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					シスターである教員が、聖書をもとに神の人間に対する愛と救いの歴史や、人を愛して生きる生き方を解説する。					
授業のねらいと概要		旧約聖書を通して神の人間に対する愛と救いの歴史を学び、キリスト教の基本的精神を深め、人を愛して生きる生き方を身にするける。旧約聖書の人間の生き方は現代社会と共通していることに気づき、本学の建学の精神である「真理を求め、人を愛して生きる」生き方を学び、キリスト教の精神で社会に貢献することをねらいとする。								
到達目標		(1) 旧約聖書にみられる神の人間に対する愛と救いの歴史を理解する 1) 天地創造から始まる人間の罪と神の愛を出来事の中で理解している 2) 旧約聖書の権力闘争、飢饉などの困難から脱出する力を神からの救いであると理解している (2) キリスト教の基本的精神を理解する 1) キリスト教の基本的祈りと聖書の読み方、捉え方を理解している 2) 聖心のミサ、クリスマスミサ、卒業感謝ミサを通して共に祈り、感謝することを理解している (3) 人生で遭遇する喜びと愛、孤独と悲嘆などの経験から人を愛し愛される大切さを理解する 1) 最初の人間の罪と恵みの問題を捉え神はどう人間を救おうとしているのか理解している 2) 人間と自然、環境の正しいあり方を探り人も自然も守るべきものであることを理解して								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○	○	○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション 祈り 旧約聖書の使い方 授業の目的					事前 学生便覧p.1～7を読む		30分	
	2	聖書について 旧約聖書 新約聖書					事後 新約聖書p.1～4を読む		30分	
	3	天地創造 初めに神は天と地を創られた					事後 配布プリントを読む		30分	
	4	自然 神はすべてを良しとされた					事前 配布プリントを読む 事後 配布プリントを読む		各30分	
	5	自然 回勅『ラウダート・シ』について(1)					事後 ノートを読む		30分	
	6	自然 回勅『ラウダート・シ』について(2)					事後 ノートを読む		30分	
	7	最初の人間 神はご自分に似せて人を創造された 創世記2：4～25					事後 ノートを読む		30分	
	8	悪・人類最初の罪 アダムとエバとその罪					事後 配布プリントを読む		30分	
	9	悪・人類最初の罪 カインとアベル 創世記4章					事前 配布プリントを読む 事後 配布プリントを読む		60分	
	10	カリタスジャパンについて カリタスジャパンの活動を知り理解を深める					カリタスジャパンについて関心を持ち世界平和にできる範囲で貢献する		30分	
	11	み心について(み心のミサについて)					事前「神をたたえて」のみ心の箇所を読む		30分	
	12	み心のミサと講演					事後 ミサと講演について、感想、気づき、等について記述		60分	
	13	悪・人類最初の罪 ノアの箱舟 洪水 創世記6章～10章					事前 配布プリントを読む 事後 配布プリントを読む		各30分	
	14	悪・人類最初の罪バベルの塔 創世記11章					事後 配布プリントを読む		30分	
	15	族長物語 アブラハム物語 イサク物語 ヤコブ物語の流れ					事後 配布プリントを読む		30分	
成績評価の方法		試験(30%)、提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、聖園アワー(20%)								
課題のフィードバック		提出されたリアクションペーパー等、読み、必要があれば学生に連絡し指導する								
テキスト		フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ)ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』(ドンボスコ)								
参考文献・資料		授業前に授業で必要なプリント配布								

科目名		キリスト教人間学ⅠB		科目コード		1FL067		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		門戸 美智		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						シスターである教員が、聖書をもとに神の人間に対する愛と救いの歴史や、人を愛して生きる生き方を解説する。									
授業のねらいと概要		旧約聖書を通して神の人間に対する愛と救いの歴史を学び、キリスト教の基本的精神を深め、人を愛して生きる生き方を身につける。旧約聖書の人間の生き方は現代社会と共通していることに気づき、本学の建学の精神である「真理を求め、人を愛して生きる」生き方を学び、キリスト教の精神で社会に貢献することをねらいとする。													
到達目標		(1) 旧約聖書にみられる神の人間に対する愛と救いの歴史を理解する 1) 天地創造から始まる人間の罪と神の愛を出来事の中で理解している 2) 旧約聖書の権力闘争、飢饉などの困難から脱出する力を神からの救いであると理解している (2) キリスト教の基本的精神を理解する 1) キリスト教の基本的祈りと聖書の読み方、捉え方を理解している 2) 聖心のミサ、クリスマスミサ、卒業感謝ミサを通して共に祈り、感謝することを理解している (3) 人生で遭遇する喜びと愛、孤独と悲嘆などの経験から人を愛し愛される大切さを理解する 1) 最初の人間の罪と恵みの問題を捉え神はどう人間を救おうとしているのか理解している 2) 人間と自然、環境の正しいあり方を探り人も自然も守るべきものであることを理解して													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	アブラハム イサク ヤコブの神 アブラハムの召し出し 創世記 12 章								事前 事後 プリントを読む プリントを読む				各30分	
	2	アブラハムとイサクの物語 最大の試し 創世記 22 章								事後 プリントを読む				各30分	
	3	アブラハム イサク ヤコブの神 ヤコブ物語 創世記 25 章 19～34 章								事後 系図プリントを見る				30分	
	4	ヨゼフ物語 創世記 37 章								事後 配布プリントを読む				30分	
	5	ヨゼフ物語 創世記 42 章								事前 事後 プリントを読む プリントを読む				各30分	
	6	救い モーセと出エジプトの物語（1）								事前 事後 プリントを読む プリントを読む				各30分	
	7	救い モーセと出エジプトの物語（2）								事前 事後 プリントを読む プリントを読む				各30分	
	8	救い モーセと出エジプトの物語（3）主の過ぎ越し								事前 事後 プリントを読む プリントを読む				各30分	
	9	救い モーセと出エジプトの物語（4）律法と十戒								事前 事後 プリントを読む プリントを読む				各30分	
	10	神は預言者によって語られた（1）ヨシュア記 士師記 ルツ記								事後 プリントを読む				30分	
	11	待降節とミサについて								事前 事後 プリントを読む プリントを読む				各30分	
	12	クリスマスミサに参加する								事後 配布されたクリスマス絵本を読み感想を書く				60分	
	13	神は預言者によって語られた（2）サムエル記 ダビデ								事後 プリントを読む				30分	
	14	神は預言者によって語られた（3）列王記 ソロモン								事後 プリントを読む				30分	
	15	神は預言者によって語られた（4）イザヤ エレミア								事後 プリントを読む				30分	
成績評価の方法		試験（30％）、提出課題（30％）、授業態度・意欲（20％）、聖園アワー（20％）													
課題のフィードバック		提出されたりアクションペーパー等、読み必要があれば連絡し指導する													
テキスト		フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』（サンパウロ） ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』（ドンボスコ）													
参考文献・資料		授業前に授業で必要なプリント配布													

科目名		くらしと憲法		科目コード		1 FL003		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		桑原 進之輔		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						弁護士である教員が、憲法の内容と基本的な考え方を解説する。									
授業のねらいと概要		憲法の内容と基本的な考え方を、自らの社会生活に根ざしたものとして理解する。													
到達目標		(1) 憲法の基本的な考え方を理解することができる 1) 憲法の意義について理解することができる 2) 憲法の基本原則を理解することができる (2) 人権について理解することができる 1) 自由権の意義、内容について理解することができる 2) 社会権の意義、内容について理解することができる (3) 成人として必要な法的知識を身につける 1) 選挙制度、立法・行政・司法の役割と関係について理解する 2) 刑事裁判制度、消費者としての知識、身分関係の一般的な法的知識を理解する													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○			○	○	○	○							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション 身近な法律関係 日常生活において、法律がどのように機能しているのかを理解する								事前：教科書の該当部分を読んでおく。 事後：身近に法律トラブルが潜んでいないか考える。				各30分	
	2	憲法の意義・歴史 憲法の概要を確認し、その歴史的意義や各法律との関係について理解する								事前：教科書の該当部分を読んでおく。 事後：グループワークの内容を振り返る。				各30分	
	3	幸福追求権 幸福追求権とは何かということについて具体的事例を通して理解を深める								同上				各30分	
	4	法の下での平等 法の下での平等が意味する平等について具体的事例を通して考える								同上				各30分	
	5	内心の自由 内心が制約されていた歴史を踏まえ、内心の自由の不可侵性を理解する								同上				各30分	
	6	表現の自由 表現の自由の重要性、情報の受け手としても保障されていることを理解する								同上				各30分	
	7	経済的自由権 経済的自由権はどのような権利を保障しているかということを説明する								同上				各30分	
	8	人身の自由 刑事手続について説明し、被告人等の基本的人権を保障する意味を考える								同上				各30分	
	9	社会権 生存権や労働権について事例を取り上げ、社会権が保障する内容を説明する								同上				各30分	
	10	国民主権 国民主権の意義を説明し、我々の生活をどのように保障するかを理解する								同上				各30分	
	11	国会・内閣・裁判所 それぞれの権能、三者間の関係について説明し、統治機構の理解を深める								同上				各30分	
	12	地方自治 地方自治の意義について理解を深める								同上				各30分	
	13	平和主義 具体的事例を取り上げながら、憲法 9 条の意味について考える								同上				各30分	
	14	憲法の保障・最高法規性 憲法が国内の最高法規であることの意味、違憲立法審査権について説明する								同上				各30分	
	15	憲法改正 憲法改正の手続を説明し、憲法改正の必要性について考える								同上				各30分	
成績評価の方法		定期試験（80%）、授業参加態度・意欲（20%）													
課題のフィードバック		試験は採点して返却													
テキスト		東裕・杉山幸一編：『Next 教科書シリーズ 日本国憲法』（弘文堂）													
参考文献・資料		各種小六法（ミネルヴァ書房編集部編：『社会福祉小六法』等）													

科目名		日本語の表現ⅠA		科目コード	1FL070	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者		大原 かおり		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					中高(国語)教員免許(専修)を有し現場経験のある教員が、これまでの身に付けてきた日本語の知識や技能を基に社会人・保育者として必要な国語力を解説する。					
授業のねらいと概要		小学校・中学校・高等学校等において身につけてきた国語(日本語)の知識や技能を振り返り、社会人・保育者として、国語を的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を身につける。 講義・演習を通して、自らの言葉の感覚を整え、磨く。								
到達目標		(1) 実社会に必要な国語(日本語)の知識や技能を身につける 1) 正しい表記・文法・敬語・語彙等の基礎知識を身につけ、適切に表現できる 2) 日本語検定3級(高校卒業程度)の合格認定を目指す 3) バランスのよい文字や要点の伝わる文章の書き方を工夫し、適切に表現できる (2) 社会人・保育者としてふさわしい言語能力を身につける 1) 文章や手紙を書く際のマナーを身につける 2) 場にふさわしい表現方法や技術を駆使して、効果的に表現できる								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○		○	○	○	○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション ―授業の説明 保育者に求められる国語力とは					シラバスの授業のねらいなどを確認し、テキストの「はじめに」を読む。 配付資料等を見直す。		60分	
	2	総合演習1 ―日本語検定過去問(4級)解説					検定過去問を解く。 間違ったところを復習する。		60分	
	3	国語力トレーニング ―敬語とは・尊敬語					『ステップアップ〜』の該当項目を見直す。復習する。		60分	
	4	国語力トレーニング ―謙譲語・丁寧語					『ステップアップ〜』の該当項目を見直す。復習する。		60分	
	5	国語力トレーニング ―さまざまな敬語表現					『ステップアップ〜』の該当項目を見直す。復習する。		60分	
	6	国語力トレーニング ―ら抜き表現・さ入れ表現・れたす表現(助動詞)文のねじれ					『ステップアップ〜』の該当項目を見直す。復習する。		60分	
	7	総合演習2 ―日本語検定過去問(3級)解説					検定過去問を解く。 復習する。		60分	
	8	総合演習3 ―日本語検定過去問(3級)解説					検定過去問を解く。 復習する。		60分	
	9	日本語検定6月13日(金)					苦手項目を復習し、全力で検定に臨む。		∞	
	10	日本語表現の基礎 ―話す・聞く 基本編 +α					テキストの該当項目を読む。 配付資料等を見直す。		60分	
	11	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 文字を正しく・美しく1					テキストの該当項目を読む。 配付資料等を見直す。		60分	
	12	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 文字を正しく・美しく2					テキストの該当項目を読む。 美文字目指して練習する。		60分	
	13	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 表記のルール					テキストの該当項目を読む。 配付資料等を見直す。		60分	
	14	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 手紙の書き方					テキストの該当項目を読む。配付資料等を見直して練習する。		60分	
	15	日本語表現の基礎 ―書く 応用編 実習令状などの手紙の書き方					テキストの該当項目を読む。配付資料等を見直して練習する。		60分	
成績評価の方法		日本語検定(50%)、提出課題(40%)、授業参加態度・意欲(10%)								
課題のフィードバック		適宜、点検・添削して返却する。 取り組み状況・到達状況が不十分な場合、やり直しや追加課題、授業時間外補習を実施する。								
テキスト		日本語検定委員会編：『ステップアップ日本語講座 中級』(東京書籍) 篠原京子・増田泉著：『保育者をめざす人のためのことばの表現―話す・聞く・書く』(建帛社)								
参考文献・資料		適宜、提示・配布をする。								

科目名		日本語の表現 I B		科目コード	1FL071	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者		大原 かおり		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					中高(国語)教員免許(専修)を有し現場経験のある教員が、これまでの身に付けてきた日本語の知識や技能を基に社会人・保育者として必要な国語力を解説する。					
授業のねらいと概要		小学校・中学校・高等学校等において身につけてきた国語(日本語)の知識や技能を振り返り、社会人・保育者として実社会に通用する国語の知識や技能を身につけ、言語活動を通して国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を身につける。 講義・演習・表現活動によって自らの言葉の感覚を整え、磨く。								
到達目標		(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける 1) 言葉遣いや文章を書く際のマナーを身につけ、適切に表現できる 2) バランスのよい文字や文章の書き方を工夫し、適切に表現できる 3) 場にふさわしい表現方法や技術を駆使し、効果的に表現できる (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを広げたり深めたりすることができる 1) 情報や自分の考えを整理し吟味することにより論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばすことができる 2) 他者との関わりの中で意見や表現を理解し、伝え合う力を伸ばすことができる								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○		○	○	○	○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション ―授業の説明 1週間日記・漢字ゲームについて					シラバスを見て、授業のねらいと概要・到達目標・評価方法などを確認する。		60分	
	2	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 文章の基本的な書き方 1					テキストの該当項目に目を通す。		60分	
	3	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 文章の基本的な書き方 2					テキストの該当項目に目を通す。		60分	
	4	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 文章の基本的な書き方 3					テキストの該当項目に目を通す。		60分	
	5	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 小論文を書くために					資料をよく読む。		60分	
	6	日本語表現の基礎 ―書く 実践編 小論文を書く 1					小論文の構想を練る。		60分	
	7	日本語表現の基礎 ―書く 実践編 小論文を書く 2					テキストを確認し、よりよい小論文になるよう備える。		60分	
	8	日本語表現の応用 ―読む・話す 『もりのなか』をよむ ディスカッション					資料を読み、概要をつかんでおく。ディスカッションを踏まえて内容を振り返る。		60分	
	9	日本語表現の応用 ―読む・話す 絵本論をよむ 1 ディスカッション					資料を読み、概要をつかんでおく。ディスカッションを踏まえて内容を振り返る。		60分	
	10	日本語表現の応用 ―読む・話す 絵本論をよむ 2 ディスカッション					資料を読み、概要をつかんでおく。ディスカッションを踏まえて内容を振り返る。		60分	
	11	日本語表現の応用 ―書く 小論文振り返り					返却された小論文を見直し、自己の課題を確認する。		60分	
	12	日本語表現の応用 ―書く・描く おべんとう絵本 1					資料を読み、概要をつかんでおく。		60分	
	13	日本語表現の応用 ―書く・描く おべんとう絵本 2					よりよい作品ができるように構想を練る。		60分	
	14	日本語表現の応用 ―書く・描く おべんとう絵本 3					絵本を完成させる。		60分	
	15	日本語表現の応用 ―読む おべんとう絵本発表会 まとめ					見せ方、読み方などをあらかじめ考え、練習する。		60分	
成績評価の方法		提出課題(80%)、授業参加態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック		適宜、点検・添削して返却する。 取り組み状況や到達状況が不十分な場合、やり直しや授業時間外の補習を実施する。								
テキスト		篠原京子・増田泉著：『保育者をめざす人のための ことばの表現―話す・聞く・書く』(建帛社)								
参考文献・資料		適宜、提示・配布をする。								

科目名		保育の英語		科目コード		1FS010		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		大西 絵理香		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						中高（英語）教諭免許を有し幼稚園で子ども向け英語教室を行っている教員が保育現場で使える英語の基礎について指導する。									
授業のねらいと概要		多様化する保育の現場で不可欠となるコミュニケーション能力を養うため、英語による子どもの保育や保護者との対応方法を学ぶ。また、言語知識に加えて異文化間コミュニケーションに必要な配慮を理解し身につける。													
到達目標		(1) 各ユニットで設定された場面を通して保育の現場で使用される英語の知識を理解できる。 (2) さまざまな遊びや日常生活を通して園児の気持ちをくみとり、英語で表現することができる。 (3) 園児の共同生活で想定されるトラブルの対応や、リスク管理に関する基礎的知識を持つ。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○				○	○	○	○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	Unit 1: Self-Introduction & Background Information 初対面時の自己紹介、家庭調査票の英語表記								自己紹介に用いる英文や語彙を確認する				60分	
	2	Unit 2: The Map of a Nursery School 園舎や保育室内のものの英語表現、場所を説明するための表現								園舎内を案内するための英文や語彙を確認する				60分	
	3	Unit 3: Arrival & Things Children Need 登園時や朝の時間に行くこと、登園に必要な持ち物								園児の持ち物を説明するための語彙を確認する				60分	
	4	Unit 4: Indoor & Outdoor Games 子どもの遊びや遊具の英語表現								子どもを遊びに誘う英文や遊びに関する語彙を確認する				60分	
	5	Unit 1-4 のまとめ：園児や保護者との会話想定練習								Unit 1-4 で扱った会話を練習する				60分	
	6	Unit 5: Annual School Calendar & Holidays 園の年間行事と国民の祝日などの英語表現								保育園の年間行事を説明する英文や語彙を確認する				60分	
	7	Unit 6: Feelings & Emotions 子どもの気持ちや感情を表す英語表現								子どもの気持ちを表す形容詞を理解し、英文の中での用法を確認する				60分	
	8	Unit 7: Daily Schedule 保育者の毎日の仕事に関する英語表現								保育園の日課や年齢による日課の違いを説明する語彙を確認する				60分	
	9	Unit 8: Lunchtime 給食やおやつに関する語句、給食の食材や献立の英語表現								子どもに給食やおやつを食べさせる時の声かけ表現を理解する				60分	
	10	Unit 5-8 のまとめ：日常の保育の場面ごとの会話練習								異なる保育の場面を想定した会話で用いる英文を確認する				60分	
	11	Unit 9: Toilet Training 排泄に関する幼児語、トイレトレーニングの英語表現								子どもの排泄やトイレトレーニングに関する専門用語を理解する。				60分	
	12	Unit 10: Dealing with Fights 子どものケンカやトラブルに関する英語表現、身体の部位を表す語句								子どものケンカやトラブルに対処するための声かけ表現を理解する				60分	
	13	Unit 11: Injuries & Illnesses 子どものケガや病気、応急処置に関する英語表現								子どもの体調やけがの具合を英語で確認するための表現を練習する				60分	
	14	Unit 12: Graduation 卒園に関する英語表現、祝福や感謝で用いる表現								卒業行事の際に子どもや保護者に声かけする表現を確認する				60分	
	15	Unit 9-12 のまとめ：保育の中で想定されるトラブルやリスク管理を英語で行う表現								保育の中で想定される緊急時に英語で対応するための表現を確認する				60分	
成績評価の方法		定期試験（70％、授業プリントから出題）、レポート（20％、英語での自己紹介や英語を用いた保育）、授業プリント提出（10％、授業終了後に提出）													
課題のフィードバック		授業プリントは点検した後に翌回の授業で返却する。レポートは評価をつけてから返却する。													
テキスト		宮田学編、高橋妙子著：「保育英語の練習帳2」（萌文書林）													
参考文献・資料		咲間まり子 編：「多文化保育・教育論」（みらい） 山田千明編著：「多文化に生きる子どもたち」（明石書店）													

科目名		体育講義		科目コード		1FL072		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		内藤 裕子		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性															
授業のねらいと概要		・「健康」というものを理解し、その知識を生かす力を学ぶ。 ・スポーツやレクリエーションの位置づけを理解し、楽しみ方や技能を把握する。													
到達目標		(1) 健康を多角的にとらえ、日々の生活にいかすことができる。 (2) スポーツの意義を理解し、生涯にわたってその楽しみに関わることができる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性							
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容							事前・事後学習			時間			
	1	オリエンテーション							予習・復習に関する資料を確認する			各30分			
	2	健康の定義について							〃			各30分			
	3	健康をめぐる現状と課題について							〃			各30分			
	4	健康と食の関係							〃			各30分			
	5	健康と睡眠の関係							〃			各30分			
	6	健康と運動の関係							〃			各30分			
	7	セロトニン							〃			各30分			
	8	ダイエット							〃			各30分			
	9	体力について							〃			各30分			
	10	スポーツの意義							〃			各30分			
	11	生涯スポーツ							〃			各30分			
	12	みるスポーツ・支えるスポーツ							〃			各30分			
	13	生活習慣の見直し							〃			各30分			
	14	健康と体力の関係性							〃			各30分			
	15	まとめ（「健康の定義」の再確認）							〃			各30分			
成績評価の方法		提出課題（30％）、レポート（30％）、授業参加態度（40％）													
課題のフィードバック		授業内容と得た知識についての感想を添削して返却する。													
テキスト															
参考文献・資料		必要に応じて、提示する													

科目名		体育実技		科目コード		1FT012	必修・選択	必修	授業形態	実技
担当者		内藤 裕子		担当形態		単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性										
授業のねらいと概要		・さまざまなスポーツを経験することで、その技術をみがく。 ・生涯にわたって、スポーツやレクリエーションに親しめる能力を身につける。								
到達目標		(1) スポーツの重要性や意義についての知識を習得する。 (2) 自分自身の体力強化について意識することができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○	○	○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	オリエンテーション						予習・復習に関する資料を確認する		各30分
	2	からだほぐし運動 1 （ストレッチ・基礎的な運動）						〃		各30分
	3	からだほぐし運動 2 （レクリエーション）						〃		各30分
	4	創作ダンス 1 （ダンスの楽しさを理解する）						〃		各30分
	5	創作ダンス 2 （クラス対抗パフォーマンスのための準備）						〃		各30分
	6	創作ダンス 3 （クラス対抗パフォーマンスのための創作活動）						〃		各30分
	7	創作ダンス 4 （発表）						〃		各30分
	8	ラジオ体操の習得 1 （内容の確認）						〃		各30分
	9	ラジオ体操の習得 2 （指導法）						〃		各30分
	10	バレーボール ゲーム 1 （技術習得）						〃		各30分
	11	バレーボール ゲーム 2 （ゲーム）						〃		各30分
	12	ドッジボール バスケットボール 1 （技術習得）						〃		各30分
	13	ドッジボール バスケットボール 2 （ゲーム）						〃		各30分
	14	レクリエーション 少人数用						〃		各30分
	15	レクリエーション 多人数用						〃		各30分
成績評価の方法		提出課題（30％）、実技発表（30％）、授業参加態度（40％）								
課題のフィードバック		授業内容と得た知識についての感想を添削して返却する。								
テキスト		なし								
参考文献・資料		必要に応じて、提示する								

科目名		情報処理Ⅰ		科目コード		1FL073		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		大島 加奈子		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						情報処理に関する各種資格を有す教員が、業務で培った情報処理の技能を生かし、アプリケーションの操作やITリテラシーなど、情報処理の基礎から応用までを指導する。									
授業のねらいと概要		ITリテラシーを習得するため、パソコンの基礎からインターネットの活用、セキュリティまで実習を通して学ぶ													
到達目標		(1) 現代社会の必須技能である「読み・書き・パソコン」を学び、ITリテラシーを高める 1) 文書作成アプリを活用し、適切な文書を作成することができる 2) 表計算アプリを活用し、分かりやすい資料を作成することができる 3) プレゼンテーションアプリを活用し、分かりやすい資料を作成することができる (2) 個人データの取り扱いや情報倫理の重要性を理解する 1) 電子データの共有によるメリット・デメリットを理解できる 2) インターネット (SNS等の利用含む) の取り扱いの注意点を理解できる 3) SNSなどの情報の取り扱い、セキュリティの注意点を理解できる													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
				○	○	○	○	○	○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	ガイダンス 本学パソコン室の機器の使用法注意点を説明 情報倫理の重要性を学ぶ (個人情報保護の重要性について学ぶ)								事後：履修した部分の教科書を読み、ノートにまとめておく				60分	
	2	パソコン機器の基礎的な操作法の取得 確実なタイピング技術の基礎の取得								事後：タイピング、パソコンの基本操作を練習				60分	
	3	文書作成アプリ (Word) の機能と操作を学ぶ								事後：タイピング、教科書の練習問題の作成				60分	
	4	1) 「保護者への書類」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ								事後：タイピング、教科書の練習問題の作成				60分	
	5	2) Wordの表・図形・画像機能を活用して、「イラストの入ったおたより」の作成技法を学ぶ								事後：タイピング、配布したビジネス文書を作成				60分	
	6	3) インデント・タブ機能を活用して、「卒園式のご案内」を作成し、印刷まで学ぶ								事後：履修した機能を確認し、わからない機能を復習する				60分	
	7	4) 宛名ラベルの機能を活用して、差し込み印刷を理解する。								事後：履修した四則演算を復習、練習問題を作成				60分	
	8	表計算アプリ (Excel) の機能と操作を学ぶ								事後：Wordとの違いを確認し、練習問題の表を作成する				60分	
	9	1) 表計算アプリの基本、四則演算を理解する								事後：教科書の練習問題を作成し、苦手な部分を確認				60分	
	10	2) 「物品購入申請書」の作成を通して、表作成の作成技法を学ぶ								事後：履修した関数・表示形式を復習し、表作成をする				60分	
	11	3) オートフィル、シートの複写などの機能を使用し「写真購入申込集計表」の作成を学ぶ								事後：自己紹介のスライドにアニメーションをつける				60分	
	12	4) 「園児名簿」の作成を通して、表示形式の技法を学ぶ								事後：履修した著作権について、教科書を読みノートにまとめておく				60分	
	13	プレゼンテーションアプリ (PowerPoint) の機能と作成方法を学ぶ								事後：履修した紙芝居を作成し、動画にする				60分	
	14	1) 「自己紹介スライド」の作成を通して、基本的なスライドの作成技法を学ぶ								事後：履修した紙芝居を作成し、動画にする				60分	
	15	2) 著作権に配慮した、オンライン画像の使い方を理解する。 3) SmartArt機能を使用し、フローチャートの作成技法を学ぶ 4) プレゼンテーションから動画のスライド作成技法を学ぶ								事後：セキュリティ・個人情報について、ノートにまとめておく				60分	
成績評価の方法		提出課題 (80 %)、授業態度・意欲 (20 %)													
課題のフィードバック		提出された課題に対し、コメント等を記入し返却。 なお、ビジネスマナーや計算式等の修正が必要な場合は期限内での再提出とする。													
テキスト		渡邊 裕 編：『これからの保育のためのICTリテラシー＆メディア入門』(株式会社みらい)													
参考文献・資料		自作のプリントを作成し配布する													

科目名		児童文学		科目コード	1FL074	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者		大原 かおり		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					中高(国語)教諭免許(専修)を有する教員が、児童文学の一分野でもある絵本学の観点から絵本に関する領域の基礎知識や理論を解説する。					
授業のねらいと概要		児童文学のジャンルの一つでもある絵本分野を「絵本学」という観点から、絵本に関するさまざまな領域についての基礎知識や理論を学ぶ。 児童文化財である絵本をさまざまな角度から捉えることにより、絵本についての造詣を深め、絵本選びや読み聞かせなどの実践につなげる。								
到達目標		(1) 絵本の基本事項について体系的に学ぶ 1) 絵本の歴史・機能・読者・種類について理解する 2) 絵本作品をよみ、それぞれの特色を理解する (2) 絵本の視読解を通して、さまざまな表現やその効果を理解する 1) 絵とテキスト(ことば)の表現機能・相乗効果について理解する 2) 用途や目的に合わせた絵本選びができる 3) 自分の考察をまとめ、発表することができる								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○	○	○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション 児童文学・絵本学とは —さまざまな絵本の見方、絵本の基礎概念					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	2	絵本の歴史 1 —世界の絵本の歩み					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	3	絵本の歴史 2 —日本の絵本の歩み					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	4	絵本のテキスト 1 —現代の絵本、主題の多様化、表現の可能性					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	5	絵本のテキスト 2 —文の機能と絵の機能					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	6	絵本のテキスト 3 —画面展開と描写の技法、絵本の視覚表現、色彩表現、時間と空間の表現、 絵本の画材と技法					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	7	絵本の読み合い・読み聞かせ、絵本の選び方 絵本と読者 1 —赤ちゃん絵本、幼児と絵本					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	8	美術館等施設見学(予定)					見学要項を確認しておく。 見学レポートをまとめる。		60分	
	9	絵本と読者 2 —障害者と絵本、小中学生と絵本					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	10	絵本の種類 1 —創作(物語)絵本					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	11	絵本の種類 2 —さまざまなジャンルの絵本					あらかじめテキストと絵本に目を通して おく。講義内容をノートなどにまとめる。		60分	
	12	個人研究 1 —研究の仕方、テーマ・作品について					あらかじめ研究対象となる作品の候補 や研究に必要な参考文献を探す。		60分	
	13	個人研究 2 —研究テーマ・作品決め					改めて研究対象となる作品の候補を 読む。研究に必要な内容をまとめる。		60分	
	14	個人研究 3 —調査・研究、資料作り					研究資料に発表内容をまとめる。		60分	
	15	個人研究発表会 まとめ					効果的な説明ができるよう発表の練習 をしておく。発表を振り返り、課題をみつ ける。		60分	
成績評価の方法		提出課題(50%)、研究発表・レポート(30%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック		適宜、点検・添削して返却する。								
テキスト		生田美秋・石井光恵・藤本朝巳 編著：『ベーシック絵本入門』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料		適宜、提示・配布をする。								

科目名		子ども文化		科目コード	1FL007	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者		内藤 裕子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性										
授業のねらいと概要		・ 子どもを取り巻く社会の変化の中で子ども文化の重要性と課題について理解する。 ・ あそびを通して幼児の表現とその発達について理解する。								
到達目標		(1) 児童文化の意味を理解し、知識を習得することができる。 (2) 保育においての文化財について学び、役立てる技能を身につける。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○	○	○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション					予習・復習に関する資料を確認する		各30分	
	2	子どもを取り巻く環境を考える					〃		各30分	
	3	こどもとあそびの関係					〃		各30分	
	4	創作活動（演劇に挑戦）1（演劇の魅力について）					〃		各30分	
	5	創作活動（演劇に挑戦）2（パフォーマンスと何か）					〃		各30分	
	6	創作活動（演劇に挑戦）3（グループ分け・話し合い）					〃		各30分	
	7	創作活動（演劇に挑戦）4（構成・効果音・動作・姿勢について）					〃		各30分	
	8	創作活動（演劇に挑戦）5（ギャラリーの心理を探る）					〃		各30分	
	9	創作活動（演劇に挑戦）6（視線、発声等の技術の確認）					〃		各30分	
	10	創作活動（発表）1（途中経過の発表・考察）					〃		各30分	
	11	創作活動（発表）2（本番）					〃		各30分	
	12	伝承あそび（けん玉、おはじき）					〃		各30分	
	13	伝承あそび（うたあそび）					〃		各30分	
	14	伝承あそび（おりがみ）					〃		各30分	
	15	まとめ（「あそびと文化の関連性」の再確認）					〃		各30分	
成績評価の方法		提出課題（30％）、実技発表（30％）、授業態度・意欲（40％）								
課題のフィードバック		授業内容と得た知識についての感想を添削して返却する。								
テキスト		なし								
参考文献・資料		必要に応じて配布する								

科目名		ボランティア活動		科目コード	1 FL 008	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者		藤原 法生		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1 年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					福祉に関する資格を有し専修学校で指導経験のある教員が、ボランティア活動の意義や実践について指導する。					
授業のねらいと概要		ボランティア活動の原理や歴史的変遷を踏まえて、ボランティア活動の意義を理解する。 社会や自身の成長に資するボランティア活動の必要性を理解する。 講義のほか、体験学習やグループワーク等を行い、ともに考えながら具体的な学びができる授業構成とする。								
到達目標		(1) ボランティア活動の意義について理解している (2) ボランティア活動を行う組織とそれを支援する組織について理解している (3) ボランティア活動の領域について理解している (4) 福祉教育について理解している								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○		○				○		○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	ボランティア活動の基礎 ボランティアとはなにか（グループワーク）					事前：ボランティアの定義について検討しておく 事後：グループワークの振り返りをする		90分	
	2	ボランティア活動の基礎 地域における活動（清掃活動体験）					事後：活動の振り返りをする		60分	
	3	ボランティア活動の基礎 清掃活動体験の振り返り（グループワーク）、「招福狐の行列」事前説明					事後：グループワークの振り返りをする		60分	
	4	ボランティア活動の基礎 通町商店街「招福狐の行列」運営スタッフ活動【10月11日（土）】					事前：活動内容を確認する		30分	
	5	ボランティア活動の基礎 通町商店街「招福狐の行列」運営スタッフ活動【10月11日（土）】								
	6	ボランティア活動の基礎 通町商店街「招福狐の行列」運営スタッフ活動【10月11日（土）】					事後：活動の振り返りをする		60分	
	7	ボランティア活動の基礎 地域課題の情報収集（グループワーク）					事前：地域課題について情報収集する 事後：グループワークの振り返りをする		90分	
	8	ボランティア活動の基礎 地域における活動（地域課題探索活動）					事後：活動の振り返りをする		60分	
	9	ボランティア活動の基礎 地域課題探索の振り返り（報告会）					事後：報告会の振り返りと課題解決方法について検討する		60分	
	10	ボランティア活動の基礎 地域課題探索の振り返り（課題解決方法の検討）（グループワーク）					事後：グループワークを踏まえ、課題解決方法についてさらに検討する		60分	
	11	ボランティア活動の基礎 地域課題探索の振り返り（課題解決方法の検討）（グループワーク）					事後：グループワークを踏まえ、課題解決方法についてさらに検討する		60分	
	12	ボランティア活動の基礎 地域課題探索の振り返り（課題解決方法の検討）（報告会）					事後：報告会の振り返りをする		60分	
	13	ボランティア活動の原理 自発性、主体性、社会性					事後：ノートを読み、学習内容を再確認する		60分	
	14	ボランティア活動の原理 無償性、創造性・開拓性・先駆性					事後：ノートを読み、学習内容を再確認する		60分	
	15	まとめ ボランティアの定義の再検討、ボランティア活動の展望					事後：全体の学習内容を再確認する		60分	
成績評価の方法		提出課題・レポート等（60％）、授業への参加態度・提出課題（40％）								
課題のフィードバック		提出課題やレポートは、評価を付して返却する								
テキスト		なし								
参考文献・資料		柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編：『ボランティア論』（みらい） 安藤雄太 監修：『ボランティアまるごとガイド』（ミネルヴァ書房） その他、必要に応じて提示する								

科目名		自然科学入門		科目コード	1FL075	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者		田口 瑞穂		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1 年 ・ 後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					小学校および中学校理科の教員専修免許状を有し、学校現場において指導経験のある教員が授業を行う。					
授業のねらいと概要		授業のねらいは、身近な自然の事物・現象について実感を伴った理解を深め、科学的な思考方法を身につけ、科学的に探究しようとする態度や自然を愛する心情を養うことである。授業は講義、観察・実験等の演習、学生同士の討議などからなり、知識や技能、思考力や判断力、表現力等を養う。								
到達目標		(1) 自然の事物・現象から課題を見つけ、それを解決するための基本的な知識・技能を修得する。 (2) 科学的な思考方法について学び、得られたデータの解釈の方法を理解する。 (3) 身近な自然の事物・現象について興味・関心をもち、進んで探究しようとする。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○		○		○	○	○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	「身近な生物」 生物の分類方法に基づいて身近に見られる動植物を分類するとともに、その生態を理解する。					事後：内容のまとめと発展		120分	
	2	「日本人の自然観」 日本の地理的、地学的特徴から育まれた日本人の自然観について寺田寅彦から学び、理解する。					事後：レポート課題		120分	
	3	「身近な動物」 身近に見られる動物について、その特徴を調べたり人のくらしとの関連について調べたりして、理解を深める。					事前：動物の定義 事後：身近な動物の同定		120分	
	4	「身近な植物」 身近に見られる植物について、その特徴を調べたり人のくらしとの関連について調べたりして、理解を深める。					事前：植物の定義 事後：レポート課題		120分	
	5	「雲の科学」 雲の特徴やその成因を気象現象と関連付けて理解するとともに、写真撮影した雲をもとに分類する活動を通じて理解を深める。					事前：雲の撮影と同定 事後：雲の観察		120分	
	6	「石の科学」 石や岩石の特徴を見出したり分類したりする活動を通じて、その成因と関連付けながら理解を深める。鉱物についても理解する。					事前：石の採取と同定 事後：鉱物に関する復習		120分	
	7	「水の中の小さな生物」 田んぼや池などの身近な水中で見られる小さな生き物の観察を通して、水中の生物とその生態を理解する。					事前：水棲生物の予習 事後：復習と発展学習		120分	
	8	「キッチン科学」 アントシアニンを含む植物の汁を用いて水溶液の分類を行う。これを通して、実験技能や科学的な見方・考え方を身につける。					事前：水溶液の準備 事後：中間のまとめのレポート		120分	
	9	「磁石の科学」 磁石を用いた様々な実験を通して磁石の性質等を理解し、身の回りでどのように利用されているのかを考える。					事前：磁性体の準備 事後：身の周りの磁気利用		120分	
	10	「科学の方法」 科学的なものの見方や考え方（アブダクション（仮説の設定））を、問題解決の演習（ディスカッション）を通じて理解する。					事後：内容のまとめ		120分	
	11	「星の世界」 天体や宇宙に関する知識を理解するとともに、星座等の文化的側面や人のくらしとのかかわりについて知る。					事前：太陽系について予習 事後：星空（天体）観察		120分	
	12	「雪の科学」 雪の結晶を観察・撮影するとともに、結晶ができる仕組みを理解する。また、冬の気象の特徴と降雪について理解を深める。					事前：冬の気圧配置 事後：雪の観察		120分	
	13	「秋田県其自然と自然災害」 秋田県の地形や生態系について理解する。また、過去に起きた自然災害から、防災や減災について考える。					事前：秋田県の地形 事後：自然災害伝承碑		120分	
	14	「音の科学」 身の回りの様々な音を出すものを用いて、音が出る仕組みや音色について学ぶ。また、波の周期や波長等について理解を深める。					事前：音を出すものの準備 事後：期末のまとめのレポート		120分	
	15	「人間と環境」 自然界におけるさまざまなかわりや循環を考えたり、人のくらしと環境との関わりを考えたりする。					事前：環境問題の予習 事後：内容のまとめ		120分	
成績評価の方法		レポート 90 点、授業における主体的な取り組み等 10 点の、計 100 点で評価する。 レポート課題をすべて提出することを、単位認定の条件とする。								
課題のフィードバック		提出されたレポートはすべて返却を行う。レポートには適切な評価等の書き込みを行い、必要に応じて返却時にアドバイスをを行う。								
テキスト		なし								
参考文献・資料		寺田寅彦（1948）「日本人の自然観」 その他、授業の中で紹介する。								

科目名		音楽の理論と合奏		科目コード	1ES017	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		東海林 美代子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					音楽教室の講師やコンサート活動を主催・参加するなど現場経験のある教員が、子どもの音楽表現活動を支えるための音楽の基礎理論を指導する。					
授業のねらいと概要		子どもの音楽表現活動を支えるために必要な音楽の基礎理論を学び、楽譜を理解できるようにする。 子どもが表現しやすい簡易楽器の基礎的奏法を習得し、全体及びグループでの合奏体験を通して表現する楽しさを味わう。								
到達目標		(1) 音符や休符、拍と拍子、音名、リズム、記号等、楽譜に書かれている要素を理解できる。 (2) 音程や調について理解し、＃3個・♭2個までの長音階が弾け、書くことができる。 (3) 基礎的なコードについて理解し、演奏することができる。 (4) 簡易楽器の奏法を習得し、さらにミュージックベル等の合奏を楽しむことができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	授業内容と進め方、評価方法について 保育における表現活動と音楽の役割 自己紹介					シラバスを読み準備を整える		20分	
	2	写譜により楽譜に書かれている様々な要素に気づく 音符と休符 速度記号 奏法記号 音楽用語等 リズム打ち					ピアノテキストを見て復習をする 音楽用語は覚えることが望ましい		60分	
	3	楽譜に書かれている様々な要素について 拍と拍子 小節 音名 変化記号 リズム打ち							60分	
	4	全音と半音 音程(1) 数え方と種類 リズム打ち 幼児が使用する楽器の特徴 器楽合奏「おどろう楽しいポーレチケ」					授業のノートを活用して十分に復習する		60分	
	5	確認テスト(全音と半音) 音程(2) 完全音程 器楽合奏「おどろう楽しいポーレチケ」 リズム打ち							60分	
	6	音程(3) 長音程と短音程 マリンバ演奏体験「チョップスティックス」 リズム打ち							60分	
	7	音程(4) まとめと確認テスト 音階(1) いろいろな音階 マリンバ演奏体験「チョップスティックス」 リズム打ち							60分	
	8	音階と調(2) 長音階(ハ長調、ト長調、ニ長調、イ長調) リズム打ち					授業のノートを活用して十分に復習する		60分	
	9	確認テスト(音名) 音階と調(3) 長音階(ヘ長調、変ロ長調) 音階と調(4) 調と主音、主和音(まとめ) リズム打ち							60分	
	10	確認テスト(調と主音、主和音) 演習テスト(長音階上行形を弾く) コード(1) コードの仕組みとコードネーム 主和音と調 リズム打ち					長音階は上行形のみ、右手で間違えずに弾けるまで練習する		60分	
	11	コード(2) いろいろなコード、ハ長調のコードと主要三和音 コード進行(I－IV－I、I－V7－I、I－IV－V7－I) リズム打ち					「きらきら星」は右手、左手のコード伴奏、両手の順で練習する 4つの調で同様に、間違えずに弾けるまで練習する		60分	
	12	コード(3) ハ長調・ニ長調のコードと主要三和音 「きらきら星」のコード進行 リズム打ち							60分	
	13	コード(4) ト長調・ヘ長調のコードと主要三和音 「きらきら星」のコード進行 ミュージックベル・トーンチャイム合奏 リズム打ち							60分	
	14	コード(5) 「きらきら星」を4つの調で弾く ミュージックベル・トーンチャイム合奏 リズム打ち							60分	
	15	コード(6) 演習テスト「きらきら星」を4つの調で弾く ミュージックベル・トーンチャイム合奏 授業評価							60分	
成績評価の方法		授業態度・プリント課題・確認テスト(60%)、実技発表・演習テスト(40%)								
課題のフィードバック		毎回課題プリントを配布する。翌週の授業内で自身で採点したものを回収・確認し、さらに翌週に返却する。確認テストは回収・採点し返却する。								
テキスト		なし(必要に応じてプリントを配布する) 五線ノート、プリント保管用ファイルホルダー、鍵盤ハーモニカを各自準備すること								
参考文献・資料		東京福祉保育専門学校編：『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 神原雅之・鈴木恵津子編著：『改訂 幼児のための音楽教育』(教育芸術社)								

科目名		声楽ⅠA		科目コード		1ES079		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		櫻庭 優佳		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						小学校、中・高（音楽）教諭免許を有し、またプロの音楽家でもある教員が歌唱に関する基礎的な知識・技能を指導する。									
授業のねらいと概要		「歌うこと」は多くの子どもにとって最も身近な音楽表現方法である。幼児教育者として必要な、歌唱に関する基礎的な知識と技能を身につけるとともに、音楽を積極的に楽しむ心と感性を養う。本学の行事等で演奏する聖歌や季節を感じる日本の歌などを合唱や少人数アンサンブルで演奏し、音楽体験を積み重ねることで、音楽への興味・関心を高め、理解を深める。													
到達目標		(1) 音楽の三要素（リズム・メロディー・ハーモニー）を理解し、歌唱することができる 1) 正しい音程・リズムについて理解することができる 2) 少人数アンサンブルや合唱などにおいて、2声以上のハーモニーを演奏することができる 3) リズム・メロディー・ハーモニーの正確さを心がけ演奏しようと努めることができる (2) 歌にとっての良い発音や良い姿勢・表情について理解し、歌うことの楽しさや喜びを感じながら意欲的に取り組もうとする 1) 姿勢や表情に気を付け、良い発声で歌唱しようと努めることができる 2) 歌う体験を積み重ねていく中で、その楽しさや喜びを味わおうと努めることができる 3) 音楽の楽しさや美しさを周りの人と分かち合うことができる													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
			○	○		○			○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション／事前学習課題のチェック方法説明 音楽の三要素について								シラバスの精読 音楽の事前課題の練習				60分	
	2	事前学習課題「音楽の課題」の取り組みチェック（実技） 歌の課題について個々の取り組みを確認する								音楽の事前課題の練習				60分	
	3	ソルフェージュ・リズム① 2拍子、4拍子などの拍子を理解し、リズム打ちに取り組む								リズムプリント①の復習と練習				60分	
	4	ソルフェージュ・リズム② 3拍子などの拍子を理解し、リズム打ちに取り組む								リズムプリント②の復習と練習				60分	
	5	ソルフェージュ・リズム③ 6拍子などの拍子を理解し、リズム打ちに取り組む								リズムプリント③の復習と練習				60分	
	6	ソルフェージュ・リズム④ ミニテスト（実技） リズム打ちのミニテストを行い、拍子やリズムについての理解を深める								リズムプリント①～③の復習と練習				60分	
	7	ミサ曲・聖歌 み心のミサにむけて① 1番「あわれみの賛歌」に取り組む								「あわれみの賛歌」のメロディーの譜読みと復習				60分	
	8	ミサ曲・聖歌 み心のミサにむけて② 1番「あわれみの賛歌」の合唱に取り組む								「あわれみの賛歌」のアルトパートの譜読みと復習				60分	
	9	ミサ曲・聖歌 み心のミサにむけて③ 2番「栄光の賛歌」の合唱に取り組む								「栄光の賛歌」の譜読み				60分	
	10	ミサ曲・聖歌 み心のミサにむけて④ 3番「感謝の賛歌」の合唱に取り組む								「感謝の賛歌」の譜読み				60分	
	11	季節の歌 春・夏（グループワーク）① 8人程度のグループ毎に4月～8月の歌から演奏する曲について相談し、選曲する								テキスト4～8月の歌の歌唱練習				60分	
	12	季節の歌 春・夏（グループワーク）② グループ毎に選曲した曲について練習に取り組む								選んだ歌の発展的練習				60分	
	13	季節の歌 春・夏（グループワーク）③ グループ毎に選曲した曲について身体表現を加えながら練習を深める								グループ活動に向けての準備 発表に向けてのグループ練習				60分	
	14	季節の歌 春・夏（グループワーク）④ 発表 グループ毎に発表し、互いの演奏から学び合う								発表に向けての発展的練習				60分	
	15	声楽ⅠAのまとめ 【ミニテスト（筆記）】 4～8月の歌についてミニテストを行い、知識・理解を深める								これまで学習してきた内容について しっかり確認し試験に備える				60分	
成績評価の方法		事前課題への取り組み（実技）（10％）、ミニテスト（リズム打ち・筆記）（20％）、発表（授業内での演奏発表）（20％）、授業態度・意欲（提出物、練習やグループ活動の参加態度など）（50％）													
課題のフィードバック		実技の習得は毎時間がフィードバックの連続です。授業者からの指導、助言が演奏の向上に生きるよう、互いに良い集中力の中で楽しく学んでいきましょう。評価の観点・ポイントはその都度明確にお伝えします。ミニテストは採点したのち返却します。													
テキスト		神原雅之 鈴木恵津子 編著：改訂『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 「聖歌集『神をたたえて』（聖園学園短期大学）」													
参考文献・資料		東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社） その他、その都度提示や紹介・配布をする													

科目名		声楽ⅠB		科目コード	1ES080	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		櫻庭 優佳		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					小学校、中・高（音楽）教諭免許を有し、またプロの声楽家でもある教員が歌唱に関する基礎的な知識・技能を指導する。					
授業のねらいと概要		「歌うこと」は多くの子どもにとって最も身近な音楽表現方法である。「声楽ⅠA」に引き続き、幼児教育者として必要な歌唱に関する基礎的な知識と技能を身につけるとともに、音楽を積極的に楽しむ心と感性を養う。本学の行事等で演奏する聖歌などを合唱や少人数アンサンブルで演奏したり、季節の歌や子どもの歌の特徴を捉えながら表現したりする音楽体験を積み重ねることで、音楽への興味・関心をさらに高め、理解をより深める。								
到達目標		(1) 様々な曲の特徴を理解し、歌唱することができる 1) わらべうたや絵描き歌の特徴を捉え、歌唱表現することができる 2) 2声以上のハーモニーの少人数アンサンブルや合唱をすることができる 3) リズム・メロディー・ハーモニーの正確さを心がけ演奏しようと努めることができる 4) ラテン語の発音や意味に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる (2) 歌にとっての良い発音や良い姿勢・表情について理解し、歌うことの楽しさや喜びを感じながら意欲的に取り組もうとする 1) 姿勢や表情に気を付け、良い発声で歌唱しようと努めることができる 2) 歌う体験を積み重ねていく中で、その楽しさや喜びを味わおうと努めることができる 3) 音楽の楽しさや美しさを周りの人と分かち合うことができる								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○		○			○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	あそびうた① わらべうたについて知り、その特徴等について理解する					シラバスの精読 テキスト「わらべうた」の通読		60分	
	2	あそびうた② わらべうたあそびを実践できるように習得する					ワークシートの復習 わらべうたあそびの練習		60分	
	3	あそびうた③ 絵描き歌について知り、その特徴等について理解する					ワークシートの復習		60分	
	4	あそびうた④ 絵描き歌あそびを実践できるように習得する					絵描き歌あそびの練習		60分	
	5	ミサ曲・聖歌 クリスマス・ミサに向けて① 26番「しずけき」、29番「もろびとこぞりて」に取り組む					「しずけき」「もろびとこぞりて」の譜読みと練習		60分	
	6	ミサ曲・聖歌 クリスマス・ミサに向けて② 28番「あめのみつかいの」に取り組む					「あめのみつかいの」の譜読みと練習		60分	
	7	季節の歌 秋・冬① テキスト掲載の9月・10月の歌について取り組む					9月と10月の歌の練習		60分	
	8	季節の歌 秋・冬② テキスト掲載の11月・12月の歌について取り組む					11月と12月の歌の練習		60分	
	9	アルカデルト作曲Ave Maria① Ave Mariaについて、成り立ちや意味について理解する					ワークシートの復習		60分	
	10	アルカデルト作曲Ave Maria② Ave Mariaについて、ラテン語の歌詞について理解し、発音を習得する					ワークシートの復習 ラテン語の発音練習		60分	
	11	アルカデルト作曲Ave Maria③ ソプラノ（メロディー）に取り組み、習得する					ソプラノパート（メロディー）の練習		60分	
	12	アルカデルト作曲Ave Maria④ アルトパートを習得し、2声の合唱ができるよう練習に取り組む					アルトパートの練習		60分	
	13	アルカデルト作曲Ave Maria⑤（グループワーク） 少人数グループ毎に2声のアンサンブルができるよう練習に取り組む					個人練習とグループ練習		60分	
	14	アルカデルト作曲Ave Maria⑥（グループワーク）【実技試験】 少人数アンサンブルと1フレーズ独唱を発表し、互いの演奏から学び合う					試験に向けての歌唱練習 振り返りと感想の記録		60分	
	15	声楽ⅠBのまとめ 【ミニテスト（筆記）】 わらべうた、絵描き歌、Ave Maria、9～12月の歌についてミニテストを行い、知識・理解を深める					これまで学習してきた内容について しっかり確認し試験に備える		60分	
成績評価の方法		試験（授業内での実技試験・発表）（40％）、ミニテスト（筆記）（20％）、 授業態度・意欲（提出物、練習やグループ活動の参加態度など）（40％）								
課題のフィードバック		実技の習得は毎時間がフィードバックの連続です。授業者からの指導、助言が演奏の向上に生きるよう、互いに良い集中力の中で楽しく学んでいきましょう。評価の観点・ポイントはその都度明確にお伝えします。ミニテストは採点したのち返却します。								
テキスト		神原雅之 鈴木恵津子 編著：改訂『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 「聖歌集『神をたたえて』（聖園学園短期大学）」								
参考文献・資料		東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社） その他、その都度提示や紹介・配布をする								

科目名		音楽表現ⅠA（ピアノ）		科目コード	1ES083	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		東海林 美代子他 8 名		担当形態	クラス分け	単位数	1	学年 期間	1 年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					ピアノ教室を主宰するなど、様々な音楽活動を行っている教員が、ピアノの基礎について指導する。					
授業のねらいと概要		幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。1 時間に 4 名程度で個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。入学時にすでに長期にわたるレッスン受講歴があり、基礎的な演奏技術を習得していると考えられる学生には、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる。								
到達目標		(1) テキストの「バイエル練習曲」に取り組み、音名、運指、リズム、諸記号を理解し演奏できる。 (2) テキストSTEP1「バイエル 45 番」以降の 10 曲に取り組み、クリアしたうえで 1 曲を暗譜で演奏できる。 (3) 他者の演奏を聴くことにより楽曲への理解を深め、様々な楽曲を通して各楽曲の特徴を感じ取り、表現力の向上につなげようとする。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	入学前課題「ピアノ」について、個々の取り組み状況を確認し評価する 次回までの課題を各自に課す						毎回課題を弾けるようになるまで十分に練習し授業に臨むこと 練習については、プリントも活用しながら毎日 1 時間程度行ってください レッスンの時には爪は清潔な長さとし、手指のアクセサリも外してください		60分
	2	初級			中級以上（長期の経験者）					60分
	3									60分
	4	テキストSTEP1 の「バイエル練習曲」に取り組む		テキストSTEP1 の「バイエル練習曲」に取り組む		60分				
	5	プリントも活用しながら読譜や両手奏に慣れる		STEP1 終了後は 2 へ進む		60分				
	6	スムーズな運指になるように、繰り返し練習曲に取り組む				60分				
	7					60分				
	8	実技試験（中間） 複数の指導担当者により前期前半の取り組みを確認し演奏を評価する					60分			
	9	引き続きSTEP1 の「バイエル練習曲」に取り組む		引き続き「バイエル練習曲」に取り組む		60分				
	10	引き続きプリントも活用する		STEP3 の「バイエル練習曲」終了後は「ブルクミュラー練習曲」に進む		60分				
	11	強弱等の音楽記号、音楽用語を理解し、フレージングの意識を持って演奏する				60分				
	12	楽曲の構成や特徴を感じ取る				60分				
	13	試験に向け 1 曲を指導担当者との協議により選曲し、暗譜で演奏できるようにする		試験に向け 1 曲を指導担当者との協議により選曲し、暗譜で演奏できるようにする		60分				
	14					60分				
	15	夏休み期間の課題を確認する		夏休み期間の課題を確認する		60分				
成績評価の方法		実技試験（50％）、授業参加態度・毎回の授業に向けた取り組み（50％） 期末の実技試験はクラス単位で行う。全員の前で 1 曲を暗譜で演奏し聴き合う公開形式とする。								
課題のフィードバック		毎回レッスンにより一人一人の指導を行う。互いにレッスンを聴き合うことが自らの学びにも生かされる。 個々の経験の有無や進度・能力に応じたレッスンのため、内容や進め方が異なる場合がある。								
テキスト		東京福祉保育専門学校編：『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社） 上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する。								
参考文献・資料		内藤雅子・森本琢郎共著：『ビギナーのためのハノン』（ドレミ楽譜出版社）								

科目名		音楽表現ⅠB(ピアノ)		科目コード	1ES084	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		東海林 美代子他 8 名		担当形態	クラス分け	単位数	1	学年 期間	1 年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					ピアノ教室を主宰するなど、様々な音楽活動を行っている教員が、ピアノの基礎について指導する。					
授業のねらいと概要		幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。1 時間に 4 名程度で個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。入学時にすでに長期にわたるレッスン受講歴があり、基礎的な演奏技術を習得していると考えられる学生には、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる。								
到達目標		(1) テキストの「バイエル練習曲」に取り組み、音名、運指、リズム、諸記号を理解し演奏できる。 (2) テキストSTEP2 の「バイエル練習曲」に取り組み、6 曲以上をクリアしたうえで 1 曲を暗譜で演奏できる。 (3) 他者の演奏を聴くことにより楽曲への理解を深め、様々な楽曲を通して各楽曲の特徴を感じ取り、表現力の向上につなげようとする。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	初級			中級以上(長期の経験者)			毎回課題を弾けるようになるまで十分に練習し授業に臨むこと		60分
	2	テキストSTEP2 の「バイエル練習曲」に取り組み 引き続きプリントも活用する			テキストSTEP3 の「バイエル練習曲」、「ブルクミュラー練習曲」に取り組み			練習については、プリントも活用しながら毎日 1 時間程度行ってください		60分
	3									60分
	4	音楽記号、音楽用語、楽曲の構成等を理解して演奏する						レッスンの時には爪は清潔な長さとし、手指のアクセサリーも外してください		60分
	5	3 度や 6 度、3 連符等の奏法を経験し慣れる								60分
	6									60分
	7	実技試験(中間) 複数の指導担当者により前期前半の取り組みを確認し演奏を評価する								60分
	8	引き続きSTEP2 の「バイエル練習曲」に取り組み			テキストのピアノ練習曲終了後は、指導担当者の判断により『ブルクミュラー 25 の練習曲』や『ギロックこどものためのアルバム』などの曲集を使用する					60分
	9	プリントも活用する								60分
	10	ト長調、ヘ長調、イ短調など、ハ長調以外の楽曲を演奏することから調性の違いを感じ取る			幼児教育者としての音楽表現力を磨き、向上させる					60分
	11	練習曲を通して様々な伴奏を経験する								60分
	12									
	13	メロディーと伴奏の役割を理解して演奏に生かす								60分
	14	試験に向け 1 曲を指導担当者との協議により選曲し、暗譜で演奏できるようにする			試験に向け 1 曲を指導担当者との協議により選曲し、暗譜で演奏できるようにする					60分
15								60分		
成績評価の方法		実技試験(50%)、授業参加態度・毎回の授業に向けた取り組み(50%) 期末の実技試験はクラス単位で行う。全員の前で 1 曲を暗譜で演奏し聴き合う公開形式とする。								
課題のフィードバック		毎回レッスンにより一人一人の指導を行う。互いにレッスンを聴き合うことが自らの学びにも生かされる。個々の経験の有無や進度・能力に応じたレッスンのため、内容や進め方が異なる場合がある。								
テキスト		東京福祉保育専門学校編：『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する。								
参考文献・資料		内藤雅子・森本琢郎共著：『ビギナーのためのハノン』(ドレミ楽譜出版社)								

科目名		造形表現Ⅰ		科目コード		1ES085		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		鎌田 悟		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						小、中・高（美術）教諭免許を有し、現場経験のある教員が、保育現場で必要とされる造形表現の基礎的な知識と技術について指導する。									
授業のねらいと概要		・保育現場で必要とされる造形的な知識・技能について、紙、粘土、絵の具などの様々な素材を用いた制作活動を通して理解し身に付ける。 ・幼児の表現や発達過程について理解し、興味関心や発達段階に応じた環境づくりや関わり方を身に付ける。													
到達目標		(1)造形表現の基礎的な知識や技能を習得する。(色彩、平面・立体制作、配慮事項 等) (2)素材の特徴を理解し、それを活かした表現方がわかる。(絵の具、粘土、色画用紙、インク等) (3)幼児の描画表現の発達段階について理解する。 (4)幼児の活動を促す支援や環境づくりについて理解する。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
			○	○		○	○		○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	ガイダンス ①年間の授業内容、準備物等の確認 ②スケッチ								学籍番号、氏名等をスケッチブックに記載する。				120分	
	2	色彩の基礎 ①「色・光」、「有彩色と無彩色」 ②水彩絵の具による「色相環」の制作								色相環の色立体等をあらかじめ確認してから制作する。				120分	
	3	描画素材の体験Ⅰ ①クレヨン、クレパス、パステル ②制作								描画材の特徴(違い)を調べてくる。				120分	
	4	描画技法の体験Ⅱ ①コラージュ、マープリング ②制作								聞き慣れない技法等は、資料で確認しておく。				120分	
	5	紙粘土による制作Ⅰ ①紙粘土の特徴 ②制作(成形・乾燥)								どんなものを作るのか、事前にイメージしておく。				120分	
	6	紙粘土による制作Ⅱ ③着色(絵の具) ④展示用ボックス制作								作品内容と展示場所を意識した装飾を考える。				120分	
	7	土粘土による制作 ①土粘土の特徴 ②制作(成形)								土粘土と紙粘土の違い、制作時の留意点をまとめる。				120分	
	8	スチレン版画に挑戦Ⅰ 発泡スチロールボード(下描き、版への転写)								下絵ができれば、着色・配色についても考えておく。				120分	
	9	スチレン版画に挑戦Ⅱ 発泡スチロールボード(摺り 乾燥 展示)								幼児が制作するときの留意点についてまとめる。				120分	
	10	ペーパークラフト ①紙の特質を知る ②立方体を飾る								紙の加工の仕方について考える。				120分	
	11	とびだすカードⅠ ①とびだすしかけの方法確認、アイディアスケッチ								しかけの方法を確認してから、デザインを考える。				120分	
	12	とびだすカードⅡ ②切り抜き等各自の構想に沿って試作								内容に応じて使用する紙(色、サイズ、質感)を選ぶ。				120分	
	13	とびだすカードⅢ ③色画用紙やししかけ等を選択し制作、鑑賞								メッセージのレイアウト、文字は事前に検討しておく。				120分	
	14	鑑賞Ⅰ 美術作品の鑑賞の仕方、コーディネイトの仕方								写真や実際の作品を見ながら感想を発表しあう。				120分	
	15	鑑賞Ⅱ 幼児の作品や表現活動の見方、関わり方								写真や実際の作品を見ながら感想を発表しあう。				120分	
成績評価の方法		課題提出(50%)、授業態度・意欲(50%)													
課題のフィードバック		①授業後(作品完成時等)の鑑賞会 ②各時間ごとの振り返り(カードへの記載内容等)の確認による事後指導。													
テキスト		槇 英子『保育を開く』(萌文書林)													
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説』 随時、自作のプリントを作成し配付する。													

科目名		教育原理		科目コード		1 EL030		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		古内 一樹		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						中・高の教員免許を有し、教育行政に関わった経験のある教員が、教育の基本的概念について解説する。									
授業のねらいと概要		教育の基本的概念の理解を基に、教育理念や教育思想の流れと、様々な教育実践を歴史的に俯瞰しながら考察するとともに、現代における日本の教育の方向性と課題について、多面的に学修する。授業中の話し合いや発表、課題レポートにおける考察や分析等の活動をととして、主体的・対話的で深い学びを得る。													
到達目標		(1)教育の基本的概念や教育の本質及び目標を理解するとともに、子ども・教員・家庭等の相互関係も理解している。 (2)教育の歴史の基礎的知識を身に付け、それと教育理念との関わりや現代に至る教育及び学校教育の変遷を近代教育制度の成立と関連付けて理解している。 (3)家庭や子ども、学校や学習に関わる教育思想を理解するとともに、代表的な教育家の思想についても理解している。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○		○	○	○	○	○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	教育の基本概念 (1) 教育と保育の全体像 教育の意義と目的								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	2	教育の基本概念 (2) 家庭、幼児教育施設、学校、社会における教育								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	3	教育の基本概念 (3) 教育・保育と法制度① 教育・保育を支える法制度								授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。				90分程度	
	4	教育の基本概念 (3) 教育・保育と法制度② 教育要領、保育指針								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	5	教育の基本概念 (4) 教育・保育職の専門性と研修								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	6	教育に関する歴史 (1) 公教育の歴史と「子ども観」の変遷								授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。				90分程度	
	7	教育に関する歴史 (2) 江戸時代までの教育と近代学校教育の展開								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	8	教育に関する歴史 (3) 日本における幼児教育・保育施設の誕生と発展								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	9	教育に関する思想 (1) 近代教育に大きな影響を与えた欧米の思想家達								授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。				90分程度	
	10	教育に関する思想 (2) 様々な教授理論と教育実践								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	11	教育に関する思想 (3) 幼児教育・保育を考えた日本人 (倉橋惣三など)								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	12	現代日本の教育課題 (1) 保育者のコンプライアンス①義務・禁止事項								授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。				90分程度	
	13	現代日本の教育課題 (2) 保育者のコンプライアンス②懲戒と体罰								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	14	現代日本の教育課題 (3) 幼児期におけるキャリア教育の意義								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	15	現代日本の教育課題 (4) 幼児教育の不易と流行								授業の振り返りを記録し、まとめ課題をやる。				90分程度	
成績評価の方法		定期試験 (55 %)、5回の課題レポート及び毎時の授業資料への振り返り (35 %)、授業態度・意欲 (10 %)													
課題のフィードバック		5回の課題レポートにコメントして返却。2度のファイル点検時に授業資料への振り返りにもコメントして返却する。													
テキスト		パワーポイントと配付する授業資料を使用する。A4版の綴じ込み用ファイルを準備すること。													
参考文献・資料		『幼稚園教育要領 (最新版)』、『保育所保育指針 (最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (最新版)』、その他適宜紹介する。													

科目名		保育者論		科目コード		1EL031	必修・選択	必修	授業形態	講義
担当者		加藤 順子		担当形態		単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						幼稚園副園長の経験のある教員が、現場での知見を生かし、現代社会における教職・保育職の意義や役割について指導する。				
授業のねらいと概要		現代社会における教職・保育職の意義、教員・保育者の役割や資質能力、職務内容等について理解し、教職・保育職への意欲を高める。適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。話し合いや発表を通して主体的・対話的に学び、教職・保育職について理解を深める。								
到達目標		(1) 我が国における今日の学校教育や保育、教職・保育職の社会的意義を理解している。 (2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職・保育職の職業的特徴を理解している。 (3) 教育・保育の動向を踏まえ、今日の教員・保育者に求められる役割や資質能力を理解している。 (4) 乳幼児への指導・援助及びそれ以外の園務等を含めた教員・保育者の職務の全体像を理解している。 (5) 教員・保育者研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 (6) 教員・保育者に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について理解している。 (7) 幼稚園・保育施設等の担う役割が拡大・多様化する中で、園・施設等が内外の専門家等と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの必要性を理解している。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
			○	○	○	○		○		○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	保育者の役割・職務内容 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の役割と専門性、子育て支援における役割						事前に保育所保育指針第1章1を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	2	保育者の資格と責務 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資格とその要件、職務、研修						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	3	保育者の倫理 専門的倫理と法律、倫理綱領、専門的倫理を高めるために						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	4	保育者の資質能力 保育者に求められる資質能力、子どもの育ちを支える専門職の資質能力						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	5	養護及び教育の一体的展開 養護と教育の内容、養護と教育が一体となった保育						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	6	家庭との連携と保護者に対する支援 家庭との連携の必要性、子育て支援の基本、地域や関係機関との連携の必要性						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	7	計画に基づく保育の実践と省察・評価 保育の計画、保育の実践と省察、保育内容等の評価						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	8	教育・保育の計画と保育の質の向上 保育の主体性と指導の計画性、保育の質の向上						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	9	教育・保育の計画と保育者の専門性 環境を通して行う教育・保育、遊びを通しての指導・援助						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	10	チーム学校運営への対応 1 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園での協働 組織体制の構築、職員間の連携、情報提供と協働、ドキュメンテーションと協働						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	11	チーム学校運営への対応 2 専門機関との連携 医療機関・保健機関・療育機関・教育機関等との連携						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	12	地域社会との連携・協働 地域社会との連携、小学校等との連携						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	13	関係機関等との連携 地域型保育事業等						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	14	保育者の専門性の発達 保育者としての発達の道筋、保育者の専門的成長						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	15	保育者のキャリア形成 教育・保育の場における学び、保育者の資質向上、保育者のキャリア形成						事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、教科の学習内容全体を再確認してまとめる。		60分
成績評価の方法		定期試験（70％）、授業態度・意欲（30％）								
課題のフィードバック		提出された課題やアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。 質問事項については、次の授業において全体で共有する。								
テキスト		児童育成協会監修 矢藤誠慈郎・天野珠路編：『新・基本保育シリーズ7 保育者論』（中央法規出版）								
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』								

科目名		心身の発達と学習過程		科目コード		1ES033		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		加藤 順子		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						幼稚園副園長の経験のある教員が、現場での知見を生かし、子どもの心身の発達及び学習の過程の基礎的な知識について指導する。									
授業のねらいと概要		子どもの心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた経験や学びを支える指導・援助の基礎となる考え方を理解する。 課題や事例についての考察や話し合い、発表などを通して、具体的な指導・援助の在り方について理解を深める。													
到達目標		(1) 子どもの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育・保育における発達理解の意義を理解している。 (2) 乳幼児期の各時期における心身の発達について、その具体的な内容を理解している。 (3) 子どもの学びの過程や特性に関する基礎的な知識を身に付けている。 (4) 子どもの主体的な体験や学びを支える指導・援助の基礎となる考え方について心身の発達と関連付けて理解している。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○		○		○	○		○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	発達をとらえる視点① 発達を通じた子どもへの理解 子どもの発達を理解することの意義、発達の原理・原則、発達を理解するための手法								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	2	発達をとらえる視点② 個人差に応じた教育・保育 個人差とは、多様な発達への理解								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	3	発達をとらえる視点③ 子どもの発達と環境 子どもと環境の相互作用、人的環境としての保育者								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	4	発達をとらえる視点④ 発達に関する理論 発達理論と保育、発達段階と発達課題								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	5	発達をとらえる視点⑤ 子ども観と保育観 子ども観とは、保育観とは								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	6	発達をとらえる視点⑥ 子どもを取り巻く問題と保育の課題 子どもを取り巻く問題と教育・保育の課題								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	7	子どもの発達過程① 社会情動的発達 感情の発達、社会性の発達、関係性の変化								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	8	子どもの発達過程② 社会情動的発達 仲間関係の発達といざこざ、自己と自己制御								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	9	子どもの発達過程③ 身体機能と運動機能の発達 乳児期の身体・運動機能の発達、幼児期の身体・運動機能の発達								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	10	子どもの発達過程④ 認知の発達 乳児期の認知発達、幼児期の認知発達								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	11	子どもの発達過程⑤ 認知の発達、言語の発達 基本的生活習慣の確立、言語の発達とコミュニケーション								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	12	子どもの発達過程⑥ 発達に偏りのある子どもの理解と支援 特別な配慮を要する子どもの理解と援助								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	13	子どもの発達過程⑦ 地域との連携、発達の連続性と就学への支援 発達の連続性、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校の連携								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	14	子どもの学びと保育① 乳幼児期の学び 学びとは何か、学びの理論、学びを育む教育・保育								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。				60分	
	15	子どもの学びと保育② 乳幼児期の学びを支える教育・保育 遊びを通して学ぶとは、主体性を育む教育・保育								事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は教科の学習内容全体を再確認してまとめる。				60分	
成績評価の方法		定期試験（60％）、提出課題（20％）、授業態度・意欲（20％）													
課題のフィードバック		提出された課題やリアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。 質問事項については、次の授業において全体で共有する。													
テキスト		松本峰雄監修：『よくわかる!保育士エクササイズ 4 保育の心理学演習ブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）													
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』													

科目名		特別支援教育総論		科目コード		1ES034		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		藤井 慶博		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						養護学校教諭免許を有し特別支援行政を担った経験のある教員が、様々な障害によって特別な支援や配慮を必要とする幼児現状について指導する。									
授業のねらいと概要		○さまざまな障害や個別のニーズによって特別な支援を必要とする幼児が、園生活の満足感を味わいながら発達に必要な経験を重ねることを通して生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児の遊びや生活上の困難を理解し、そのニーズに応じた対応をしていくための基本的な知識や支援方法を理解するとともに実践的に学ぼうとする意欲や態度を身に付ける。													
到達目標		(1) 特別な支援を必要とする幼児等の障害の特性及び心身の発達を理解できる。 1) 保育を含むインクルーシブ教育システムの構築等、特別支援教育に関する制度の理念や仕組み等を理解するとともに障害者理解に努めることができる。 2) 発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児の心身の発達や心理の特性及び諸能力の育つ過程を理解できる。 3) さまざまな障害のある幼児の園生活や社会生活上で経験する困難について基礎的な知識を身に付けることができる。 (2) 特別な支援を必要とする幼児を対象とする教育課程及び支援の方法を理解できる。 1) 発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児に対する支援の在り方や具体的な方法について例示することができる。 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解できる。 3) 特別支援教育の在り方や教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画の重要性を理解し、その作成や活用についての基礎的な事項を理解できる。 4) 特別支援教育コーディネーターや療育関係機関、家庭、教育委員会等との連携を深めながら、幼児個々の教育的ニーズを支援する体制づくりと長期的な実践の重要性を理解できる。 (3) 障害はないものの特別なニーズのある幼児の園生活上の困難やその対応策を理解できる。 1) 貧困や育児放棄などの養育環境及び母国語使用等に起因するさまざまな困難に直面している幼児等の課題、保育との関連や長期的な教育支援の在り方について理解できる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○		○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容									事前・事後学習				時間
	1	障害児者の実態と障害者施策・社会の障害者観の変遷									【事前】第1回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	2	障害児教育の変遷と障害児保育の基本方針（幼稚園教育要領と保育所保育指針等の記述から）									【事前】第2回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	3	視覚障害の特性と生活上の困り感 －視覚に障害のある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実例－									【事前】第3回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	4	聴覚障害の特性と生活上の困り感 －聴覚に障害のある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実例－									【事前】第4回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	5	知的障害の特性と生活上の困り感 －知的発達に遅れのある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実例－									【事前】第5回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	6	肢体不自由の特性と生活上の困り感 －肢体不自由の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実例－									【事前】第6回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	7	自閉スペクトラム障害の特性と生活上の困り感 －自閉症スペクトラム障害の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実例－									【事前】第7回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	8	注意欠如多動症の特性と生活上の困り感 －注意欠如多動症の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実例－									【事前】第8回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	9	学習障害の特性と生活上の困り感 －学習障害の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実例－									【事前】第9回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	10	病弱・身体虚弱児（重症心身障害児含む）の理解と生活上の困り感 －病弱・身体虚弱児の自立に向けた対応の基本と支援の実例－									【事前】第10回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	11	障害児保育における合理的配慮の考え方と具体的内容									【事前】第11回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	12	障害のある幼児を支える園内支援体制の構築（特別支援教育コーディネーター、園内委員会、特別支援学校のセンター的機能・専門家チームの活用）									【事前】第12回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	13	障害のある幼児に関する「個別の指導計画」と「個別的教育支援計画」の作成演習									【事前】第13回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	14	周りの幼児に対する障害の理解とその実践									【事前】第14回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
	15	障害や貧困・差別など困難を抱えた人々との共生社会の実現と教育の在り方 障害者差別解消法の意義と障害者理解を進めるインクルーシブ教育の重要性									【事前】第15回で履修する部分について保育指針・教育要領等で確認し、ノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめる。				60分
成績評価の方法		レポート（50％）、授業内演習課題（30％）、授業態度・意欲（20％）													
課題のフィードバック		提出されたリフレクションシートは毎回確認し、必要に応じてコメント記入して返却する、また、質問事項については、次の授業において全体で共有する。													
テキスト		自作資料を毎回配布する。													
参考文献・資料		中央教育審議会初等中等教育分科会（2012）「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」、幼稚園教育要領（最新版）、保育所保育指針（最新版）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）、特別支援学校幼稚園部教育要領（最新版）													

科目名		保育原理		科目コード	1EL042	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	講義	
担当者		佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					保育士資格を有し現場経験のある教員が、保育者の役割など保育に係る基礎的な知識を解説する。					
授業のねらいと概要		子どもの育ち、保育の意義、保育制度・歴史など、保育者として知っておく必要がある基本的な理論や知識について学ぶ。また、保育のしくみ、保育の計画、保育の方法など日常の保育を支える理論や人的環境としての保育者の役割について理解する。								
到達目標		(1) 保育に関する専門的知識を習得し、保育実践に向けての基本的な考え方を理解する。 (2) 子どもの育ちを理解し、発達過程に応じた援助や環境構成を考えることができる。 (3) 保育の内容と方法について理解する。 (4) 家庭や子ども、社会にかかわる保育の歴史や保育の思想を理解する。 (5) 保育の思想と歴史的変遷を学び、現在の保育のあり方を考えることができる。 (6) 現代社会における保育の課題を歴史的な視点から考えることができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
			○	○	○	○		○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	保育の基本Ⅰ 子どもの最善の利益と保育					(事前) テキストの第1章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	2	保育の基本Ⅱ 保育の社会的役割と責任					(事前) テキストの第1章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	3	保育における子ども理解 「子ども観」・「発達観」と保育					(事前) テキストの第2章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	4	保育の歴史Ⅰ 西洋の保育施設の誕生と思想					(事前) テキストの第9章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	5	保育の歴史Ⅱ 日本の保育施設の誕生と思想					(事前) テキストの第9章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	6	保育の制度 日本の保育制度の変遷					(事前) テキストの第9章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	7	保育の特性 環境を通して行う保育、発達過程に応じた保育					(事前) テキストの第3, 4章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	8	保育の内容 保育のねらいと内容、領域の考え方					(事前) テキストの第5章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	9	保育の方法Ⅰ 保育形態と保育の方法、生活と遊びを通じた総合的な保育					(事前) テキストの第5章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	10	保育の方法Ⅱ 幼児期にふさわしい生活、個と集団を活かした保育					(事前) テキストの第5章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	11	保育の計画と実践Ⅰ 保育の計画の意義、全体的な計画と指導計画					(事前) テキストの第6章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	12	保育の計画と実践Ⅱ 長期指導計画と短期指導計画、指導計画作成上の留意点					(事前) テキストの第6章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	13	保育の実践・評価 省察・評価の意義、保育の評価と改善					(事前) テキストの第6章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	14	保育の現状と課題 子育て支援、待機児童対策、潜在保育士					(事前) テキストの第11章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
	15	保育者の専門性 保育の質を高めるための保育者の資質・能力					(事前) テキストの第10、終章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分 程度	
成績評価の方法		リアクションペーパー(20%)、定期期試験(50%)、授業態度(30%)								
課題のフィードバック		講義終了後、リアクションペーパーに記入された学びや疑問について次の講義で解説し、理解を深める								
テキスト		渡邊英則、高嶋景子、大豆生田啓友、三谷大紀編著：『新しい保育講座1 保育原理』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料		厚生労働省編：『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)、森上史朗・柏女霊峰編：『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房)								

科目名		子ども家庭福祉		科目コード		1EL043		必修・選択		選択(保資必修)		授業形態		講義	
担当者		藤原 法生		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						福祉に関する資格を有し専修学校で指導経験のある教員が、子ども家庭福祉の現況、取り組み、課題など子ども家庭福祉の実現について説明する。									
授業のねらいと概要		子ども家庭福祉の理念や歴史的変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、子ども家庭福祉の実現について理解する。また、福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。子どもや家庭に関する身近な情報を活用し、ディスカッション等を含みながら具体的な学びができるような授業とする。													
到達目標		(1) 子ども家庭福祉の意義や歴史的変遷について理解している (2) 子ども家庭福祉の制度について理解している (3) 子ども家庭福祉のサービス・施設・専門職等について理解している (4) 地域における子ども家庭福祉の現状と展望について理解している													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○			○	○		○							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	社会福祉・子ども家庭福祉の理念と概念								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	2	子ども家庭福祉の現状 少子社会、子どもと家庭を取り巻く環境								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	3	子どもの権利保障								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	4	子ども家庭福祉の歴史的変遷								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	5	子ども家庭福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	6	児童福祉施設の規定、体系、サービス提供の方法								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	7	児童福祉施設の概要 保育所、幼保連携型認定こども園、乳児院								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	8	児童福祉施設の概要 児童養護施設								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	9	社会的養護の概要								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	10	児童福祉施設の概要 母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	11	子育て家庭に対する福祉サービス 子育て支援サービス								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	12	子育て家庭に対する福祉サービス 児童虐待、DV								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	13	子育て家庭に対する福祉サービス 障害がある児童、貧困家庭								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	14	子ども家庭福祉の専門職								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	15	地域における子ども家庭福祉の現状と展望 地域住民を含む社会資源と連携								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
成績評価の方法		定期試験（70％）、授業への参加態度・提出課題（30％）													
課題のフィードバック		定期試験（筆記試験）は採点后に返却する													
テキスト		直島正樹、河野清志 編著：『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』（萌文書林） ミネルヴァ書房編集部 編：『社会福祉小六法 2025』（ミネルヴァ書房） 宮島清・山縣文治 編集：『ひと目でわかる保育者ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2025』（中央法規出版）													
参考文献・資料		必要に応じて提示する													

科目名		社会福祉		科目コード		1EL044		必修・選択		選択(保資必修)		授業形態		講義	
担当者		藤原 法生		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						福祉に関する資格を有し専修学校で指導経験のある教員が、社会福祉の現況、取り組み、課題など福祉の実現について説明する。									
授業のねらいと概要		社会福祉の理念や歴史的変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、福祉の実現について理解する。また、社会福祉における保育士の役割についても理解する。 日常生活に関する身近な情報を活用し、ディスカッション等を含みながら具体的な学びができるような授業とする。													
到達目標		(1) 社会福祉の理念や概念を理解している (2) 社会福祉の制度や実施体系について理解している (3) 社会福祉における相談援助や利用者の権利について理解している (4) 地域における社会福祉の現状と展望について理解している													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性							
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○		○	○		○	○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	社会福祉の理念と概念								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	2	現代社会の理解、社会福祉の歴史的変遷								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	3	社会福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関、財政								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	4	社会福祉の制度と実施体系 社会福祉施設、社会福祉の専門職								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	5	社会保障制度の概要								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	6	生活保護制度の概要								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	7	社会福祉における相談援助 相談援助の理論、相談援助の対象								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	8	社会福祉における相談援助 相談援助の展開								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	9	社会福祉における相談援助 相談援助の原則と技法(個別化、意図的な感情表出、統制された情緒的関与)								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	10	社会福祉における相談援助 相談援助の原則と技法(受容、非審判的態度、自己決定、秘密保持)								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	11	福祉サービスの利用者保護 利用者の権利、情報提供、第三者評価、苦情解決								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	12	社会福祉の動向 少子高齢社会の理念								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	13	社会福祉の動向 共生社会と障害者福祉								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	14	社会福祉の動向 地域福祉の理念と現状、地域住民を含む社会資源とその連携								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
	15	社会福祉の動向 社会福祉の今後の展望								事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分	
成績評価の方法		定期試験(70%)、授業への参加態度・提出課題(30%)													
課題のフィードバック		定期試験(筆記試験)は採点后に返却する													
テキスト		直島正樹、原田句哉 編著：『図解で学ぶ保育 社会福祉』(萌文書林) ミネルヴァ書房編集部 編：『社会福祉小六法 2025』(ミネルヴァ書房)													
参考文献・資料		必要に応じて提示する													

科目名		社会的養護Ⅰ		科目コード		1EL046		必修・選択		選択(保資必修)		授業形態		講義	
担当者		初山 一彦		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						児童発達支援センターや医療型障害児入所施設等での相談業務の他、児童自立支援施設や児童相談所一時保護所での指導経験がある。									
授業のねらいと概要		社会的養護について、こども家庭福祉体系を通してこどもの権利擁護とその自立を支援していくことを理解し、保育士が社会的養護の中で取るべき倫理性を含む基本的なこどもとのかかわり方や支援の連携、児童養護の社会的・歴史的背景を学び、現状や課題について理解を深める。													
到達目標		(1) 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解している。 (2) 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解している。 (3) 社会的養護の制度や実施体系等について理解している。 (4) 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解している。 (5) 社会的養護の現状と課題について理解している。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○		○	○		○							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	社会的養護の理念と概念								事前にテキストの該当部分を読み、疑問点を整理する。授業後は、配布資料やノートで確認する				事前事後各30分	
	2	社会的養護の歴史的変遷								同上				同上	
	3	子どもの権利擁護と社会的養護								同上				同上	
	4	社会的養護の基本原則								同上				同上	
	5	社会的養護における保育士等の倫理と責務								同上				同上	
	6	社会的養護の制度と法体系								同上				同上	
	7	社会的養護の仕組みと実施体系								同上				同上	
	8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク								同上				同上	
	9	社会的養護の対象と支援のあり方								同上				同上	
	10	家庭養護と施設養護								同上				同上	
	11	社会的養護にかかわる専門職								同上				同上	
	12	社会的養護に関する社会的状況								同上				同上	
	13	施設等の運営管理の現状と課題								同上				同上	
	14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題								同上				同上	
	15	社会的養護と地域福祉の現状と課題								同上				同上	
成績評価の方法		定期試験（80％）、提出課題（10％）、授業態度・意欲（10％）													
課題のフィードバック		提出されたレポートにコメント記入して返却する、筆記試験は採点后返却する													
テキスト		公益財団法人児童育成会 『新・基本保育シリーズ 6 社会的養護Ⅰ 第2版』													
参考文献・資料		授業の中で必要に応じ、配布・提示します。													

科目名		子どもの保健		科目コード	1EL048	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	講義	
担当者		高橋 美砂子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					看護師免許を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、子どもの心身の健康についての知識を解説する。					
授業のねらいと概要		子どもの心身の健康増進を図る社会的支援を学び保育者としての役割を理解する。 生命の誕生、子どもの成長発達を理解し、自己の成長の振り返りができる。 子どもの病気及び事故予防を学び、子どもの健康管理する態度を身につける。								
到達目標		(1) 子どもへの保健活動と施策を理解、社会的支援のあり方を考える。 (2) 子どもの成長発達と保健について理解する。 (3) 子どもの病気及び不慮の事故への対処を理解する。 (4) 子どもの健康問題や障害を抱える親子への関わり方を理解する。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○	○	○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	我が国の小児の諸統計 少子化対策					少子化対策に成功した奈良市についてレポート		60分	
	2	生命の誕生 児童虐待予防の母子保健対策 赤ちゃんホスト					虐待を受けた児の心理をレポート		60分	
	3	小児期の分類と健康問題 年齢別死亡順位 生きる力を育む幼児教育 (GW)					生きる力を育てる自分の考えをまとめる		60分	
	4	健やか親子 21 子ども・子育て支援新制度					自分の乳幼児期の養育環境を振り返る		60分	
	5	新生児の特徴 感覚器の発達 脳神経の発達 乳児反射 (DVD)					幼児期の遊びを振り返る		60分	
	6	精神運動機能発達 乳幼児健康診査 私の成長記録 (レポート)					自分の精神運動の発達をレポート		60分	
	7	生理機能の発達 呼吸・循環・血圧・血液・自律神経					日常生活における自律神経のバランスをまとめる		60分	
	8	免疫 予防接種 私の予防接種歴 (レポート)					自分の予防接種歴をまとめる		60分	
	9	人間性の発達課題と接し方 私の発達課題 (レポート)					自分の発達課題をレポート		60分	
	10	先天奇形・代謝異常 ダウン症候群 障害児を生んだ親の反応と支援 (DVD)					障害児と家族の支援について鑑賞し感想文を書く		60分	
	11	血液の主な病気 闘病を支える親・兄弟姉妹への支援 (DVD)					闘病を支える妹の心理についてレポート		60分	
	12	けいれん発作時の対応 熱性けいれんとてんかんの違い 腎臓の主な病気 尿路感染症					尿路感染症を防ぐ幼児の日常生活をまとめる		60分	
	13	呼吸器の主な病気 気管支喘息発作への対応 川崎病 先天性心疾患と園での対応					臓器提供カードについて意思をまとめる		60分	
	14	消化器の主な病気 下痢・嘔吐への対処 小児糖尿病と園での対応 甲状腺機能低下・亢進症					便秘予防の日常生活管理を振り返る		60分	
	15	心の問題を抱える子どもへの対応 メディアと健康問題 未熟児を生んだ親の心理					スマホ・ゲーム視聴時間を調べる		60分	
成績評価の方法		定期試験 (70%)、レポート (30%)								
課題のフィードバック		試験は採点し返却する。レポートはコメントを記入し返却する。								
テキスト		小林美由紀：『授業で現場で役に立つ!子どもの保健テキスト』(診断と治療社)								
参考文献・資料		小西 行郎：赤ちゃん学を学ぶ人のために(世界思想社)、服部 祥子：生涯人間発達論(医学書院)、鴨下 重彦：こどもの病気の地図帳(講談社)								

科目名		子どもの食と栄養		科目コード	1ES049	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習	
担当者		加藤 順子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					中高(家庭科)教諭免許を有し幼稚園副園長の経験のある教員が、子どもの食と栄養について指導する。					
授業のねらいと概要		食べることは生きるための源であり、心と体の健やかな育ちに欠かせないものである。 発育・発達をめざましい乳幼児期における食生活と栄養の特性について学び、子どもが様々な体験を通して食を営む力の基礎を培うための保育者の役割について理解する。 事例や資料、データ等を基にした考察や話し合い、発表などを通して主体的・対話的に学び、理解を深める。								
到達目標		(1) 健康な生活の基本としての食生活の意義について理解し、食や栄養に関する基本的知識を身に付けている。 (2) 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解している。 (3) 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の基本的な考え方や内容等について理解している。 (4) 子どもをめぐる食生活の現状と課題について理解している。 (5) 食生活に関する保護者支援や地域との連携について理解している。 (6) 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解している。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○			○	○	○	○		○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	子どもの健康と食生活の意義 「子どもの食と栄養」を学ぶ目的、子どもの心身の健康と食生活					事前にテキスト第1章1を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分	
	2	子どもの健康と食生活 子どもをめぐる食生活の現状と課題					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	3	栄養・食に関する基本的知識(1) 栄養・栄養素に関する基礎知識					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	4	栄養・食に関する基本的知識(2) 栄養素の種類と機能					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	5	栄養・食に関する基本的知識(3) 日本人の食事摂取基準の意義と活用					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	6	子どもの発育・発達と栄養・食生活(1) 乳幼児期の発育・発達と栄養・食生活					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	7	子どもの発育・発達と栄養・食生活(2) 乳児期の栄養、乳汁栄養、離乳食期栄養					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	8	子どもの発育・発達と栄養・食生活(3) 幼児期の心身の発達と食生活、学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	9	食育の基本と実践(1) 食育の基本、保育における食育の意義・目的と基本的な考え方					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	10	食育の基本と実践(2) 保育における食育の推進					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	11	児童福祉施設や家庭における食と栄養 児童福祉施設における食と栄養、食生活に関する保護者支援、地域との連携					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	12	食の安全 感染症と食中毒、施設における衛生管理					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギーのある子どもへの対応、疾病及び体調不良の子どもへの対応 障害のある子どもへの対応					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる		60分	
	14	調理実習計画 調理の基本と献立、調理実習計画					事前に関連するテキスト部分を読む。 授業後は学習内容や資料を確認し、次時の予習をする。		60分	
	15	調理実習 離乳期の食事・幼児期の間食					事前に関連する資料を確認する。 授業後は教科の学習内容全体を再確認してまとめる		60分	
成績評価の方法		定期試験(60%)、提出課題(20%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック		提出された課題やリアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。 質問事項については、次回の授業において全体で共有する。								
テキスト		児玉浩子他編・著：『子どもの食と栄養(改訂第3版)』(中山書店)								
参考文献・資料		『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 その他、授業の中で提示する								

科目名		乳児保育Ⅰ		科目コード		1EL052		必修・選択		選択(保資必修)		授業形態		講義	
担当者		猿田 興子		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、乳児保育に関する基礎的な知識について指導する。									
授業のねらいと概要		乳児期が人格の基礎をつくる時期であることを理解し、一人一人の子どもの発達を保障する保育内容を理解する。乳児保育に関して基礎的な理解を深め、子どもの発達や学びの過程及び特性についても理解しようとする意欲や態度を持ち、発達に即した保育の実践力を身につける。													
到達目標		(1)乳児保育の現状と課題を理解するとともに、その目的や役割を理解でき述べることができる。 (2)保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できている。 (3)乳児の生活と環境・遊びと環境の特徴をとらえ、適切な援助の仕方を習得し実践につなげることができる。 (4)乳児保育における計画・記録・評価とその意義を理解し、実践に活かす意義を理解できている。 (5)乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できている。 (6)乳児保育における望ましい職員間の連携・協働を意識した保育内容を理解している。 (7)乳児保育における望ましい保護者との連携・協働を意識した保育内容を理解している。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○		○		○	○	○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション(授業内容・進行) ～乳児保育の意義・目的について～								事前：シラバスと教科書に目を通しておく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	2	乳児保育の役割と機能 ～生活の主体としての乳児・養護及び教育について～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	3	乳児を取り巻く保育の現状を学ぶ・歴史的変遷 ～乳児の育ちを支える乳児の周囲(社会・保護者・保育者)について～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	4	乳児期の発育・発達について学ぶ(0～1歳3か月未満) ～発達の特徴にふれ、保育者の役割・適切な対応について～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	5	乳児期の発育・発達について学ぶ(0～1歳3か月未満) ～乳児の望ましい日常生活・個人差の応じた援助について～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	6	乳児期の発育・発達について学ぶ(1歳3ヶ月～2歳未満) ～乳児が安心できる環境と援助の重要性と乳児の学びについて～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	7	乳児期の発育・発達について学ぶ(0～1歳3か月未満) ～乳児の映像から 乳児が学ぶ姿と保育者の援助を知る～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	8	乳児期の発育・発達について学ぶ(1歳3ヶ月～2歳未満) ～乳児の映像から 乳児が学ぶ姿と保育者の援助を知る～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	9	3歳未満児の生活と環境 ～社会環境等が3歳未満児に及ぼす影響について知る～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	10	3歳未満児の遊びと環境 ～3歳未満児の安心できる環境づくりについて知る～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	11	3歳未満児の生活を支える保育者等の援助や関わりについて ～3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮について知る～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	12	3歳未満児の遊びと生活について ～人生における学びの基礎となる時期であることを知り対応を考察する～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	13	3歳未満児の遊びと生活について ～一人一人の理解の重要性と計画・実践・評価について学ぶ～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	14	乳児保育における連携・協働について ～保護者との連携を通し、乳児の最善の利益を保障する関わりを知る～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
	15	乳児保育における連携・協働について ～まとめ：乳児保育を支える職員間の連携と保育者の専門性を考える～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				60分	
成績評価の方法		レポート(70%)、小テスト(20%)、授業態度・意欲(10%)													
課題のフィードバック		提出されたレポートを評価し成績に反映する。欠席者、未提出学生は評価に影響あり。レポートは採点后まとめて返却する。													
テキスト		社会福祉法人あすみ福祉会 『養成校と保育室をつなぐ理論と実際－乳児保育Ⅰ・Ⅱ』(萌文書林)													
参考文献・資料		保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説													

科目名		子どもの健康と安全		科目コード	1ES054	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習	
担当者		高橋 美砂子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					看護師免許を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、子どもの健康と安全についての知識・技能を指導する。					
授業のねらいと概要		子どもの養育環境が成長発達に影響することを理解し日常生活養護の知識を理解し、健全な生活習慣を育み教育的視点を持つことができる。 感染症及び不慮の事故を防ぎ、子どもの体調不良時の対応ができる。 災害時の備え及び危機管理の取り組みを理解し、安全な保育環境を理解する。								
到達目標		(1) 子どもの成長発達を理解し、乳幼児の健康管理について理解する。 (2) 子どもの健全な生活習慣となる養護の知識を理解する。 (3) 子どもの体調不良時の対応を把握し感染症及び不慮の事故を防ぐ安全な保育環境を理解する。 (4) 災害時の子どもの反応と支援のあり方を理解する。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○	○	○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	子どもとは 保育士の役割 赤ちゃんからのメッセージ (DVD)					赤ちゃんの能力について レポート		60分	
	2	小児の成長発達の原則 身体計測 赤ちゃんからのメッセージお父さんへ (DVD)					母親と父親への赤ちゃんの反応についてレポート		60分	
	3	小児の睡眠 保育所での午睡の意義 午睡中の事故防止 乳幼児突然死症候群 たばこの害					自分の睡眠をアセスメントする		60分	
	4	病児保育 感染予防対策ガイドライン 手洗いうがい 乳菌の虫菌予防 歯磨き					自分の食生活を振り返る		60分	
	5	新生児の保育 すばらしき 36 か月④マニュアル (DVD) おむつかぶれ おむつ交換								
	6	母乳栄養 卒乳 調乳 授乳方法								
	7	幼児の保育 すばらしき 36 か月①はじめての一步 (DVD) 子どもの服の選び方 靴の選び方 抱っこ おんぶ								
	8	沐浴								
	9	排泄の自立 夜尿症 水分代謝 子どもの体温 低体温予防 体温測定					自分の体温と生活を振り返る		60分	
	10	子どもの病気への対応 吐物処理 発熱と発疹の主な病気								
	11	保育所での薬の取り扱い 与薬方法 小さな勇士たち (DVD)					拒薬する児への対応について		60分	
	12	食物アレルギー 保育におけるアレルギーガイドライン エピペンの使い方 アトピー性皮膚炎 スキンケア					エピペンの使い方の練習		60分	
	13	子どもの特性と不慮の事故 誤飲 子どもの救急対応					包帯と三角巾の使い方を練習する		60分	
	14	災害時の備え 保育所における事故防止ガイドライン 災害時の子どもの反応と対応					保育における危機管理をまとめる		60分	
	15	子どもの救急救命 心肺蘇生・AEDの実技 気道異物除去 (秋田市消防本部救急隊救命士による指導)								
成績評価の方法		定期試験 (60%)、レポート (30%)、授業態度・意欲 (10%)								
課題のフィードバック		試験は採点し返却する。レポートはコメントを記入し返却する。								
テキスト		小林美由紀：『授業で現場で役に立つ!子どもの保健テキスト』(診断と治療社)								
参考文献・資料		山本 恵子監：写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ) 五十嵐 隆：目で見える小児救急 (文光堂)								

科目名		子育て支援		科目コード	1ES056	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習	
担当者		蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					幼稚園教諭免許及び保育士資格を有し、子育て支援員研修の講師を務める教員が、子育て支援・保護者支援の内容や現状を指導する。					
授業のねらいと概要		子育て支援・保護者支援の内容・現状を理解する。 子育て家庭の現状を踏まえたうえで、保育所保育指針に示された「子育て支援」の内容について、保育に関連させながら理解を深める。 保育の現場における保育士の子育て支援を役割を認識するため、具体的な子育て支援の実際を体験したり、多様な講義を受けながら保護者支援の技術を身に付ける。								
到達目標		(1) 保育所保育指針における「子育て支援」の内容を理解することができる。 (2) 子育て支援の多様性と現代の家庭を取り巻く社会情勢を理解することができる。 (3) 保育士の専門性を生かした保護者への相談。助言、情報提供、行動見本の提示等に支援について、具体的な事例を通して理解することができる。 (4) 子育て支援の実際を経験するためにグループワークやディスカッションを通し、具体的な技術を身に付けることができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○		○			○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	保育所保育指針における「子育て支援」の内容について、子育て家庭や課題を踏まえながら理解する。					指針の内容、現場での子育て支援尾内容をノートにまとめる。		60分	
	2	保護者の子育ての実際について理解を深める（保護者講話をグループで行う）					事前に保護者の子育ての不安感、負担感について調べる		60分	
	3	【演習 事前学習】 グループで環境設定、保護者対応について、グループで課題を持ち取り組む					自分なりの課題を明確にするための事前学習をする		60分	
	4	【演習 乳児もくもく①】 参観、実践を通して 子育て支援活動の理解を深める					演習内容をノートにまとめ、自分の課題を明らかにする		60分	
	5	実践した子育て支援活動をグループで話し合い展開できる指導案を作成する								
	6	子育て支援の必要性和制度について理解を深める (1) 子育て支援が求められる社会背景について								
	7	【演習 事前学習】 グループで環境設定、保護者対応について、グループで課題を持ち取り組む					必要な教材等の準備を進める		60分	
	8	【演習 乳児もくもく②】 参観、実践を通して 子育て支援活動の理解を深める					演習内容をノートにまとめ、自分の課題を明らかにする		60分	
	9	子育て支援の必要性和制度について理解を深める (2) 子育て支援に関する制度と施策について					演習後は、振り返りをまとめる		60分	
	10	【演習 事前学習】 グループで環境設定、保護者対応について、グループで課題を持ち取り組む					授業内容をノートにまとめる		60分	
	11	【演習 乳児もくもく③】 参観、実践を通して 子育て支援活動の理解を深める					演習内容をノートにまとめ、自分の課題を明らかにする		60分	
	12	【演習 乳児もくもく④】 参観、実践を通して 子育て支援活動の理解を深める					演習内容をノートにまとめ、自分の課題を明らかにする		60分	
	13	保護者に対する相談支援の実態について理解し、実践力を身に付ける。 (1) 相談の現場を持つ外部講師による講義								
	14	保護者に対する相談支援の実態について理解し、実践力を身に付ける。 (2) 母親の負担感・不安感について					事前に関連する著書を調べる		60分	
	15	まとめ 保育士の専門性を生かした保護者支援について、自分なりの考えをまとめる					事前に関連する著書を調べる		60分	
成績評価の方法		ノートを含む課題提出(70%)・授業態度(30%)								
課題のフィードバック		ノート、課題を回収した際にコメントを記載する								
テキスト		「保育所保育指針」 適宜資料を配布								
参考文献・資料		「保育用語辞典」								

2 年 次

科目名		キリスト教人間学Ⅱ A		科目コード		1 FL068		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		門戸 美智		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						シスターである教員が、聖書をもとに神の人間に対する愛と救いの歴史や、人を愛して生きる生き方を解説する。									
授業のねらいと概要		新約聖書を通して本学の建学の精神である「子どもたち一人一人を大切にしながら、キリストの心で幼児を教育する」ことを学ぶとともに、キリスト教の精神で、幼児教育を人格形成の基礎を培うものとして捉え理解する。一人一人は、神に支えられ導かれていることを知り、イエス・キリストの生涯と教えを通じて人を大切にする生き方を学び。社会に貢献することをねらう。													
到達目標		(1) イエス・キリストの生き方と教えを理解する 1) イエス・キリストの生涯を捉えながらその歴史を理解している 2) イエス・キリストの生き方の中から、その教えと課題を理解している (2) 新約聖書の生き方を実践的に捉え、キリスト教的価値観を理解する 1) 新約聖書について知り、描かれている人物の背景、生き方を理解している 2) 新約聖書の時代と文化を通して、今の時代をどう生きるか理解している (3) 保育者として人類・社会に貢献する基礎的態度を理解する 1) 人類・社会に貢献するためにキリストが教える生き方を理解している。 2) 保育者としてキリスト教的価値観を実践し世界平和の在り方を理解している													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション 新約聖書と本学の建学の精神								事後 新約聖書P1～P7を読む				30分	
	2	イエスの告げた福音 喜びの知らせ マルコ1：1								事前 事後 マルコ1:1を読む マルコ1:1を読む				各30分	
	3	イエスの荒野での試み マタイ4：1～11								事前 事後 マタイ4:1～11読む マタイ4:1～11読む				各30分	
	4	イエスの弟子 弟子の選び マタイ4：18～22								事前 事後 マタイ4:18～22読む マタイ4:18～22読む				各30分	
	5	イエスの弟子 弟子たちの使命 マタイ10：1～4								事前 事後 マタイ10:1～14読む マタイ10:1～14読む				各30分	
	6	イエスの教え 山上の垂訓 マタイ5：1～10								事前 事後 マタイ5:1～10読む マタイ5:1～10読む				各30分	
	7	み心のミサについて								ミサの聖歌 声楽の授業で					
	8	み心のミサと講演								事後 講演の感想を書く				60分	
	9	イエスの教え 敵を愛せよ ルカ6：27～36								事前 事後 ルカ6:27～36読む ルカ6:27～36読む				各30分	
	10	イエスの教え 人を裁くな マタイ7：1～5								事前 事後 マタイ7:1～5読む マタイ7:1～5読む				各30分	
	11	イエスのたとえ話 よいサマリア人 ルカ10：25～37								事前 事後 ルカ10:25～37読む ルカ10:25～37読む				各30分	
	12	イエスのたとえ話 金持ちとラザロ ルカ16：19～33								事前 事後 ルカ16:19～33読む ルカ16:19～33読む				各30分	
	13	イエスのたとえ話 種まきのたとえ ルカ8：4～15								事前 事後 ルカ8:4～15読む ルカ8:4～15読む				各30分	
	14	イエスのたとえ話 ぶどう園の労働者 マタイ20：1～16								事前 事後 マタイ20:1～16読む マタイ20:1～16読む				各30分	
	15	祈りについて 主の祈り ルカ11：1～4								事前 事後 ルカ11:1～4読む ルカ11:1～4読む				各30分	
成績評価の方法		試験（30％）、提出課題（30％）、授業態度・意欲（20％）、聖園アワー（20％）													
課題のフィードバック		提出されたりアクションペーパー等、読み、必要があれば連絡し指導する													
テキスト		フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』（サンパウロ） ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』（ドンボスコ）													
参考文献・資料		授業前に授業で必要なプリント配布													

科目名		キリスト教人間学Ⅱ B		科目コード		1 FL 069		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		門戸 美智		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		2 年 ・ 後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						シスターである教員が、聖書をもとに神の人間に対する愛と救いの歴史や、人を愛して生きる生き方を解説する。									
授業のねらいと概要		新約聖書を通して本学の建学の精神である「子どもたち一人一人を大切にしながら、キリストの心で幼児を教育する」ことを学ぶとともに、キリスト教の精神で、幼児教育を人格形成の基礎を培うものとして捉え理解する。一人一人は、神に支えられ導かれていることを知り、イエス・キリストの生涯と教えを通じて人を大切にする生き方を学び。社会に貢献することをねらう。													
到達目標		(1) イエス・キリストの生き方と教えを理解する 1) イエス・キリストの生涯を捉えながらその歴史を理解している 2) イエス・キリストの生き方の中から、その教えと課題を理解している (2) 新約聖書の生き方を実践的に捉え、キリスト教的価値観を理解する 1) 新約聖書について知り、描かれている人物の背景、生き方を理解している 2) 新約聖書の時代と文化を通して、今の時代をどう生きるか理解している (3) 保育者として人類・社会に貢献する基礎的態度を理解する 1) 人類・社会に貢献するためにキリストが教える生き方を理解している。 2) 保育者としてキリスト教的価値観を実践し世界平和の在り方を理解している													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	愛とゆるし 見失った羊 ルカ15：4～7								事前後ルカ 15：4～7 読む				各30分	
	2	愛とゆるし 放蕩息子 ルカ15：1～32								事前後 ルカ15：1～32 読む				各30分	
	3	イエスの奇跡 重い皮膚病患者のいやし マルコ1：46～52								事前後マルコ 1:46～52 読む				各30分	
	4	ヤイロの娘と出血病の女 マルコ5：21～43								事前後マルコ 5:21～43 読む				各30分	
	5	ユダの裏切り マタイ25：14～16								事前後マタイ 25:14～16 読む				各30分	
	6	イエス弟子たちの足を洗う ヨハネ13：1～20								事前後ヨハネ 13:1～20 読む				各30分	
	7	聖体の制定 マタイ26：26～29								事前後マタイ 26:26～29 読む				各30分	
	8	ゲッセマネでの祈り マタイ26：36～46								事前後マタイ 26:36～46 読む				各30分	
	9	ペトロの否み マタイ26：30～35								事前後マタイ 26:30～36 読む				各30分	
	10	待降節について								事後配布プリントを読む				各30分	
	11	クリスマスミサに参加する								ミサの聖歌 声楽の授業で					
	12	イエスの生き方を生きる人 (1)													
	13	イエスの生き方を生きる人 (2)													
	14	十字架の刑 犯罪人の赦し ルカ23章								事前後ルカ 23 章を読む				各30分	
	15	エマオの途上での出現 ルカ24：13～35								事前後ルカ 24:13～35 読む				各30分	
成績評価の方法		試験 (30%)、提出課題 (30%)、授業態度・意欲 (20%)、聖園アワー (20%)													
課題のフィードバック		提出されたりアクションペーパー等、読み、必要があれば連絡し指導する													
テキスト		フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』(ドンボスコ)													
参考文献・資料		授業前に授業で必要なプリント配布													

科目名		日本語の表現Ⅱ		科目コード		1 FL005		必修・選択		選択必修		授業形態		講義	
担当者		大原 かおり		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						中高(国語)教員免許(専修)を有し現場経験のある教員が、「日本語の表現Ⅰ」で学んだ内容をさらに深めて解説する。									
授業のねらいと概要		小学校・中学校・高等学校等において身につけてきた国語(日本語)の知識や技能を振り返り、社会人・保育者として国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を身につける。 講義・演習の他、美術館などの施設見学によって知見を広げ、社会人・保育者としてふさわしい日本語運用能力を身につける。													
到達目標		(1) 国語についての理解を深め、適切な表現を用いた言語活動を行うことができる 1) 表記・文法・敬語などの国語の基礎知識を身につけ、適切に表現できる 2) 場にふさわしい表現方法や技術を工夫し、適切かつ効果的に表現できる 3) 自分の考えやイメージを言葉や文章で適切に表現できる (2) 言語活動を通して自己の課題発見・解決を図ることができる 1) 自己の国語の知識や技能を向上させるために、課題の発見・解決を図ることができる 2) 他者との関わりの中で表現や意見を理解し、伝え合う力を伸ばすことができる (3) 絵本というメディアの特徴を理解し、活用できる 1) 絵本の機能と表現効果を理解し、活用できる 2) 絵本モンタージュ理論を理解し、読解と表現に生かすことができる													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○		○	○	○	○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション ―授業目標・内容・評価方法の説明、短作文								シラバスの授業のねらいなどを確認する。 配付資料等を見直す。				60分	
	2	就職試験対策 作文・小論文								『保育者をめざす人のための ことばの表現―話す・聞く・書く』を確認しておく。				60分	
	3	国語力トレーニング 1 ―語彙								配付資料を解く。 復習をする。				60分	
	4	国語力トレーニング 2 ―敬語								配付資料を解く。 復習をする。				60分	
	5	国語力トレーニング 3 ―表記・文法								配付資料を解く。 復習をする。				60分	
	6	国語力トレーニング 4 ―コロケーション								配付資料を解く。 復習をする。				60分	
	7	国語力トレーニング 5 ―総合演習								配付資料を解く。 復習をする。				60分	
	8	美術館等施設見学(予定)								見学要項に目を通す。レポートを書く。				60分	
	9	絵本考察 1 ―絵本のことば								指定作品を読んでおく。				60分	
	10	絵本考察 2 ―翻訳作品								指定作品を読んでおく。				60分	
	11	絵本考察 3 ―演習 1								指定作品を読んでおく。				60分	
	12	絵本考察 4 ―演習 2								指定作品を読んでおく。				60分	
	13	絵本モンタージュ 1 ―『旅の絵本』を物語る 作品決め								指定作品を読んでおく。				60分	
	14	絵本モンタージュ 2 ―『旅の絵本』を物語る テキストを作る								テキストの構想を考える。				60分	
	15	絵本モンタージュ 3 ―『旅の絵本』をよむ 発表会								読み聞かせの練習をする。				60分	
成績評価の方法		定期試験(40%)、提出課題(50%)、授業態度・意欲(10%)													
課題のフィードバック		適宜、添削・点検をして返却する。													
テキスト		適宜、提示、配布をする。													
参考文献・資料		適宜、提示、配布をする。													

科目名		英会話演習		科目コード		1FS076		必修・選択		選択必修		授業形態		演習	
担当者		大西 絵理香		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						中高（英語）教諭免許を有し幼稚園で子ども向け英語教室を行っている教員が英会話について指導する。									
授業のねらいと概要		社会人・保育者としての社会生活で想定される英語によるコミュニケーションの技能や知識を学び、円滑な英会話能力を身につける。													
到達目標		(1) 英会話で用いられる基本的な語彙を習得することができる。 (2) 英語独特の発音や強弱の付け方を習得することができる。 (3) 語彙表現や発音習得を実際の会話に応用し、英語でコミュニケーションを取ることができる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○					○	○	○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション、 Unit 1: Nice to meet you. ---Talking about Ourselves								自己紹介に使う語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	2	Unit 2: What do you like to do? --- Talking about Hobbies and Pastimes								趣味や娯楽を表す語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	3	Unit 3: Where are you from? --- Talking about Hometowns								自分の出身地を説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	4	Unit 4: Who's that? ---Talking about Family								自分の家族構成を説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	5	Unit 5: Where's that? ---Talking about Places and Sights								観光名所やおすすめの場所を説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	6	Unit 6: How do we get there? --- Talking about Transportation and Directions								公共の交通機関利用を説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	7	Unit 7: Are you hungry? --- Talking about Food								食べ物の好みを説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	8	Unit 8: Let's eat! --- Talking about Restaurants and Meals								外食の場所を説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	9	Unit 9: What are you watching? --- Talking about Movies and TV								映画やテレビ番組について説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	10	Unit 10: What music do you like? --- Talking about Music								さまざまな音楽やミュージシャンについて説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	11	Unit 11: How much is it? --- Talking about Shopping								買い物する店や品物について説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	12	Unit 12: Let's play! --- Talking about Sports and Exercise								スポーツや運動について説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	13	Unit 13: Where are you going ? --- Talking about Travel and Vacations								旅行や休暇について説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	14	Unit 14: Do you work? --- Talking about Work and Jobs								仕事や職場について説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
	15	Unit 15: What do you want to do? --- Talking about Plans								さまざまな予定について説明するための語彙や構文を読んで理解する。				60分	
成績評価の方法		小テスト（30％、授業まとめから出題）、教材の課題提出（10％、配布プリントに記入）、授業内での質疑応答・参加態度・意欲（60％、質疑応答やペアワークへの取り組みから総合的に評価）													
課題のフィードバック		教材のプリントは指示された時に提出し、確認後、翌日に返却する。 授業内で行う小テストは、回収後採点し、翌日に返却する。													
テキスト		James Bury, Anthony Sellick, 堀内香織：『Complete Communication Book 1（コミュニケーションのための実践演習 Book 1＜初級編＞）（成美堂）													
参考文献・資料		光藤京子：『シンプル英語フレーズ 2000』（高橋書店） 野村真美：『気持ちを表す日常英語表現』（ベレ出版）													

科目名		身近な数とかたち		科目コード	1FL077	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者		小林 真人		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性										
授業のねらいと概要		洗濯物を吊るす、モバイルフォンでメッセージを送る、ぬり絵をするなど身近なものを例にとり、数とかたちについて、小・中学生の立場に戻り素朴に見つめ直す。簡単な工作や作業、グループ発表などの活動を通して、数とかたちに対する関心を高める。								
到達目標		(1) 身近にある数やかたちについての簡単な性質や法則をあげて、図や式で説明できる (2) 数やかたちを新たな切り口から捉えることに関心を持ち、それに対する印象を具体的に述べられる (3) 数やかたちについて得た新たな切り口を活かして、保育で使える「あそび」を提案できる								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
				○			○	○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	バランスを取ろう：棒にペットボトルを吊るして、平均値とバランスについて考える					事後：バランス感覚を養う保育の場面を見つける		60分	
	2	開けやすい蓋とは：蓋の回しやすさをもとに、釣り合いの取れる位置考える					事前：ペットボトル、ドリンク瓶で、どんな蓋が回しやすいか試す		60分	
	3	お店の混み具合を想像しよう：ヒストグラムという統計グラフを紹介し、それから傾向を読み取る					事前：架空のお店のお店の混み具合を想像し図に表す		60分	
	4	ヒストグラムを吊るそう：ヒストグラムを吊るして平均値を読み取る作業を行う					事後：ヒストグラムを描き、平均値を読み取る		60分	
	5	伝票立てを作ろう：紙を筒状に丸めて伝票立てを作り、サインウェーブを紹介する					事後：身近にサインウェーブを探す		60分	
	6	音とウェーブ：音叉を鳴らして、サインウェーブと音のつながりを理解する					事後：音やウェーブを使った遊びを考える		60分	
	7	もしも字が4つしかなかったら：スマートフォンはどのように文を覚え、伝えるのか考える					事後：4種の文字でメッセージを作り、ファイルサイズを調べる		60分	
	8	暗号でやりとり：工夫して暗号を作り、やりとりする					事後：メッセージを作り、暗号文に直す		60分	
	9	分数をかたちに：分数 2/3、4/5、… を図形で表して図形で計算する					事前：分数で表現できるものやされているものを身の回りを見つける		60分	
	10	ツリーの秘密：ツリーという枝分かれ図形を観察し、隠された法則を見つける					事後：筆記具などでツリーを作り、点の数と線の数記録する		60分	
	11	グラフの秘密：グラフという図形に隠された法則を見つける					事後：サッカー、バレー、バスケットボールの区切り模様に潜む数2を見つける		60分	
	12	1を作ろう：何倍かする、引くという操作で次々に数を作る					事後：4と6からどんな数が作れるか試す		60分	
	13	マス目で考えよう：マス目を使って2つの数から1を作る					事後：マス目でライフデザイン図を作成する		60分	
	14	ぬり絵を見直す：できるだけ色数をおさえてぬり絵を完成させる					事後：どうしても4色必要なぬり絵を作る		60分	
	15	発表会：数やかたちに無意識に親しむゲーム（遊び）をチームで考案し発表する					事後：他グループの考案したゲーム一つを解説し優れた点をあげる		60分	
成績評価の方法		定期試験（40％）、レポート（30％）、授業態度・意欲（30％）								
課題のフィードバック		毎回の授業のレポート（授業の要点とそれに対するあなたの印象や感想）にコメントして返却								
テキスト		なし								
参考文献・資料		必要な資料は講義の際に渡す								

科目名		情報処理Ⅱ		科目コード		1FL078		必修・選択		選択必修		授業形態		講義	
担当者		大島 加奈子		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						情報処理に関する各種資格を有する教員が、仕事に役立つアプリケーションソフトの操作方法について指導する。									
授業のねらいと概要		仕事に役立つパソコンスキル（Word、Excel、PowerPoint）の向上													
到達目標		(1) Word：ビジネス文書マナーを理解し、社外文書等をゼロから作成できる (2) Excel：四則演算や基本の関数を使いこなし、データの集計表ができる (3) PowerPoint：プレゼンテーションアプリを使用し、チラシ・ポスターの作成や簡単な動画の作成ができる													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
				○		○	○	○							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	Word：基本操作復習・ビジネス文書ルール・印刷について								事後：ビジネス文書ルールをしっかりと押さえておく				60分	
	2	Word：ビジネス文書・社内文書の作成 1								事前：タイピングを常に練習しておくこと				60分	
	3	Word：ビジネス文書・社外文書の作成 1								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	4	Word：ビジネス文書・表が入った社外文書の作成 2								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	5	Word：ちらし・ポスター作成								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	6	Excel：基本操作復習・関数の復習・印刷								事後：苦手な関数の確認の練習をする				60分	
	7	Excel：基本的な表作成・印刷・仕事で使える関数								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	8	Excel：表作成・効率の良い作成								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	9	Excel：表作成・関数以外のテクニック								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	10	Excel：表作成・ゼロからつくる表作成・データの管理								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	11	Excel：表作成・使いまわしのテクニック								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	12	PowerPoint：基本操作復習・印刷・WordやExcelとの違い								事後：それぞれのアプリの違いを確認する				60分	
	13	PowerPoint：基本的なスライド作成・印刷物の作成								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	14	PowerPoint：ポスター・チラシの作成								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
	15	PowerPoint：スライドを使った動画の作成								事後：未完了の練習問題を完成・提出				60分	
成績評価の方法		提出課題（80％）、授業態度・意欲（20％）													
課題のフィードバック		提出された課題に対し、コメント等を記入し返却。 なお、ビジネスマナーや計算式等の修正が必要な場合は期限内の再提出とする。													
テキスト		適時、資料・練習問題を配布する													
参考文献・資料		『Wordビジネス活用ドリル』『Excelビジネス活用ドリル』『PowerPointビジネス活用ドリル』『困ったときにすぐに使える!ビジネス文書大事典』(学研プラス)													

科目名		声楽Ⅱ A		科目コード		1ES081		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		櫻庭 優佳		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						小学校、中・高（音楽）教諭免許を有し、またプロの声楽家でもある教員がこれまでの「声楽」で学んだ内容をさらに深め歌唱に関する知識・技能を指導する。									
授業のねらいと概要		より豊かな歌声を目指し自身の声に向き合い続けることで、保育者として子どもの前で自信をもって歌えるよう歌唱の力を高める。また、子どもの成長に必要な不可欠である音楽活動を適切に援助し、音楽の喜びや楽しさを伝えることができるように「子どもの歌」について総合的な表現活動に取り組む。													
到達目標		(1)「子どもの歌」を中心とした歌唱表現ができる 1) 美しい日本語の発音に留意して歌唱することができる 2) 良い姿勢、良い表情で歌唱することができる 3) より良い演奏や発表を目指し、練習に取り組むことができる (2) 子どもの心に響く歌唱とは何か、向上心をもって音楽活動に取り組むことができる 1) 子どもの前で堂々と歌唱する姿をイメージしながら、楽しく演奏しようと心がけることができる 2) 音楽の特徴を捉え、子どもの心に働きかけるような工夫を加えることができる 3) グループで協力し合いながら、喜びを持って意欲的に音楽活動に取り組むことができる													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○		○	○		○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション 子どもの「声」に耳を傾けよう① 「子どもはいつから歌うのか」								シラバスの精読 プリントの課題への取り組み				60分	
	2	子どもの「声」に耳を傾けよう② 年齢と歌唱行動の特徴について								プリント課題への取り組み				60分	
	3	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)① 課題曲 4 曲について、クラス全体で歌唱に取り組む								課題曲の歌唱練習 配布した楽譜の製本				60分	
	4	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)② 8人程度のグループで選曲した「子どもの歌」について表現の方法を話し合う								アイディアや意見を出せるよう準備し、話し合った内容を記録する				60分	
	5	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)③ グループ活動～活動計画や役割分担を話し合う								課題曲の練習 話し合った内容を記録する				60分	
	6	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)④ グループ活動～計画に沿って歌の練習や制作に取り組む								計画に沿って必要なこと・物の準備				60分	
	7	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)⑤ グループ活動～同上								計画に沿って必要なこと・物の準備				60分	
	8	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)⑥ グループ活動～同上、必要に応じて伴奏合わせを行う								計画に沿って必要なこと・物の準備				60分	
	9	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)⑦ グループ毎にリハーサルに取り組む								リハーサルを経て気付いた修正点をグループで確認し練習する				60分	
	10	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)⑧ 発表を行い、互いの発表から学び合う								活動の振り返りと発表の感想を記録する				60分	
	11	季節の歌 1月～3月の歌 ① テキスト掲載の1月・2月の歌について取り組む								1月・2月の歌の歌唱練習				60分	
	12	季節の歌 1月～3月の歌 ② テキスト掲載の3月の歌について取り組む								3月の歌の歌唱練習				60分	
	13	「子どもの歌」の合唱① 各パートの音取りに取り組む								自分のパートの歌唱練習 配布した楽譜の製本				60分	
	14	「子どもの歌」の合唱② 2声もしくは3声の合唱に取り組む								自分のパートの歌唱練習と歌いこみ				60分	
	15	声楽Ⅱ Aのまとめ 【ミニテスト(筆記)】1～3月の歌について 夏季休業中課題について説明する(声楽Ⅱ Bに向けての課題となる)								課題の内容について理解し、課題に取り組む				60分	
成績評価の方法		試験(授業内での実技試験・発表)(40%)、ミニテスト(筆記)(20%)、 授業態度・意欲(提出物、練習やグループ活動の参加態度など)(40%)													
課題のフィードバック		グループ活動が多くなりますが、全員が役割を担い主体的に活動してほしいと願っています。毎時間振り返りを記録してください。単元終了後に回収し、コメント記入したものを返却します。発表等における評価の観点・ポイントはその都度明確にお伝えします。ミニテストは採点したものを返却します。													
テキスト		神原雅之 鈴木恵津子 編著：改訂『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 「聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)」													
参考文献・資料		東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) その他、その都度提示や紹介・配布をする													

科目名		声楽Ⅱ B		科目コード		1ES082		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		櫻庭 優佳		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						小学校、中・高（音楽）教諭免許を有し、またプロの声楽家でもある教員がこれまでの「声楽」で学んだ内容をさらに深め歌唱に関する知識・技能を指導する。									
授業のねらいと概要		声楽Ⅱ Aに引き続き、歌唱技術と実践力の向上を図るべく、様々な音楽表現活動等の発表に取り組む。「子どもに歌や音楽を楽しんでもらうには？」という視点を常に持ちながら学習してほしい。また、一つの曲、楽譜に書かれている音楽的な内容や詩の解釈について深く読み込む作品分析に取り組む中で、保育者として子どもと音楽の出会いをより尊いものへと導けるよう、学びを深める													
到達目標		(1)「子どもの歌」を中心とした歌唱表現ができる 1) 子どもの見本となるような美しい日本語の発音に留意して歌唱することができる 2) 子どもの前で堂々と歌唱する姿をイメージしながら、良い姿勢、良い表情で歌唱することができる 3) 子どもの五感に働きかけるような豊かな声で歌唱しようと心がけることができる (2) 曲が持つ魅力に気が付き、向上心をもって音楽活動に取り組むことができる 1) 歌詞の解釈や楽譜に記されている内容に興味を持ち、意欲的に分析に取り組むことができる 2) 曲の特徴を捉え、子どもの心に働きかけるような工夫を加えることができる 3) グループでも個人でも、喜びを持って意欲的に音楽活動に取り組むことができる													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○		○						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	「子どもの歌」の表紙制作 工夫を凝らし制作した表紙を鑑賞し、互いの作品から学び合う								シラバスの精読 「表紙」課題への取り組み				60分	
	2	「子どもの歌」の個人発表① 発表に向けて各自練習に取り組む、必要に応じて伴奏合わせを行う								「個人発表」課題への取り組み				60分	
	3	「子どもの歌」の個人発表② 発表を行い、互いの発表から学び合う								発表に向けての発展的練習 発表の振り返りと感想の記録				60分	
	4	「子どもの歌」の個人発表③ 個人発表に向けて制作したものを鑑賞し、互いの作品から学び合う								発表の振り返りと感想の記録				60分	
	5	クリスマスの発表(グループワーク)① 8人程度のグループで子どもと楽しめるクリスマスの発表を考える								クリスマスのグループ発表に向けての準備				60分	
	6	クリスマスの発表(グループワーク)② グループ毎に、計画作成や役割分担などを行い、発表までの見通しを持つ								グループ活動に向けての準備				60分	
	7	クリスマスの発表(グループワーク)③ グループ活動～計画に沿って歌の練習や制作に取り組む								グループ活動に向けての必要な準備				60分	
	8	クリスマスの発表(グループワーク)④ グループ活動～計画に沿って歌の練習や制作をさらに進める								グループ活動に向けての必要な準備				60分	
	9	クリスマスの発表(グループワーク)⑤ グループ活動～グループ毎にリハーサルに取り組む								リハーサルを経て気付いた修正点をグループで確認し練習する				60分	
	10	クリスマスの発表(グループワーク)⑥ グループ活動～発表会を行い、互いの発表から学び合う								活動の振り返りと発表の感想を記録する				60分	
	11	季節の歌や行事の歌① テキスト以外のたくさんの歌について知識を増やす								配布された楽譜の製本 プリント課題への取り組み				60分	
	12	季節の歌や行事の歌② 季節や行事を想定し、子どもの歌のレパートリー作成に取り組む								歌の練習とプリント課題への取り組み				60分	
	13	「子どもの歌」の作品分析① 任意の1曲について、作品分析に取り組む								任意の子どもの歌1曲の選曲と楽譜の準備				60分	
	14	「子どもの歌」の作品分析② 任意の1曲について、作品分析を深める								調べてきたことの楽譜への記入 課題提出のための準備				60分	
	15	「子どもの歌」の作品分析③／「声楽」のまとめ 自由記述課題「子どもにとって歌（音楽）とは何か」								課題提出のための準備 これまでの授業の復習				60分	
成績評価の方法		実技発表（個人発表・グループ発表）（40％）、提出物（20％）、授業態度・意欲（練習やグループ活動の参加態度など）（40％）													
課題のフィードバック		グループ活動が多くなりますが、全員が役割を担い主体的に活動してほしいと願っています。毎時間活動の記録と振り返りを忘れず行ってください。単元終了後に回収し、コメント記入したのち返却します。発表や提出物等における評価の観点・ポイントはその都度明確にお伝えします。													
テキスト		神原雅之 鈴木恵津子 編著：改訂『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 「聖歌集『神をたたえて』（聖園学園短期大学）」													
参考文献・資料		東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社） その他、その都度提示や紹介・配布をする													

科目名		身体表現Ⅰ		科目コード		1ES086		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		内藤 裕子		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性															
授業のねらいと概要		・ ころが動くあそびを追求する。 ・ あそびを通して幼児の表現とその発達について理解する。													
到達目標		(1) 子どもの気持ちに寄り添うあそびについて理解できる。 (2) あそびをの重要性を理解し、指導法をみがく。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性							
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容							事前・事後学習			時間			
	1	オリエンテーション							予習・復習に関する資料を確認する			各30分			
	2	子どもを取り巻く環境を考える							〃			各30分			
	3	表現とは何か							〃			各30分			
	4	あそびと表現							〃			各30分			
	5	創作ダンス1（創作ダンスの魅力について）							〃			各30分			
	6	創作ダンス2（グループ分け・諸注意）							〃			各30分			
	7	創作ダンス3（動作・姿勢についての考察）							〃			各30分			
	8	創作ダンス4（表情についての考察）							〃			各30分			
	9	創作ダンス5（発表に向けての考察）							〃			各30分			
	10	創作活動（発表）1（途中発表・確認）							〃			各30分			
	11	創作活動（発表）2（本番）							〃			各30分			
	12	運動あそびの実際 1							〃			各30分			
	13	運動あそびの実際 2							〃			各30分			
	14	あそびの指導法							〃			各30分			
	15	まとめ（あそびの魅力についての考察）							〃			各30分			
成績評価の方法		提出課題（30％）、実技発表（30％）、授業態度・意欲（40％）													
課題のフィードバック		授業内容と得た知識についての感想を添削して返却する。													
テキスト		なし													
参考文献・資料		必要に応じて配布する													

科目名		音楽表現Ⅱ		科目コード		1ES087	必修・選択	選択必修	授業形態	演習		
担当者		東海林 美代子、他 3 名		担当形態		クラス分け	単位数	2	学年 期間	2 年・前期		
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						ピアノ教室を主宰するなど、様々な音楽活動を行っている教員が、子どもの歌の弾き歌いについて、ピアノ、歌唱の両面から指導する。						
授業のねらいと概要		子どもの歌の「弾き歌い」を理解し、演奏技術を修得できるようにする。全体での歌唱とグループ分けによるピアノという授業体制により、両面から「弾き歌い」について学習し、併せて全体でのピアノ伴奏も経験する。										
到達目標		(1) ピアノテキストSTEP1 とSTEP2 の子どもの歌について、楽曲を理解し表情豊かに歌うことができる。 (2) 上記の楽曲の中から 15 曲程度を簡易伴奏も含め弾き歌いができる。										
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性				
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力		
		○	○	○	○	○	○		○			
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間		
	1	歌唱			ピアノ			毎回の授業に向けて2～3曲を目安に、歌唱・伴奏・弾き歌いの練習に取り組む		60分		
	2	授業内容、進め方について説明する			3～4人のグループに分かれ、STEP1の子どもの歌について、伴奏と弾き歌いに取り組む					60分		
	3	STEP 1の子どもの歌に取り組む						間違えずに演奏できるまで十分に練習し授業に臨むこと		60分		
	4	楽曲を理解し、はっきりと歌えるようにする			毎回 2～3 曲を練習し、個人レッスンにより指導を受ける					60分		
	5	交互に伴奏をし合う			伴奏が難しい場合には他のテキストや楽譜を使用する			毎日 1 時間程度の練習が望ましい		60分		
	6	多数での歌唱の伴奏を経験し、伴奏法を学ぶ								60分		
	7	子どもの歌の 1 曲を弾き歌いで演奏し、互いに聴き合う								60分		
	8	歌唱			ピアノ					60分		
	9	STEP 2の子どもの歌に取り組む			3～4人のグループに分かれ、STEP2の子どもの歌について、伴奏と弾き歌いに取り組む					60分		
	10	楽曲を理解し、表情豊かに歌えるようにする								60分		
	11	交互に伴奏をし合う			毎回 2～3 曲を練習し、個人レッスンにより指導を受ける					60分		
	12	多数での歌唱の伴奏の経験を増やす			伴奏が難しい場合には他のテキストや楽譜を使用する					60分		
	13									60分		
	14				楽曲を理解し、表情豊かに弾き歌いができるようにする					60分		
	15	子どもの歌の 1 曲を弾き歌いで演奏し、互いに聴き合う振り返りと授業評価								60分		
成績評価の方法		毎回の授業への準備と授業態度・意欲（50％）、実技発表（50％）										
課題のフィードバック		毎回、全体での歌唱指導とグループによるピアノの個人レッスンを繰り返し行う										
テキスト		東京福祉保育専門学校編：『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）										
参考文献・資料		神原雅之・鈴木恵津子編著：『改訂 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）										

科目名		造形表現Ⅱ		科目コード		1ES088	必修・選択	選択必修	授業形態	演習
担当者		鎌田 悟		担当形態		単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						小、中・高（美術）教諭免許を有し、現場経験のある教員が、「造形表現Ⅰ」で学んだ内容をさらに深め様々な造形表現について指導する。				
授業のねらいと概要		環境構成や絵本制作などの造形活動を通して、必要な知識・技能を習得し、幼児の発達段階に応じた具体的な支援を理解する。								
到達目標		(1)基礎的な知識や技能を応用した作品を制作することができる。 ①絵本等のテーマを明確にした制作 ②季節感を効果的に表す展示方法や壁面構成 (2)幼児の発達段階に応じた支援と環境作りができる。 ①幼児の制作活動への支援 ②園内の行事などをイメージした掲示・環境構成								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○				○	○	○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	表現を通して育てたい資質能力、保育者の役割、支援の在り方について理解する。						幼児の発達に応じた支援について具体的に考える。		120分
	2	造形遊びの体験 つなぐ・つるす・貼るなど大きな空間を飾る活動を楽しむ。						幼児と共に作り上げる環境作りをイメージする。		120分
	3	季節感を表す環境構成Ⅰ 春、夏の内容を選択・制作し、自分たちで掲示する。						幼児がイメージを持てるような環境構成について考える。		120分
	4	絵本をつくろうⅠ 絵本づくりトレーニングをして、内容のラフスケッチ（原案作成）する。						基本的な絵本の構造が分かる。構想を練る。		120分
	5	絵本をつくろうⅡ ストーリーの流れやページ数などを確認して各ページの下描きをする。						ページ数を踏まえたストーリー、画面構成に配慮する。		120分
	6	絵本をつくろうⅢ 絵の具、色鉛筆、色紙等で画面を仕上げる。						自分の絵本に必要な材料を用意する。		120分
	7	絵本をつくろうⅣ 製本して完成させ、友だちと交換して鑑賞する。						お互いの作品の良さ等について感想を発表しあう。		120分
	8	生き物づくりⅠ 木片や紙管など身近な材料で生き物を作る。						身近な素材をどう活用するか考えておく		120分
	9	生き物づくりⅡ 作った生き物に毛糸や絵具等で装飾する。						展示したり、写真に撮ったりして相互に鑑賞する。		120分
	10	お弁当を作ろうⅠ 食べる人をイメージしてアイデアスケッチをする						どんなお弁当を作るか事前に調べ構想を練る		120分
	11	お弁当を作ろうⅡ 紙粘土を使って具材を作る						紙粘土以外の材料をどう組み合わせるか構想を練る。		120分
	12	お弁当を作ろうⅢ 彩や配色を考えて盛り付け互いの作品を鑑賞する。						お互いの作品の良さ等について感想を発表しあう。		120分
	13	季節感を表す環境構成Ⅱ 秋の掲示物の内容を選択・制作し掲示する。						幼児が秋のイメージを持てるような内容を考えて作る。		120分
	14	「作品持ち帰り袋」をつくろう 段ボールや色画用紙などを使って制作する。						「運ぶ・入れる」などの機能を重視して制作する。		120分
	15	子どもの遊びと造形表現について 幼児の感性・創造性を豊かにする表現活動、遊びについてまとめる。						造形表現や環境構成等について振り返り、整理する。		120分
成績評価の方法		課題提出（50％）、授業態度（集中力・意欲・持続力）（50％）								
課題のフィードバック		壁面等を利用して自分たちで作品を展示し、鑑賞の機会をもつ。								
テキスト										
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説』 随時、自作のプリントを作成し配付する。								

科目名		身体表現Ⅱ		科目コード		1ES089	必修・選択	選択必修	授業形態	演習
担当者		内藤 裕子		担当形態		単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性										
授業のねらいと概要		・こころが動くあそびを追求する。 ・あそびを通して幼児の表現とその発達について理解する。								
到達目標		(1) 子どもの気持ちに寄り添うあそびについて理解できる。 (2) あそびの重要性を理解し、指導法をみがく。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○	○	○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	オリエンテーション						予習・復習に関する資料を確認する		各30分
	2	子どもを取り巻く環境を考える						〃		各60分
	3	表現とは何か						〃		各30分
	4	あそびと表現						〃		各30分
	5	幼児体操について						〃		各30分
	6	幼児体操の実際（既存の振り付けの紹介）						〃		各30分
	7	幼児体操の実際（オリジナル作品の紹介）						〃		各30分
	8	幼児体操の創作1（グループ分け・話し合い）						〃		各30分
	9	幼児体操の創作2（動作・姿勢についての考察）						〃		各30分
	10	幼児体操の創作3（視線等、細かな身体表現の確認）						〃		各30分
	11	発表						〃		各30分
	12	運動あそびの実際 屋内あそび						〃		各30分
	13	運動あそびの実際 屋外あそび						〃		各30分
	14	あそびの指導法						〃		各30分
	15	まとめ（運動あそびの魅力についての考察）						〃		各30分
成績評価の方法		提出課題（30％）、実技発表（30％）、授業態度・意欲（40％）								
課題のフィードバック		授業内容と得た知識についての感想を添削して返却する。								
テキスト		なし								
参考文献・資料		必要に応じて配布する								

科目名		保育内容の指導法 健康		科目コード	1ES025	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		猿田 興子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「健康」について指導する。					
授業のねらいと概要		領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、乳幼児が自ら健康で安全な生活を知り実行できる力を養うために必要な知識・技術を身につける。事例に触れる中で、保育者のかかわり方や環境構成、運動遊びなど実践的な学びを取り入れる。そこからつながる乳幼児期の健康にかかわる生活習慣や心身の発育・発達、運動機能発達の特徴の理解を深め、適切な指導法を学ぶ。								
到達目標		(1) 幼稚園教育（保育含む）の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解し考えることができる。 (2) 領域『健康』のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 (3) 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (4) 幼児の心情・認識・思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 (5) 領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 (6) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、振り返りを通して、その後の保育を改善する視点を身に付けている。 (7) 領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○		○	○	○	○	○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション 幼児教育の基本 ～幼児教育の基本・育みたい脂質・能力・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	2	幼児教育の基本 ～環境を通しての教育と保育者のさまざまな役割 遊びを通しての総合的な指導～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	3	子どもの育ちと領域「健康」 ～乳幼児期の運動能力と発達の特徴・情緒の安定について～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	4	子どもの育ちと領域「健康」 ～生活習慣の形成 子どもの発達と安全な生活について～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	5	子どもの「健康」をめぐる現状と課題 ～子どもたちの生活と運動能力の現状、心身の変化について～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	6	子どもの「健康」をめぐる現状と課題 ～効果的な運動能力向上につながる保育内容について～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	7	子どもの健康と遊び ～乳児（1・2歳児）の遊びと保育者の援助について～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	8	子どもの健康と遊び ～さまざまな遊びと子どもの興味を引き出す環境の構成～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	9	園生活と生活習慣 ～園生活を通して育む生活習慣 園生活と食 園生活と睡眠～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	10	園生活と生活習慣 ～園環境と当番活動 生活習慣を育む保育者の役割と保護者連携～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	11	子どもの健康と安全教育 ～安全教育について 遊びの中で育む安全の意識～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	12	子どもの健康と安全教育 ～計画的な指導を通して育む安全の意識 事故対応について～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	13	幼児教育における現代の課題と領域「健康」 ～領域「健康」の課題を探る中で適切な保育内容を考える～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	14	幼児教育における現代の課題と領域「健康」 ～保育者の役割とともに、生涯発達という広い視野で「健康」を捉える～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
	15	授業のまとめ ～幼児を取り巻く現代の課題を踏まえた健やかな心と身体を育む保育～					事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		60分	
成績評価の方法		試験（60％）、レポート・指導計画・小テスト（30％）、授業態度・意欲（10％）								
課題のフィードバック		授業内で配布する資料への書き込みとレポート・小テストも試験採点と合わせて採点対象とし、終了後返却する。								
テキスト		無藤隆ほか：「事例で学ぶ 保育内容 領域「健康」(萌文書林)								
参考文献・資料		幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典								

科目名		保育内容の指導法 人間関係		科目コード		1ES026	必修・選択	必修	授業形態	演習
担当者		加藤 順子		担当形態		単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						幼稚園副園長の経験のある教員が、現場での知見を生かし、領域「人間関係」について指導する。				
授業のねらいと概要		幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について理解を深め、幼児が人と関わる力の基礎を養うことの重要性を知る。その上で、幼児が、他の人と親しみ、支え合って生活し、自立心をもって主体的に人と関わる力を養う具体的な指導場面を想定した保育の方法を身に付ける。								
到達目標		(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容の全体構造を理解している。 (2) 幼児期に人と関わる力の基礎を養うことの重要性と指導上の留意点を理解している。 (3) 保育における評価の考え方を理解している。 (4) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と小学校以降の生活とのつながりについて理解している。 (5) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。 (6) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に生かすことができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなどの留意点を理解している。 (7) 乳幼児期の発達を考慮し、遊びや生活の中で幼児の内面を捉えて、人間関係を深める具体的な援助について考えることができる。 (8) 具体的な保育を想定して指導案を作成し、ロールプレイやグループカンファレンス等を通して保育を改善する視点を身に付けている。 (9) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○		○	○		○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	保育の基本、保育内容の5領域と「人間関係」との関連・「生きる力」の原点としての人間関係について理解する。						事前に幼稚園教育要領第1章・2章を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	2	幼児理解と一人一人に応じる保育の必要性（ビデオ視聴・考察、情報交換）・一人一人の思いや願いの捉えと個に応じる保育者の支援を考える。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	3	保育内容「人間関係」に示されている3項目のねらいと13の内容・保育における「人間関係」の重要性と内容の取扱いについて理解する。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	4	乳児期における「人との関わり」の発達と保育者の援助・エピソード記録により援助の在り方を探る。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	5	幼児期における「人との関わり」の発達と自立心を育む保育者の援助・エピソード記録に関するグループカンファレンスにより援助の在り方を探る。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	6	児童期以降の「人との関わり」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」・人間関係の発達と幼小の連携について理解を深める。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	7	遊びの重要性と遊びの中で育つ「人との関わり」(自己主張、ルール、折り合い、協同等)・エピソード記録等により、遊びの中で育つ人間関係と保育者の援助について考える。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	8	生活の中で育つ「人との関わり」と協同的な活動の構想・指導案作成と振り返り・評価により、指導案改善について考える。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、指導案作成に関する課題に取り組む。		60分
	9	「人間関係」を深める遊びや活動・人間関係を深める遊びや活動を紹介し合い、遊びの重要性を理解する。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	10	多様な乳幼児の理解と保育者の援助の工夫・個性の尊重と障害児への関わりについてグループカンファレンス等により理解を深める。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	11	保育者同士の連携と園全体での連携、保護者との連携、地域との連携・具体的な事例を通し、連携の重要性を知る。 ・保護者面談のロールプレイを体験する。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	12	人間関係を育む保育者の保育上の留意点・「自我の育ちと自己制御」「依存と自立」「社会化と個性化」等から保育の本質を振り返る。						事前に教育要領解説の関連部分を読む。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	13	人間関係の今日的な課題と情報機器の活用・「人と関わる力」における今日的な課題について考えとともに、具体的な援助及び指導における教材や情報機器の活用について探る。						事前に今日的課題について情報収集する。授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分
	14	幼児理解と保育者の資質向上（ビデオ視聴・グループカンファレンス）・「人間関係」を育てる保育者としての学びと自身の変容について自己評価する。						保育者としての自身の学びと変容についてまとめる。		60分
	15	豊かな「人間関係」を育てる保育者の成長と自己教育力・保育者としての夢と保育者としての成長について語り合う。						自身のこれまでの学びや課題、今後の成長についてまとめる。		60分
成績評価の方法		定期試験（60％）、提出課題（20％）、授業態度・意欲（20％）								
課題のフィードバック		提出された課題やリアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。 質問事項については、次の授業において全体で共有する。								
テキスト		『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）								
参考文献・資料		『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 授業時に資料を配付する。その他、授業の中で提示や紹介をする。								

科目名		保育内容の指導法 環境		科目コード	1ES027	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「環境」について指導する。					
授業のねらいと概要		子どもを取り巻く環境について学び、幼児期にふさわしい環境を考えることができるようになる。また、「環境を通して行う教育」および子どもが環境にかかわって遊ぶことの重要性について理解する。								
到達目標		(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容ならびに全体構造を理解する。 (2) 領域「環境」のねらいおよび内容を踏まえ、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。 (3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解する。 (4) 領域「環境」にかかわる周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と小学校以降の教科等とのつながりを理解する。 (5) 子どもの心情、認識、思考および動き等を視野に入れた保育計画の重要性を理解する。 (6) 領域「環境」の特性および子どもの体験との関連を考慮した情報機器および教材の活用を理解し、保育計画に活用することができる。 (7) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育計画の向上に取り組むことができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○		○		○	○	○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	領域「環境」の意義 子どもが環境とかかわることの重要性					(事前) 幼稚園教育要領の第2章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	2	保育と環境 領域「環境」のねらいと内容					(事前) 幼稚園教育要領の第2章を読む (事後) プリントを見返し、授業のまとめ		60分程度	
	3	子どもの育ちと領域「環境」 幼児期の特性を踏まえた環境					(事前) 幼稚園教育要領の序章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	4	子どもを取り巻く物的環境Ⅰ 遊びや生活の中のもの・道具、ものの性質と仕組み					(事前) 子どもの生活の中にある様々なものについて調べる (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	5	子どもを取り巻く物的環境Ⅱ 数量や図形、文字や標識とのかかわり					(事前) 子どもの生活の中にある文字や数、標識などを調べる (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	6	子どもを取り巻く自然環境 身近な自然へのかかわり(季節、植物、生きもの)					(事前) 幼少期の自分の経験から、子どもにとっての自然の意味を考える (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	7	子どもを取り巻く文化的環境 文化財へのかかわり(絵本、紙芝居、行事)					(事前) 子どもがかかわる文化財について調べる (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	8	子どもを取り巻く人的環境 友達の存在、保育者の役割					(事前) 幼稚園教育要領第1章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	9	指導計画の作成Ⅰ 活動・ねらいの設定、指導計画の作成上の留意点					(事前) 幼稚園教育要領第1章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	10	指導計画の作成Ⅱ 指導計画に基づいた保育					(事前) 幼稚園教育要領第1章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	11	子どもの発達と園の環境 生命の保持、情緒の安定					(事前) 「生命の保持」、「情緒の安定」について調べる (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	12	生きる力を育む環境Ⅰ 好奇心・探求心を育む環境					(事前) 幼稚園教育要領第2章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	13	生きる力を育む環境Ⅱ 自立心・道徳心を育む環境					(事前) 幼稚園教育要領第3章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	14	環境を通して行う教育 かかわりたくなるような環境の構成					(事前) 幼稚園教育要領第4章を読む (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
	15	環境を通して行う教育の課題 子どもを取り巻く社会環境・保育環境の課題					(事前) これまでの授業の中から保育の課題と思われることを自分なりに考えてまとめる (事後) プリントを見返し、復習をする		60分程度	
成績評価の方法		リアクションペーパー(20%)、定期試験(60%)、授業態度(20%)								
課題のフィードバック		講義後、リアクションペーパーに記入された学びや疑問について次回の講義で解説し、理解を深める								
テキスト		田尻由美子・無藤隆編著：『保育内容 子どもと環境 ―基本と実践事例― 第3版』(同文書院)								
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説書』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)								

科目名		保育内容の指導法 表現		科目コード	1ES029	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「表現」について指導する。					
授業のねらいと概要		幼児の表現に関する現状や課題を踏まえて、領域「表現」のねらいや内容について理解を深める。 幼児の表現の発達に即して、主体的・対話的で深い学びをしながら具体的な指導面を想定した保育の方法を身に付ける。								
到達目標		(1) 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい、内容を理解することができる。 (2) 幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の重要性を理解することができる。 (3) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の方法を身に付けることができる。 (4) 模擬保育、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを通して、保育の質を高める視点を身に付ける。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○		○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい、および内容を理解する。								
	2	領域「表現」と「幼児期に育ってほしい10の姿」を具体的に関連付けることを通し、幼稚園教育要領のねらい、内容、取り扱いの注意を理解する。					テキストを読み、2回の講義のノートをとめる		120分	
	3	事前に学習した事例や著書を通し、乳幼児の心情・認識・思考について考察し、領域「表現」の内容の指導上の留意点について理解する。					事前に内容に適した事例や著書を調べる。		120分	
	4	五感を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴、面白さ、留意点などを考える。(1) 類似体験を通した表現活動					実践した活動の振り返りをノートにまとめる。		60分	
	5	五感を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴、面白さ、留意点などを考える。(2) 1歳から3歳の表現活動					実践した活動の振り返りをノートにまとめる。		60分	
	6	五感を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴、面白さ、留意点などを考える。(3) 3歳から5歳の表現活動					実践した活動の振り返りをノートにまとめる。		60分	
	7	身近な素材などを用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴、面白さ、留意点などを考える。(1) 1歳から3歳の表現活動					実践した活動の振り返りをノートにまとめる。		60分	
	8	身近な素材などを用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴、面白さ、留意点などを考える。(2) 3歳から5歳の表現活動					実践した活動の振り返りをノートにまとめる。		60分	
	9	実践した活動の振り返りをグループワークを通してディスカッションをする。								
	10	実践した活動の振り返りのディスカッションを通して保育の質を高める視点をさぐり、活動のスキルを身に付ける。					実践した活動の振り返りをノートにまとめる。		60分	
	11	領域「表現」のねらい及び内容を理解し、具体的な保育場面を想定した指導案作成に取り組む。					指導案作成に必要な著書等を調べる。		60分	
	12	個々に作成した指導案をもとに模擬保育を展開できるようグループワークを通し指導案をまとめる。								
	13	作成した指導案をもとに模擬保育を展開できるよう準備を進める。					教材準備を行う。		120分	
	14	作成した指導案をもとに、模擬保育を実践する。					実践した活動の振り返りをノートにまとめる。		60分	
	15	指導案作成や実践を通して「表現」の授業を振り返り幼児理解に基づいた視点から保育構想の向上に取り組む。								
成績評価の方法		課題提出（60％）、実技試験（20％）、ノート含む授業態度（20％）								
課題のフィードバック		実技試験の評価を伝え、保育スキルの向上に生かす。提出されたレポートにコメント記入して返却する。								
テキスト		「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」適宜、資料を配布する。								
参考文献・資料		「保育用語辞典」								

科目名		子どもと健康		科目コード	1ES090	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		内藤 裕子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性										
授業のねらいと概要		子どもの心身の発達について理解を深め、安全な生活習慣には何が必要かを学ぶ。運動あそびが、子どもの心身の発達に与える好影響について、理解を深める。								
到達目標		(1) 子どもの健康課題と健康の発達の意味を理解する。 (2) 子どもの運動発達の特徴と運動あそびの関係を理解する。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○	○	○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション					予習・復習に関する資料を確認する		各30分	
	2	健康の定義について					〃		各30分	
	3	子どもの健康をめぐる現状と課題について					〃		各30分	
	4	子どもの健康と食の関係					〃		各30分	
	5	子どもの健康と睡眠の関係					〃		各30分	
	6	こどもの健康と運動の関係					〃		各30分	
	7	生活習慣と安全な環境づくり					〃		各30分	
	8	潜在危険について					〃		各30分	
	9	体力について					〃		各30分	
	10	運動あそびが心身に与える影響					〃		各30分	
	11	運動あそびの実際1 用具を使う屋外でのあそび					〃		各30分	
	12	運動あそびの実際2 用具を使う屋内でのあそび					〃		各30分	
	13	運動あそびの実際3 用具を使わない屋外でのあそび					〃		各30分	
	14	運動あそびの実際4 用具を使わない屋内でのあそび					〃		各30分	
	15	まとめ （運動あそびの意義の再確認）					〃		各30分	
成績評価の方法		提出課題（30％）、レポート（30％）、授業参加態度（40％）								
課題のフィードバック		授業内容と得た知識についての感想を添削して返却する。								
テキスト		なし								
参考文献・資料		必要に応じて、提示する								

科目名		子どもと人間関係		科目コード	1ES091	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		保坂 和貴		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					教育委員会等が主催する幼稚園教諭・保育士のキャリアアップ研修（初任者研修・園内研修リーダー講習等）の指導経験のある教員が、領域「人間関係」における指導の方向性を考察できるように指導する。					
授業のねらいと概要		乳幼児期の子どもの人とかかわり、人間関係の具体的なあり方を、その育ちと学びから理解するとともに、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「人間関係」の内容を保育の基本や他の領域との関連のなかで批判的に思考し理解を深める。それらを通して保育を構想するための基礎的知識・技能を身につけることを目的とする。								
到達目標		(1) 子どもを取り巻く「人間関係」をめぐる現代的課題を理解する。 (2) 関係論的視点から乳幼児期における子どもの生活と発達を理解する。 1) 乳児期に育つ人とかかわる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 2) 幼児期の遊びや生活の中で育つ人とかかわる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちの観点から説明できる。 3) 自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 4) 協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 5) 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 6) 家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○		○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション：保育の基本と「子どもと人間関係」					実習等で印象に残っている子どものエピソードをまとめておく		60分	
	2	人とかかわりが育つ道筋①：乳児期の人間関係					リフレクション・シートに授業の内容およびグループワーク・ディスカッションの内容を振り返って考察し記述する		60分	
	3	人とかかわりが育つ道筋②：幼児期の人間関係					リフレクション・シートに記述する		60分	
	4	遊びのなかで育つ人とかかわり①：自発的活動としての遊び					リフレクション・シートに記述する		60分	
	5	遊びのなかで育つ人とかかわり②：保育者の援助の意味					リフレクション・シートに記述する		60分	
	6	ひとりの子どもと集団の育ち					リフレクション・シートに記述する		60分	
	7	集団の育ちと個の育ち：個と共同性をめぐって					リフレクション・シートに記述する		60分	
	8	さまざまな生活のなかで育つ人間関係：園で生活することの意味					リフレクション・シートに記述する		60分	
	9	いざこざやケンカが育むもの					リフレクション・シートに記述する		60分	
	10	道徳性・規範意識の芽生えと育ち					リフレクション・シートに記述する		60分	
	11	人とかかわりを育てる保育の実践①：エピソードを描いて考察する					これまでの内容を踏まえエピソードを記述する		60分	
	12	人とかかわりを育てる保育の実践②：エピソード・カンファレンス					これまでの内容を踏まえエピソードを記述する		60分	
	13	幼児期から児童期にかけての人とかかわり：幼保小連携・接続をめぐって					リフレクション・シートに記述する		60分	
	14	子どもを取り巻く社会的環境：家族・園・地域社会					リフレクション・シートに記述する		60分	
	15	まとめ：人と人とかかわりを育むことの意味					自らを振り返り、保育者としての課題についてまとめる		60分	
成績評価の方法		レポート（20％）、各回のリフレクション課題（60％）、授業内課題（20％）								
課題のフィードバック		各回の事後学習として実施するリフレクションシートの内容にコメントを記入し返却する								
テキスト		なし 授業の際にプリントを配布する								
参考文献・資料		森上史朗・今井和子（1992）集団ってなんだろう：人とかかわりを育む保育実践 ミネルヴァ書房 森上史朗・小林紀子・渡辺英則編（2009）保育内容「人間関係」(最新保育講座8) ミネルヴァ書房 鯨岡峻・鯨岡和子（2007）保育のためのエピソード記述入門 ミネルヴァ書房								

科目名		子どもと環境		科目コード	1ES092	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「環境」における指導の方向性を考察できるように指導する。					
授業のねらいと概要		子どもの発達には子どもを取り巻く様々な環境とのかかわりが重要となる。子どもの発達にとって環境がどのような意味をもつのかを理解し、ふさわしい環境を構成するための知識や技能を身につける。また、自然観察や科学遊び等の体験を通して、子どもと身近な環境とのかかわり方の発達等について理解を深める。								
到達目標		(1)子どもを取り巻く環境の諸側面(物的環境、人的環境、社会環境、安全等)と、子どもの発達におけるそれらの重要性について説明できる。 (2)子どもと環境とのかかわり方について専門的概念(能動性、好奇心、探究心、有能感等)を用いて説明できる。 (3)体験を通して、子どもの発達にとって適切な環境を考えることができる。 (4)子幼児期の認知発達の特徴と筋道を説明できる。 (5)子どもの数量・図形とのかかわり、生物・自然とのかかわりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。 (6)子どもを取り巻く標識・文字、子どもの生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。 (7)児童文化財や地域の環境資源を活用した保育の意義について理解する。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○		○		○	○	○		
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	子どもを取り巻く環境Ⅰ	物的環境・人的環境・社会環境・自然環境のもつ意味			(事前)それぞれの環境の意味・内容を調べる (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	2	子どもを取り巻く環境Ⅱ	園生活の中で様々な環境と触れ合う重要性			(事前)子どもが園内で出合う環境について考える (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	3	子どもを取り巻く環境Ⅲ	季節・自然と子どものかかわり			(事前)子どもと四季のかかわりを遊びを通して考える (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	4	子どもと生活Ⅰ	主体的に取り組む「片付け」			(事前)園生活の中の片付けについて考える (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	5	子どもと生活Ⅱ	食べる意欲につながる食環境			(事前)園生活の中の食事について考える (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	6	身近な自然とのかかわり	自然環境を活用した遊び			(事前)戸外での活動について調べる (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	7	身近な自然とのかかわり	【グループワーク】ネイチャーゲーム「フィールドビンゴ」とは			(事前)ネイチャーゲームについて調べる (事後)グループワークのまとめをする		60分程度		
	8	身近な自然とのかかわり	【グループワーク】ビンゴカード作成			(事前)フィールドビンゴについて調べる (事後)グループワークのまとめをする		60分程度		
	9	園内・園庭の環境	遊び・生活の中での文字・標識・数量の取り扱い			(事前)標識や表示・文字への関心について調べる (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	10	健康・安全を意識した環境	日常生活の中にある標識・マーク			(事前)園内・園庭の標識や表示・文字について調べる (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	11	健康・安全を意識した環境	健康・安全のための掲示ポスターデザイン			(事前)健康・安全な生活について調べる (事後)園内の掲示について考える		60分程度		
	12	健康・安全を意識した環境	健康・安全のための掲示ポスター製作			(事前)製作に必要な物の準備をする (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	13	身近な素材とのかかわり	身近にある素材の活用			(事前)手作り教材に使用できる素材を収集する (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	14	身近な素材とのかかわり	身近にある素材を活用した手作り玩具製作			(事前)手作り教材に使用できる素材を収集する (事後)授業内容の復習をする		60分程度		
	15	身近な素材とのかかわり	身近な素材を利用した玩具製作のレポート作成			(事前)製作に使用する物の準備をする (事後)作品・レポートを完成する		60分程度		
成績評価の方法		提出課題・レポート(50%)、グループワークへの取り組み(30%)、授業態度(20%)								
課題のフィードバック		提出された課題・レポートにコメントをつけて返却する								
テキスト		特になし								
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説書』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)								

科目名		子どもと表現		科目コード	1ES094	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者		東海林 美代子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					音楽教室の講師やコンサート活動を主催・参加するなど現場経験のある教員が、領域「表現」における指導の方向性を考察できるように指導する。					
授業のねらいと概要		領域「表現」は、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目指すものである。保育現場で必要となる音楽表現方法について学び、指導力の基礎となる知識や表現力を修得する。								
到達目標		(1)『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等に示されている領域「表現」のねらい及び内容を理解している。 (2)子どもの音楽表現について考察し理解できる。 (3)合奏を楽しむことができる。 (4)子どもの歌1曲を弾き歌いで演奏することができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	領域「表現」のねらい及び内容の理解① 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿					『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』等の該当する内容について確認し、理解する		30分	
	2	領域「表現」のねらい及び内容の理解② 子どもの豊かな感性と表現							30分	
	3	領域「表現」のねらい及び内容の理解③ 乳児の表現							30分	
	4	領域「表現」のねらい及び内容の理解④ 3歳未満児の表現							30分	
	5	領域「表現」のねらい及び内容の理解⑤ 3歳以上児の表現とまとめ					活動内容に応じて準備・練習をする		30分	
	6	確認テスト 保育を豊かにする音楽活動①							30分	
	7	保育を豊かにする音楽活動②							30分	
	8	実習で見つける子どもの音楽表現活動①							30分	
	9	実習で見つける子どもの音楽表現活動②					グループ内で話し合われた内容についてまとめる		30分	
	10	実習で見つける子どもの音楽表現活動③ レポート提出							30分	
	11	保育を豊かにする音楽的活動③ 子どもの歌の「弾き歌い」に挑戦しよう					各自が必要だと考える準備・練習をする 実技試験には十分練習をして臨むこと		60分	
	12	保育を豊かにする音楽的活動④ 保育士試験課題曲に挑戦しよう							60分	
	13	ミュージックベル・トーンチャイムによる合奏①							60分	
	14	実技試験 子どもの歌1曲を弾き歌いで演奏する① ミュージックベル・トーンチャイムによる合奏②							60分	
	15	実技試験 子どもの歌1曲を弾き歌いで演奏する② 領域「表現」について まとめ							60分	
成績評価の方法		授業への参加態度・意欲および発表(20％)、実技試験(40％)、レポート課題(20％)、確認テスト(20％)								
課題のフィードバック		レポート課題・確認テストは内容を確認し返却する								
テキスト		神原雅之・鈴木恵津子編著：『改訂 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）								
参考文献・資料		文部科学省：『幼稚園教育要領』、厚生労働省：『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（以上 フレーベル館）								

科目名		教育原理		科目コード	1EL030	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者		古内 一樹		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					中・高の教員免許を有し、教育行政に関わった経験のある教員が、教育の基本的概念について解説する。					
授業のねらいと概要		教育の基本的概念の理解を基に、教育理念や教育思想の流れと、様々な教育実践を歴史的に俯瞰しながら考察するとともに、現代における日本の教育の方向性と課題について、多面的に学修する。授業中の話し合いや発表、課題レポートにおける考察や分析等の活動をととして、主体的・対話的で深い学びを得る。								
到達目標		(1) 教育の基本的概念や教育の本質及び目標を理解するとともに、子ども・教員・家庭等の相互関係も理解している。 (2) 教育の歴史の基礎的知識を身に付け、それと教育理念との関わりや現代に至る教育及び学校教育の変遷を近代教育制度の成立と関連付けて理解している。 (3) 家庭や子ども、学校や学習に関わる教育思想を理解するとともに、代表的な教育家の思想についても理解している。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○		○	○	○	○	○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	教育の基本概念 (1) 教育と保育の全体像 教育の意義と目的					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	2	教育の基本概念 (2) 家庭、幼児教育施設、学校、社会における教育					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	3	教育の基本概念 (3) 教育・保育と法制度① 教育・保育を支える法制度					授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	4	教育の基本概念 (3) 教育・保育と法制度② 教育要領、保育指針					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	5	教育の基本概念 (4) 教育・保育職の専門性と研修					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	6	教育に関する歴史 (1) 公教育の歴史と「子ども観」の変遷					授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	7	教育に関する歴史 (2) 江戸時代までの教育と近代学校教育の展開					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	8	教育に関する歴史 (3) 日本における幼児教育・保育施設の誕生と発展					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	9	教育に関する思想 (1) 近代教育に大きな影響を与えた欧米の思想家達					授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	10	教育に関する思想 (2) 様々な教授理論と教育実践					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	11	教育に関する思想 (3) 幼児教育・保育を考えた日本人 (倉橋惣三など)					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	12	現代日本の教育課題 (1) 保育者のコンプライアンス①義務・禁止事項					授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	13	現代日本の教育課題 (2) 保育者のコンプライアンス②懲戒と体罰					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	14	現代日本の教育課題 (3) 幼児期におけるキャリア教育の意義					授業の振り返りを資料に記録する。		60分程度	
	15	現代日本の教育課題 (4) 幼児教育の不易と流行					授業の振り返りを記録し、まとめ課題をやる。		90分程度	
成績評価の方法		定期試験 (55 %)、5回の課題レポート及び毎時の授業資料への振り返り (35 %)、授業態度・意欲 (10 %)								
課題のフィードバック		5回の課題レポートにコメントして返却する。2回のファイル点検時に授業資料への振り返りにもコメントして返却する。								
テキスト		パワーポイントと配付する授業資料を使用する。A4版の綴じ込み用ファイルを準備する。								
参考文献・資料		『幼稚園教育要領 (最新版)』、『保育所保育指針 (最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (最新版)』、その他適宜紹介する。								

科目名		教育制度		科目コード		1EL032		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		古内 一樹		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						中・高の教員免許を有し、教育行政に関わった経験のある教員が、教育に関する制度、経営的事項について解説する。									
授業のねらいと概要		教育に関する制度、経営的事項について、多面的に考察するとともに、園・学校と地域の連携や園・学校の安心・安全への対応などの現代的教育課題について学修する。授業中の話し合いや発表、課題レポートにおける考察や分析等の活動をとおして、主体的・対話的で深い学びを得る。													
到達目標		(1) 現代公教育制度の意義・原理・構造等について、法的・制度的仕組みに関する基礎知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解している。 (2) 園・学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営的観点から理解している。 (3) 園・学校の保護者及び地域との連携の意義や地域との協働の在り方について、様々な事例を踏まえて理解している。 (4) 園・学校の管理下で発生する事件・事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法等に基づく教職員の使命感・責任感を含む園・学校安全の目的と具体的な取組を理解している。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	教育・保育に関する制度的事項(1) 公教育の原理と理念								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	2	教育・保育に関する制度的事項(2) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法との関わりの要点								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	3	教育・保育に関する制度的事項(3) 教育公務員特例法、地方公務員法との関わりの要点								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	4	教育・保育に関する制度的事項(4) 児童の権利に関する条約、児童福祉法との関わりの要点								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	5	教育・保育に関する制度的事項(5) 教育行政と教育委員会制度の仕組みと要点								授業の振り返りを記録し、復習課題をやる。				90分程度	
	6	教育・保育に関する経営的事項(1) 教育・保育施設の目的と機能								授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。				90分程度	
	7	教育・保育に関する経営的事項(2) 園の組織と運営								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	8	教育・保育に関する経営的事項(3) 学校評価の在り方と活用ー自己評価、学校関係者評価、第三者評価								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	9	教育・保育に関する経営的事項(4) 学級経営とその効果的な方法ー「おたより」を通した保護者との連携								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	10	教育・保育施設と地域との連携(1) 「開かれた園・学校づくり」のためにー「社会に開かれた教育課程」と「チームとしての学校」								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	11	教育・保育施設と地域との連携(2) 地域との連携・協働による園・学校教育活動の推進の具体例								授業の振り返りを記録し、復習課題をやる。				90分程度	
	12	教育・保育施設における安全・安心への対応(1) 危機管理の全体像と生活安全への対応								授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。				90分程度	
	13	教育・保育施設における安全・安心への対応(2) 災害安全への対応と保育者・教員の使命感・責任感								授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。				90分程度	
	14	教育・保育に対する期待と課題(1) いじめを考察する								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
	15	教育・保育に対する期待と課題(2) 幼児教育・保育への期待と課題								授業の振り返りを資料に記録する。				60分程度	
成績評価の方法		定期試験(55%)、5回の課題レポート及び毎時の授業資料への振り返り(35%)、授業態度・意欲(10%)													
課題のフィードバック		5回の課題レポートにコメントして返却する。2回のファイル点検時に授業資料への振り返りにもコメントして返却する。													
テキスト		パワーポイントと配付する授業資料を使用する。A4版の綴じ込み用ファイルを準備する。													
参考文献・資料		『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針(最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』、その他適宜紹介する。													

科目名		教育課程・保育の計画と評価		科目コード		1EL035		必修・選択		必修		授業形態		講義	
担当者		猿田 興子		担当形態		単独		単位数		2		学年 期間		2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、教育・保育施設で編成される教育課程や全体的な計画について指導する。									
授業のねらいと概要		幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各保育施設において編成される教育課程や全体的な計画について、その意義や編成内容を理解するとともに、各幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園や乳幼児の実情に合わせてカリキュラムマネジメントを行うことの意義を理解する。													
到達目標		(1) 教育課程・全体的な計画編成の基本原則及び保育実践に即した教育課程・全体的な計画編成の方法を理解できている。 (2) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定の変遷及び適切な保育内容並びにその社会的背景を理解している。 (3) 教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解している。 (4) 対象児各年齢におけるカリキュラムを把握し、保育全体をマネジメントする重要性を知り取り組もうとする。 (5) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解し、活かそうとする。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
				○	○	○	○								
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	幼稚園・保育所・認定こども園教育の教育課程・全体的な計画の役割・機能・意義について～要領・指針から教育・保育課程の目的を探る～								事前：シラバスを読む 事後：配付資料を確認する				60分	
	2	幼稚園・保育所・認定こども園教育の教育課程・全体的な計画の役割・機能・意義について～幼児の生活や発達の特徴を捉え、教育・保育課程の連続性と一貫性について学ぶ～								事前：配布資料を読む 事後：課題に取り組む				60分	
	3	教育課程・全体的な計画を基本とした指導計画作成について～要領・指針の内容（資質・能力の三つの柱、5領域、10の姿の方向生から）を深める～								事前：教科書を読んでおく 事後：指導案作成に取り組む				60分	
	4	教育課程・全体的な計画を基本とした指導計画作成について～指導計画の具体的な項目と内容を学ぶ～								事前：教科書を読んでおく 事後：指導案作成に取り組む				60分	
	5	指導計画作成の際の配慮事項と記述内容について～子どもの姿・ねらい・内容・環境構成を中心に学び、記述する～								事前：教科書を読んでおく 事後：指導案作成に取り組む				60分	
	6	指導計画作成の際の配慮事項と記述内容について～保育者の援助・配慮点等、保育の見通しと保育用語の特徴を捉える～								事前：教科書を読んでおく 事後：指導案作成に取り組む				60分	
	7	グループ協議（実習後の振り返りと他学生の実践から視野を広げる）～担当した園児の年齢別分かれ指導案とその評価について考える～								事前：実習を振り返っておく 事後：課題に取り組む				60分	
	8	実践や映像を通して学ぶ指導計画と保育の実践について～指導計画と子どもの姿や展開を通して、保育における指導計画の意味を考える～								事前：配付資料を読む 事後：課題に取り組む				60分	
	9	教育課程・全体的な計画と長期の指導計画（幼児の生活や遊ぶ姿を見通すこと）～幼児の発達を見据えた事例を通して学ぶ～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む				60分	
	10	教育課程・全体的な計画と長期の指導計画（地域の実態と園の実態を踏まえた編成の意味）～幼児の発達を見据えた事例を通して学ぶ～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む				60分	
	11	教育課程・全体的な計画と短期の指導計画（一日の生活の流れを予想した指導計画について）実習体験を生かした事例研究と省察を通して考える								事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む				60分	
	12	教育課程・全体的な計画と長期・短期の指導計画 カリキュラムマネジメントについて考える～保育における計画・実践・省察・評価・改善について学ぶ～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む				60分	
	13	指導計画と評価について カリキュラムマネジメントについて考える～望ましい保育の展開と子どもの実態を捉える保育者の視点を知る～								事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む				60分	
	14	様々な指導計画にふれる～11月幼稚園実習における指導計画作成を実際に考える～								事前：教科書を読んでおく 事後：指導計画作成に取り組む				60分	
	15	まとめとして～これまでの学びを生かした自身の保育を創造する期待と関心を持つ								事前：教科書を読んでおく 事後：課題を完成提出する				60分	
成績評価の方法		定期試験（60％）、レポート・小テスト（30％）、授業態度・意欲（10％）													
課題のフィードバック		定期試験を学びの内容の再確認する機会とし、指導計画を作成、評価で保育実践力向上につなげる													
テキスト		文部科学省：『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』（チャイルド本社）													
参考文献・資料		保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典													

科目名		幼児理解と教育相談		科目コード	1EL037	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者		武田 留美		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					スクールカウンセラー、心理カウンセラーの資格を有し現場経験のある教員が、幼児理解に関する内容及びカウンセリングの理論や基本的知識・技能について解説する。					
授業のねらいと概要		幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じる躰き、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。 幼児の発達状況に即しつつ、個々の心理的な特徴や教育的課題を適切に捉え、成長や発達を支援するための基礎知識、保護者を支えるための基礎知識（カウンセリングの理論や基本的知識、技法を含む）を理解する。								
到達目標		(1) 幼児理解の意義及び発達や学びを捉える原理を理解し、幼児理解を深めるための教師の基礎的態度を理解できる (2) 幼児理解の方法を具体的に理解する 1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事例の例示ができる 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解し、幼児の躰きを周りの幼児との関係やその背景から推測・理解できる 3) 保護者の心情の理解と基礎的な対応法を理解できている (3) 教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解できる (4) 教育相談を進める際に必要な基礎知識を理解している 1) 幼児の不適応や問題行動の意味、発するシグナルに気づき把握する方法を理解できる 2) カウンセリングマインドの必要性を理解し、受容・傾聴・共感等のカウンセリングの基礎的な姿勢やスキルを身につけることができる (5) 教育相談の進め方やポイント、組織的な取り組みや連携を理解する 1) 教育相談の計画作成や必要な体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解し、教育相談を行う際の役割に応じた進め方を例示できる 2) 維持・不登園・虐待・非行などの課題に対する幼児の発達段階や課題に応じた教育相談の進め方を理解できる 3) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解できる								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○		○	○	○	○	○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	授業の進め方（オリエンテーション） 教育相談とは何か（教育相談の目的と相談に必要な要素の確認）					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	2	幼児理解の基礎①保育現場での子ども理解の視点（発達の確認）					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	3	幼児理解の基礎②様々な発達段階の考え方					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	4	幼児理解の基礎③運動発達、言葉の発達、認知発達					1年時に学んだ発達に関してのまとめをし、発達の復習をする		60分	
	5	幼児理解の基礎④子ども理解の方法（目的に応じた観察の視点と観察法、記録の意義）					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	6	幼児理解の基礎⑤子ども相互の関りと関係づくり、集団での育ち					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	7	教育相談の理論及び方法①教育相談の意義や課題、実際の教育相談の場で用いられている心理療法の視点の理解					保育現場で重要な視点のまとめをする		60分	
	8	教育相談の理論及び方法②教育相談を行う際の基本的な場の設定方法や姿勢、受容、共感的態度をワークを通して理解する					授業の復習、自分が相談場面で大切にしたいことをまとめる		60分	
	9	職員間の対話、保護者との情報共有					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	10	気になる子ども、配慮を必要とする子どもの理解と対応①インクルーシブ保育と合理的配慮、保護者への対応					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	11	気になる子ども、配慮を必要とする子どもの理解と対応②発達の遅れや偏りのある子の理解、子どもの心身に現れる不安への理解と対応					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	12	虐待①虐待の現状と虐待に関連する法律、虐待の種類の理解					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	13	虐待②被虐待児の行動特徴と対応の注意点、関係機関との連携について考える					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	14	就学支援を考える（就学時のこどもの躰き、就学へのスムーズな移行のために保育現場でできること）					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
	15	地域における子育て支援と連携、災害時の援助と心身の健康					授業内容の復習 重要事項の確認		60分	
成績評価の方法		定期試験（75％）、授業内のワークや話し合いへの参加・取り組み姿勢（20％）、提出課題（5％）								
課題のフィードバック		提出課題は確認後、返却する 筆記試験は採点后、返却する								
テキスト		なし（適宜、プリントを作成し配布する）								
参考文献・資料		馬場禮子、青木紀久代編『保育に生かす心理臨床』（ミネルヴァ書房） 下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』（ミネルヴァ書房） 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』								

科目名		保育・教職実践演習（幼稚園）		科目コード		1ES038		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		古内 一樹・猿田 興子		担当形態		オムニバス		単位数		2		学年 期間		2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性															
授業のねらいと概要		これまでの教育・保育専門科目の履修を振り返り、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能等を補い実践的指導力向上を目指す。使命感や対人関係能力、幼児理解、保育内容の指導力向上を目的とした方法などについて、事例研究やグループ討議、調査、実技、模擬授業などを通して学ぶ。													
到達目標		(1) 保育者の専門性、保育に対する使命感と責任感、情熱等を持ち、目指す保育者像を持って学んでいる。 (2) 幼児理解に基づいたクラス運営、保育内容の指導とその評価に関する知識や技能の重要性を理解し、今後の保育実践に活かすことができる。 (3) 全国保育士倫理綱領から、保育者としての倫理を学び、理解できている。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○		○	○	○		○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション（本科目の目標と計画、担当者等について説明） ～これまでの学修の振り返り（学修を振り返り、各科目の状況を把握する）								事前：シラバスを読んでおく 事後：課題完成を目指す				60分	
	2	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画作成する力を身につける ～子どもの発達過程の特徴と、適切な環境と援助について～								事前：指導計画について 事後：指導計画完成を目指す				60分	
	3	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画作成する力を身につける ～子どもの生活における基本的な生活習慣について～								事前：指導計画について 事後：指導計画完成を目指す				60分	
	4	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身につける ～子どもの遊びを理解する重要性について～								事前：指導計画について 事後：指導計画完成を目指す				60分	
	5	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身につける ～子どもを中心とした人間関係について～								事前：指導計画について 事後：指導計画完成を目指す				60分	
	6	幼児理解につながるカンファレンスを実践する ～学生間のディスカッションと幼児理解をテーマにしたカンファレンス体験～								事前：実習の振り返りをする 事後：課題完成を目指す				60分	
	7	幼児理解につながるカンファレンスを実践する ～実習振り返り「ゆりかご」作成を通して考察する～								事前：実習の振り返りをする 事後：課題完成を目指す				60分	
	8	子ども理解と省察・記録・評価の意義を理解する ～保育専門職に必要な使命感や責任感、愛情等について学ぶ～								事前：実習の振り返りをする 事後：課題完成を目指す				60分	
	9	保育者として倫理を理解し、使命感や責任感、教育的愛情について考える ～保育専門職の基本を理解し、外部講師から学ぶ～								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				60分	
	10	保育実践力・指導力の向上につながる実践的学びをする －保育における運動遊び、遊びの充実を実践から学ぶ－								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				60分	
	11	保育実践力・指導力の向上につながる実践的学びをする －保育における造形・表現の指導について美術館見学において学ぶ－								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				60分	
	12	社会的・対人関係能力等のスキルアップを求めて講義・グループ討議を行う －上司・同僚との望ましい人間関係につながるスキル（事例についてグループ討議）－								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				60分	
	13	社会的・対人関係能力等のスキルアップを求めて講義・グループ討議を行う －保護者との望ましい人間関係につながるスキル（事例についてグループ討議）－								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				60分	
	14	これからの幼児教育・保育について学びを深める －クラス運営を中心に、外部講師の講話から学ぶ－								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				60分	
	15	幼児理解とクラス運営について考える －クラス運営を中心に、外部講師の講話から学ぶ－								事前：配付資料を読む 事後：自己評価課題記述				60分	
成績評価の方法		提出課題・振り返り等（70％）、授業態度・意欲（30％）													
課題のフィードバック		各担当者の指示に従った提出課題・振り返りが採点后、まとめられ評価となる。これまでの学びを確認しながら参加する。課題に丁寧に取り組み、提出を怠らないこと。													
テキスト		随時、プリントや資料等を配布する													
参考文献・資料		必要に応じて伝達予定（幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領）													

科目名		子ども家庭支援論		科目コード	1EL045	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	講義	
担当者		藤原 法生		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					福祉に関する資格を有し専修学校で指導経験のある教員が、家族の福祉の実現のために保育士が果たすべき役割について説明する。					
授業のねらいと概要		様々な課題を抱えながらも幸せな生活を築こうとする現代の家族の実態と家族を取り巻く状況について理解する。 家族の福祉の実現のための支援体制や支援方法について具体的に理解する。また、家族の福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。 家族や家庭に関する身近な情報を活用し、ディスカッション等を含み具体的な学びができるような授業構成とする。								
到達目標		(1) 子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解している (2) 保育士による子ども家庭支援の意義について理解している (3) 子育て家庭に対する支援体制について理解している (4) 子育て家庭に対する支援の具体的な展開について理解している								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○			○	○			○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	家族・家庭の定義と意義・機能					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	2	子育て家庭への支援の意義と目的					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	3	子育て家庭を取り巻く状況 家族の形態と家族に起こる問題の変容					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	4	子育て家庭を取り巻く状況 地域と家族に起こる問題の変容					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	5	子育て家庭を取り巻く状況 現代の家族の姿とそこに起こる諸問題					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	6	保育士による子ども家庭支援 支援における保育士の役割					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	7	保育士による子ども家庭支援 保育士に求められる基本的態度					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	8	保育士による子ども家庭支援 家庭の状況に応じた支援					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	9	子育て家庭に対する支援体制 社会資源					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	10	子育て家庭に対する支援体制 子育て支援施策					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	11	子育て家庭支援の具体的展開 支援の対象や内容					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	12	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応（DV）					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	13	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応（児童虐待）実態と法整備					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	14	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応（児童虐待）具体的援助方法					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	15	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応（障害児をもつ家庭）、関係機関とその連携					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
成績評価の方法		定期試験（70％）、授業への参加態度・提出課題（30％）								
課題のフィードバック		定期試験（筆記試験）は採点后に返却する								
テキスト		吉田真理 著：『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』（萌文書林） ミネルヴァ書房編集部 編：『社会福祉小六法 2024』（ミネルヴァ書房）								
参考文献・資料		必要に応じて提示する								

科目名		子ども家庭支援の心理学		科目コード	1EL047	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	講義	
担当者		瀬尾 知子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					小学校、中高（家庭）教員免許を有し、中高での教員経験のある教員が、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題等について解説する。					
授業のねらいと概要		1．生涯発達に関して心理学的な基礎知識を学ぶ。 2．家族と家庭の意義や機能や子育て家庭をめぐる社会的状況と課題について理解する。 3．子どもの精神保健とその課題について理解する。								
到達目標		(1) 生涯発達に関する心理学的な基礎知識を学ぶ。 (2) 家族・家庭の意義や機能について理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 (3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 (4) 子どもの精神保健とその課題について理解する。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○		○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	乳幼児期の発達①～運動発達					教科書の pp.6～17 を読んでおく。		60分	
	2	乳幼児期の発達②～認知発達					認知発達について、1年次に学んだことを整理する。		60分	
	3	乳幼児期の発達③～言語発達					言語発達について1年次に学んだことを整理する。		60分	
	4	乳幼児期の発達④～情動・自己意識					幼児期の認知的発達について1年次に学んだことを整理する		60分	
	5	乳幼児期の発達⑤～人間関係					良好な人間関係を育むために大切なことを自分なりにまとめる。		60分	
	6	学童期の発達について学ぶ					就学前後の変化と配慮することについて第2章を読み、まとめる		60分	
	7	青年期の発達について学ぶ					青年期の発達課題と心理社会的問題についてまとめる		60分	
	8	成人期から老年期にかけての発達について学ぶ					教科書の pp.46～58 についてまとめておく。		60分	
	9	家族関係・親子関係の発達と変化について理解する					教科書の pp.74～84 を読んでおく。		60分	
	10	子育ての経験と親としての育ちについて学ぶ					教科書の pp.88～102 を読んでまとめておく。		60分	
	11	多様な家庭や子育てをめぐる社会的な状況について学ぶ					教科書の pp.106～144 を読んでおく。		60分	
	12	特別な配慮を必要とする家庭への支援について理解する					教科書の pp.146～156 についてまとめておく		60分	
	13	子どもの生活・生育環境とその影響について学ぶ					教科書の pp.158～185 についてまとめておく。		60分	
	14	子どもの心の健康にかかわる問題について学ぶ					発達障害を持つ子どもへの支援についてこれまで学んだことを整理しておく。		60分	
	15	まとめ ～ より良い支援のために					この授業で学んできた様々な支援について振り返り、整理をしておく。		60分	
成績評価の方法		定期試験（70％）、授業態度・意欲（30％）								
課題のフィードバック		提出された授業の振り返りシートに記入された学びや疑問について、次回の授業のはじめに解説し、理解を深める。								
テキスト		松本峰雄・監修『子ども家庭支援の心理学演習ブック』（ミネルヴァ書房 2022年）								
参考文献・資料		適宜、提示、配布する。								

科目名		保育内容総論		科目コード		1ES051		必修・選択		選択(保資必修)		授業形態		演習	
担当者		佐々木 啓子		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、保育内容についての基本的な考え方について指導する。									
授業のねらいと概要		幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている保育内容について基本的な考え方への理解を深めるとともに、子どもにかかわる専門職という役割を理解する。保育に対する幅広い視野をもち、保育の各分野に関する専門知識・技能などを身につける。													
到達目標		(1) 乳幼児期の保育における見方・考え方について、具体的な事例を挙げて説明できる。 (2) 遊びを通して総合的な指導の意義と保育者の役割が説明できる。 (3) 子どもの心に寄り添う幼児理解の方法と援助の在り方について説明できる。 (4) 幼稚園・保育所・認定こども園の保育と小学校教育との円滑な接続について理解している。 (5) 保育における指導計画の考え方を理解し、子どもの発達の過程を見通した指導計画が作成できる。 (6) 子どもの実態に沿って、ものや人とのかかわりを深める視点から教材を工夫する。 (7) 保育記録の記述を通して、子どもを理解する力をつける。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○		○	○	○		○							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション 幼児教育・保育の基本								(事前) テキスト第1章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	2	幼児教育・保育の保育内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育のねらいと内容								(事前) テキスト第2章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	3	保育の基盤としての子ども観 子ども観と保育の内容								(事前) テキスト第3章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	4	保育の1日の流れと保育内容 遊びを中心とした生活の中で子どもが経験すること								(事前) テキスト第2章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	5	子どもの育ちと3歳未満児の保育内容 0～2歳児の発達と保育内容								(事前) テキスト第2, 6章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	6	子どもの育ちと3歳以上児の保育内容 3～5歳児の発達と保育内容								(事前) テキスト第2, 6章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	7	子どもの視点に立った保育者の援助 人的環境としての保育者の役割								(事前) テキスト第9章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	8	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 保育と学童期以降の育ちのつながり								(事前) テキスト第11章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	9	発達を促す遊びの環境 子どもを取り巻く様々な環境								(事前) テキスト第8章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	10	保育の計画と観察・記録と評価Ⅰ 教育課程・全体的な計画、短期・長期指導計画								(事前) テキスト第4章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	11	保育の計画と観察・記録と評価Ⅱ 省察・評価の方法								(事前) テキスト第4章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	12	園と家庭との連携 多様な保育ニーズと保育内容								(事前) テキスト第10章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	13	多様な子どもと共に育つ保育 事例を通した多様な子どもの保育								(事前) テキスト第12章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	14	保育の多様な展開 長時間保育・多文化共生								(事前) テキスト第12章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
	15	保育の現状と課題 保育の質・保育者の専門性の向上								(事前) テキスト第8, 9章を読む (事後) プリントを見返し、復習する				60分 程度	
成績評価の方法		リアクションペーパー(20%)、定期試験(50%)、授業態度(30%)													
課題のフィードバック		講義終了後、リアクションペーパーに記入された学びや疑問について次回の講義で解説し、学びを深める													
テキスト		渡邊英則、大豆生田啓友編著：『新しい保育講座4 保育内容総論』(ミネルヴァ書房)													
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説書』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)													

科目名		乳児保育Ⅱ		科目コード		1ES053		必修・選択		選択(保資必修)		授業形態		演習	
担当者		猿田 興子		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、「乳児保育Ⅰ」で学んだ内容をさらに深めて解説する。									
授業のねらいと概要		乳児を取り巻く社会情勢の変化を認識し、乳幼児期が人間として成長する基礎づくりとなり心身共に成長、発達が著しく重要な時期であることを理解する。また、その育ちを支える保育者として乳児の生活や遊びの環境を含め「乳児の最善の理解」を保障するための知識や技術を「乳児保育Ⅰ」で学んだ内容をもとに知識や技術を学ぶ。													
到達目標		(1) 乳児保育における社会情勢の特徴を理解して課題を考えることができる。 (2) 乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解している。 (3) 養護及び教育の一体性を踏まえ、乳児の子どもの生活や遊び・保育方法及び環境について、具体的に理解できる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○			○	○			○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	オリエンテーション ～乳児保育の現状と課題・乳児のための保育施設の多様化～								事前：シラバスを読んでおく 事後：課題に完成にのぞむ				30分	
	2	乳児（6ヶ月未満児）の発達の特徴について ～人と関わっていくことが発達の基本～								事前：配布資料を読む 事後：課題に完成にのぞむ				30分	
	3	乳児（6ヶ月未満児）の遊びと環境について ～アタッチメントを形成することの意味～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	4	乳児（6ヶ月～12ヶ月）の発達の特徴について ～園生活における保育者とのアタッチメント～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	5	乳児（6ヶ月～12ヶ月）の遊びと環境について ～子ども理解に基づく保育の展開～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	6	乳児（1歳以上3歳未満児）の発達の特徴について ～身体の発達に伴う新しい世界の広がり～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	7	乳児（1歳以上3歳未満児）の遊びと環境について ～言葉の発達に伴うコミュニケーションの広がり～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	8	乳児の生活と遊びの基本的事項 ～社会性に伴う人・もののつながり～手作り玩具～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	9	乳児の生活と遊びの基本的事項 ～生活の基本と乳児の健康・安全について～手作り玩具～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	10	乳児の生活と遊びの基本的事項 ～乳児の生活と遊びの考え方 主体となる乳児の遊び～手作り玩具～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	11	乳児保育における環境構成について ～乳児の保育に必要な環境構成～手作り玩具～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	12	乳児保育における保育者間の連携について ～現場保育者の実践例から学ぶ～【みそのベビー保育園畠山氏の講義】								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	13	乳児保育における全体的な計画と保育の記録について ～指導計画に基づく保育実践 保育記録の重要性～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	14	一人一人を健やかに育てていくために ～子育て支援について 子どもの育ちを連携して支援する～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
	15	まとめ：乳児保育における保育者の専門性 ～乳児保育に携わる保育者の資質向上に向けて～								事前：配付資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ				30分	
成績評価の方法		レポート・小テスト（60％）、作品（20％）、授業態度・参加（20％）													
課題のフィードバック		レポート・小テスト・手作り玩具は採点して評価に生かす。評価終了してから返却する。 欠席者と未提出者は採点に影響あり。													
テキスト		なし													
参考文献・資料		保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領													

科目名		社会的養護Ⅱ		科目コード		1 ES055	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習
担当者		初山 一彦		担当形態		演習	単位数	1	学年 期間	2年・前期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						児童発達支援センターや医療型障害児入所施設等での相談業務の他、児童自立支援施設や児童相談所一時保護所での指導経験がある。				
授業のねらいと概要		社会的養護Ⅰでの基礎理論を踏まえ、より深く具体的に子どもと家族に対する援助方法を知るとともに、演習事例をととして権利擁護や実践的側面に触れ、保育士の責任と役割の重要性及びその内容を理解する。								
到達目標		(1) 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容や実際について理解する。 (2) 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 (3) 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 (4) 社会的養護におけるが虐待の防止と家庭支援について理解する。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	授業オリエンテーション 子どもの権利と社会的養護						子どもの権利条約を読む		事前事後各30分
	2	施設養護のプロセスに求められる視点を学ぶ						課題シートに記入する ノート・配布資料で授業内容の振り返り		同上
	3	施設養護のプロセスの展開と留意点を学ぶ						同上		同上
	4	児童福祉施設の例から基本的な援助や生活プログラムを学ぶ						同上		同上
	5	障害児入所施設の例から基本的な援助や生活プログラムを学ぶ						同上		同上
	6	日常生活の支援について学ぶ						同上		同上
	7	心理的支援について学ぶ						同上		同上
	8	自己実現・自立について考える						同上		同上
	9	事例から自立支援計画を作成する						同上		同上
	10	記録の役割と内容について学ぶ						同上		同上
	11	親子関係の支援について学ぶ①(親子関係再構築を中心に)						同上		同上
	12	親子関係の支援について学ぶ②(在宅障害児について)						同上		同上
	13	社会的養護と地域のかかわりを考える						同上		同上
	14	社会的養護における保育士の専門性を考える						同上		同上
	15	子どもの権利擁護の課題						同上		同上
成績評価の方法		提出課題(80%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック		提出されたレポートにコメント記入して返却します								
テキスト		なし								
参考文献・資料		社会的養護Ⅰのテキストと配布資料。その他授業の中で、配布・提示します								

科目名		子育て支援		科目コード	1ES056	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習	
担当者		蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					幼稚園教諭免許及び保育士資格を有し、子育て支援員研修の講師を務める教員が、子育て支援・保護者支援の内容や現状を指導する。					
授業のねらいと概要		子育て支援・保護者支援の内容・現状を理解する。 子育て家庭の現状を踏まえたうえで、保育所保育指針に示された「子育て支援」の内容について、保育に関連させながら理解を深める。 保育の現場においての保育士の子育て支援を役割を認識するため、具体的な子育て支援の実際を体験したり、多様な講義を受けながら保護者支援の技術を身に付ける。								
到達目標		(1) 保育所保育指針における「子育て支援」の内容を理解することができる。 (2) 子育て支援の多様性と現代の家庭を取り巻く社会情勢を理解することができる。 (3) 保育士の専門性を生かした保護者への相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、具体的な事例を通して理解することができる。 (4) 子育て支援の実際を経験するためグループワークやディスカッションを通し、具体的な技術を身に付けることができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○		○			○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	保育所保育指針における「子育て支援」の内容について、子育て家庭や課題を踏まえながら理解する。								
	2	保育現場においての日常的に行われる子育て支援を調べ保護者との信頼関係構築について考える。					指針の内容、現場での子育て支援尾内容をノートにまとめる。		120分	
	3	子育て支援の多様性と現代の家庭を取り巻く社会状況のニーズを理解する。								
	4	保育現場においての日常的に行われる保護者支援の在り方についてディスカッションする。自分なりに活動を想定し構想を考える。					授業内容をノートにまとめる。		60分	
	5	それぞれで考えた子育て支援活動をグループで話し合い展開できる指導案を作成する。								
	6	子育て支援活動の実際をグループで企画し、必要な教材等を準備する。					必要な教材等の準備を進める。		120分	
	7	子育て支援活動の実際をグループで企画し、必要な教材等を準備する。					必要な教材等の準備を進める。		120分	
	8	子育て支援活動の実際 (環境構成も含め、グルーで協力しながら実施する)					授業内容をノートにまとめる。		60分	
	9	子育て支援の必要性と制度について理解を深める。 (1) 子育て支援が求められる社会背景について								
	10	子育て支援の必要性と制度について理解を深める。 (2) 子育て支援に関する制度と施策について					授業内容をノートにまとめる。		60分	
	11	保護者に対する相談支援の実態について理解し、実践力を身に付ける。 (1) 相談の現場を持つ外部講師による講義								
	12	保護者に対する相談支援の実態について理解し、実践力を身に付ける。 (2) 母親の負担感・不安感について					授業内容をノートにまとめる。		60分	
	13	保護者に対する相談支援の実態について理解し、実践力を身に付ける。 (3) 現場における保護者への発信媒体について								
	14	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 様々な子育て支援プログラムの手法について					事前に関連する著書を調べる。		60分	
	15	まとめ 保育士の専門性を生かした保護者支援について、自分なりの考えをまとめる。					事前に関連する著書を調べる。		60分	
成績評価の方法		定期試験(70%)、ノートを含む課題提出・授業態度(30%)								
課題のフィードバック		ノート、課題を回収した際にコメントを記載する								
テキスト		「保育所保育指針解説」 適宜資料を配布								
参考文献・資料		「保育用語辞典」								

科目名		卒業研究A・B（古内）		科目コード		A:1 ES065 B:1 ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		古内 一樹		担当形態		単独		単位数		各1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『身近な地域での遊びの資源マップづくりを通じて子どもと一緒に歩くモデルコースを設定する』 園や家庭が存在する地域社会に、子どもが興味・関心を示す遊びの資源（遊具の有無を問わず、かくれんぼや鬼ごっこ、どろんこ遊びや木登り等ができる場、草花や昆虫等が観察できる場、絵画や彫刻等が鑑賞できる場、絵本の読み聞かせ等が体験できる場等のモノやヒト）が、どこにどれだけあるかを調査（フィールドワークあるいは巡検）して地域への認識を深める。													
到達目標		(1) 保育者及び保護者の立場からも、園外・家庭外の身近な地域を認識するとともに、子どもの遊びの資源についても考察する。 (2) 身近な地域での遊びの資源マップをつくるとともに、子どもと一緒に歩くとしたらどのようなモデルコースが提案できるか設定する。 (3) 園外・家庭外での保育において、身近な地域の遊びの資源を活用する意義について考察する。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○		○	○	○	○	○	○	○					
授 業 計 画	卒 業 研 究 A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習			時間	
		1	オリエンテーション。本研究のねらいと概要及び目標について理解する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		2	子どもにとって身近な地域での遊びにはどのような意味があるかについて考察する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		3	子どもにとって身近な地域での自然観察や自然との触れ合い体験にはどのような意味があるかについて考察する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		4	図書館にてOPACを利用した所蔵資料の検索の仕方を司書から学ぶ。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		5	子どもにとって身近な地域の公共施設や地域の行事等及び地域の様々な人々と接することは、どのような意味があるかについて考察する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		6	子どもにとって身近な地域の遊びの資源で様々な体験活動を重ねる意味について考察する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		7	子どもにとって身近な地域での遊ぶ場（遊具の有無は問わず、かくれんぼや鬼ごっこ、泥んこ遊びや木登り等ができる場やモノ等）を地図上で探す。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		8	子どもの身近な地域での遊びの資源を求めて、大学周辺を歩いて調査し、資源の内容とその活用方法について考察する。大学周辺での巡検①（フィールドワーク）								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		9	子どもの身近な地域での遊びの資源を求めて、大学周辺を歩いて調査し、資源の内容とその活用方法について考察する。大学周辺での巡検②（フィールドワーク）								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		10	子どもの身近な地域での遊びの資源を求めて、大学周辺を歩いて調査し、資源の内容とその活用方法について考察する。大学周辺での巡検③（フィールドワーク）								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		11	大学周辺の巡検①②で調査して分かった遊びの資源について整理するとともに、子どもと一緒に歩く際に留意しなければならないことについてまとめる。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
	12	大学周辺の巡検①②で調査して分かった遊びの資源について整理したモノやコトについて、地図上に表現する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度		
	卒 業 研 究 B	13	前期のまとめと夏休み中の課題及び後期の予定について説明を聞き、スケジュールを立てる。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度	
		14	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク」についてねらいと具体的な計画を立てる。								事前：計画等立案 事後：振り返る。			60分程度	
15		経過報告及び計画等についての確認と修正をする。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度		
卒 業 研 究 B	1	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク①」								事前：計画の確認と準備 事後：調査結果の記録			90分程度		
	2	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク②」								事前：計画の確認と準備 事後：調査結果の記録			90分程度		
	3	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク③」								事前：計画の確認と準備 事後：調査結果の記録			90分程度		
	4	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク④」								事前：計画の確認と準備 事後：調査結果の記録			90分程度		
	5	夏休み中に実施したフィールドワークについて、何が分かったのか、どのようなことに気付いたかなどを文にして整理する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度		
	6	夏休み中に実施したフィールドワークについて、子どもの遊びの資源にはどのようなモノがあったかについて文にして整理する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度		
	7	夏休み中に実施したフィールドワークで得た情報をマップに整理する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度		
	8	大学周辺と自宅周辺のフィールドワークのどちらを卒業研究の対象とするかについて検討する。								事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			60分程度		
	9	大学周辺と自宅周辺のフィールドワークのどちらを卒業研究の対象とするかを決定したら、遊びの資源マップの下書き（構想案）に取りかかる①。								事前事後：論文とマップ作成について考察しながら作業を進める。			60分程度		
	10	大学周辺と自宅周辺のフィールドワークのどちらを卒業研究の対象とするかを決定したら、遊びの資源マップの下書き（構想案）に取りかかる②。								事前事後：論文とマップ作成について考察しながら作業を進める。			60分程度		
	11	卒業研究としてまとめるためのスケジュールと本物のマップづくりに必要な物品を注文する。								事前事後：論文とマップ作成について考察しながら作業を進める。			60分程度		
	12	卒業研究論文と遊びの資源マップを作成する①。論文やマップ作成上の相談ができる期間								事前事後：論文とマップ作成について考察しながら作業を進める。			60分程度		
	13	卒業研究論文と遊びの資源マップを作成する②。論文やマップ作成上の相談ができる期間								事前事後：論文とマップ作成について考察しながら作業を進める。			60分程度		
	14	卒業研究論文と遊びの資源マップを作成する③。論文やマップ作成上の相談ができる期間								事前事後：論文とマップ作成について考察しながら作業を進める。			60分程度		
	15	卒業研究論文と遊びの資源マップを完成させて提出する（最終締切は2月9日：月 とする）。								事後：完成した論文とマップについて自己評価する。			60分程度		
成績評価の方法		A:経過報告内容（60％）、取組意欲・態度と活動状況（40％） B:研究内容（40％）、取組意欲・態度と活動状況（40％）、成果物の出来映え（20％）													
課題のフィードバック		(1) 夏休み中の課題についてチェックし、コメントを付けて返却する。(2) 卒業研究論文と遊びの資源マップを最終提出する前に、全員から事前状況を報告させ、それに対するアドバイスを添えて返却する。													
テキスト		なし（必要に応じて資料を提供する）													
参考文献・資料		必要に応じて、適宜資料等を提供する。													

科目名		卒業研究A・B（内藤）		科目コード		A:1ES065 B:1ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		内藤 裕子		担当形態		単独		単位数		各1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『運動あそびを楽しもう』 運動あそびが心身に及ぼす効果について学ぶ。 子どもの運動あそびを適切に指導できる方法を模索する。													
到達目標		(1) 運動あそびを経験し、その意義を理解する。 (2) 運動あそびの指導法について、多角的にとらえることができる。 (3) 子どもの運動能力を引き出すあそびを引き出す能力を得る。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
授業計画	卒業研究A	授業回数	授 業 の 内 容							事前・事後学習				時間	
		1	オリエンテーション							予習・復習に関する資料を確認する				30分	
		2	からだほぐしの基礎運動（多人数対象）							〃				30分	
		3	からだほぐしの基礎運動（少人数対象）							〃				30分	
		4	からだほぐしの運動あそび（多人数対象）							〃				30分	
		5	からだほぐしの運動あそび（少人数対象）							〃				30分	
		6	創作活動1（グループ分け・話し合い）							〃				30分	
		7	創作活動2（発表に向けてのプロセスの確認）							〃				30分	
		8	創作活動3（基本的な技術の習得）							〃				30分	
		9	創作活動4（細やかな技術の習得）							〃				30分	
		10	創作活動の発表に向けて1（途中発表）							〃				30分	
		11	創作活動の発表に向けて2（途中発表のふりかえり）							〃				30分	
		12	創作発表の発表に向けて3（細かな部分の再確認）							〃				30分	
		13	創作活動発表 本番							〃				30分	
		14	パフォーマンスの感想発表							〃				30分	
	15	まとめ（「創作活動の魅力」について）													
	卒業研究B	1	オリエンテーション							予習・復習に関する資料を確認する				30分	
		2	からだほぐしの基礎運動（多人数対象）							〃				30分	
		3	からだほぐしの基礎運動（少人数対象）							〃				30分	
		4	からだほぐしの運動あそび（多人数対象）							〃				30分	
		5	からだほぐしの運動あそび（少人数対象）							〃				30分	
		6	あそびの実際（用具を使う屋外でのあそび）							〃				30分	
		7	あそびの実際（用具を使う屋内でのあそび）							〃				30分	
		8	あそびの実際（用具なしの屋外でのあそび）							〃				30分	
		9	あそびの実際（用具なしの屋内でのあそび）							〃				30分	
		10	あそびの指導法について1（あそびと環境の関連性について）							〃				30分	
	11	あそびの指導法について2（あそびに潜む危険について）							〃				30分		
	12	あそびの指導法について3（効果的な技術の習得）							〃				30分		
	13	あそび指導の実際（てあそび指導）							〃				30分		
	14	あそび指導の実際（運動あそび指導）							〃				30分		
	15	まとめ（「心が動くあそび」について再確認）													
成績評価の方法		提出課題（30％）、レポート（30％）、授業参加態度（40％）													
課題のフィードバック		授業内容や知識を得た感想を添削して返却する。													
テキスト		なし													
参考文献・資料		必要に応じて、提示する													

科目名		卒業研究A・B（蛭田）		科目コード		A: 1 ES065 B: 1 ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		蛭田 一美		担当形態		単独		単位数		各 1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『子育て支援～みそのもくもく』 子育て支援と保育の関連性を理解する。 保育者に求められる保育実践力、責任感、コミュニケーション力、気遣いなどの人間としての基礎力を磨く。 子育て支援室”みそのもくもく”、学外の子育て支援活動の企画、進行、振り返りを繰り返し実践する。 多様な経験を重ねながらチームとして協働していく重要性を実体験を通して学ぶ。													
到達目標		(1) 保護者支援と保育の関連性を体験的に学び、保育士としての専門知識を身に付けることができる。 (2) 子育て支援活動の計画立案、進行、振り返り、自己評価を行い、次の活動に向けた改善をすることができる。 (3) 内面的な面において基礎的な人間力の向上を目指すことができる。 (4) 卒研のチームの一人として、協働的に取組み、お互いに共感し合いながら同僚性を高めることができる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
授業計画	卒業研究A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間
		1	オリエンテーション 卒業研究の意義と授業内容、到達目標について理解する。												
		2	保育所保育指針における「子育て支援」の内容について理解を深め、子育て家庭のニーズ、実情について調べる。								インターネットや著書で子育て家庭の現状について調べる。				120分
		3	自分なりに保護者とかかわりについての目標を設定する。												
		4	子育て支援室”みそのもくもく”開催についての計画をグループで立案する。								立案に必要な資料を集める。				120分
		5													
		6	子育て支援室”みそのもくもく” 第1回～第4回の実施 (1) 計画・立案を通して開催準備を行う ゆっくりとくつろげる環境設定について考える (2) 具体的な役割分担をイメージしリハーサルを行い、イメージを持ちながら準備を進める。 (3) 実施（前後の清掃・消毒、自分の役割を行う。(受付・進行・記録) (4) 実践後の省察 自己評価を基にメンバーで共有し、省察を深める。 (5) 保育アドバイザーからの助言								・記録、資料はすべてファイリングし、1週間以内に提出する。 ・補助資料の配布の際は関連する著書を用いて事前に調べる。 ・もくもく開催日は終了時間が延長となる。 ・卒研規定日以外の日程や学外での実施日もある。				
		7													
		8													
		9													
		10													
		11													
		12													
		13													
		14													
	15	※ 実施の4回を振り返り、反省評価を共有し、今後の計画に生かす。													
	卒業研究B	1	・子育て支援室”みそのもくもく” 第5回～第9回の実施 前期同様（1）～（5）を実施する												
		2													
		3													
		4													
		5													
		6	・外部においての保育実践及び子育て支援活動 聖園もくもく in アルヴェ 外部において実施する準備、企画、運営 ・秋田大学医学部とのコラボ企画								主体的に、自分の役割をイメージする準備を行う。				120分
		7													
		8													
		9													
		10													
		11	・外部においての保育実践及び子育て支援活動 北秋田市・鹿角市において保育実践、 鹿角子ども未来センターにおけるディスカッション研修								宿泊研修の実施 記録はすべてノートにまとめる。				120分
		12													
		13													
		14													
15		保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について学んだ事を、保育アドバイザーも交えて、お互いに共有する。								最後の振り返りとして、ノートにまとめる。				120分	
成績評価の方法			A 記録（50％）、実施態度・準備・片付け・意欲（30％）、出席（20％） B 上記に同様												
課題のフィードバック			記録、省察したノートに対して毎回、コメントを記入し返却する。												
テキスト			適宜、資料を配布する。												
参考文献・資料			保育所保育指針解説・保育用語辞典 聖園学園短期大学研究紀要 第47号 第52号												

科目名		卒業研究A・B(東海林)		科目コード		A:1 ES065 B:1 ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		東海林 美代子		担当形態		単独		単位数		各 1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『ピアノ・オルガン』 ピアノの練習曲集である『ブルクミュラー 25 の練習曲』をピアノとオルガンで演奏する。ピアノやパイプオルガンの構造を知り、演奏法を学ぶ。演奏し聴き合うことで音色や響きの違いを感じ取る。													
到達目標		(1)ピアノとパイプオルガンの構造を学び、理解できる。 (2)「ブルクミュラー 25 の練習曲」の中から数曲をピアノ・電子オルガン・パイプオルガンで演奏し、響きや音色の違いを感じ取ることができる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○		○						
授業計画	卒業研究A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間
		1	授業の進め方 使用するテキストについて								各自の演奏曲については毎回十分に練習をして臨むこと できるだけ毎日練習することが望ましい 取り組む曲数については各自が目標を設定する				60分
		2	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		3	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		4	電子オルガン（マリアホール）の演奏体験 電子オルガンの使用の仕方 今後の活用について												60分
		5	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		6	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		7	パイプオルガン（聖堂）の演奏体験												60分
		8	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		9	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		10	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		11	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		12	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		13	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		14	各自の演奏曲についてパイプオルガン（聖堂）でレッスンを行う												60分
	15	パイプオルガン（聖堂）で演奏発表をする 夏休みの課題について								60分					
	卒業研究B	1	前期の振り返りと夏休み課題を提出する 夏休みに取り組んだ曲についてピアノで個人レッスンを行う								各自の演奏曲については毎回十分に練習をして臨むこと できるだけ毎日練習することが望ましい 取り組む曲数については各自が目標を設定する 演奏する楽曲については各自が毎回十分に練習をして臨むこと 授業以外にも積極的に連弾の練習に取り組むことが望ましい				60分
		2	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		3	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		4	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		5	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		6	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		7	各自の演奏曲についてパイプオルガン（聖堂）でレッスンを行う												60分
		8	各自の演奏曲についてパイプオルガン（聖堂）でレッスンを行う												60分
		9	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		10	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う												60分
		11	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		12	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		13	各自の演奏曲について電子オルガン（マリアホール）でレッスンを行う												60分
		14	各自の演奏曲についてパイプオルガン（聖堂）でレッスンを行う												60分
		15	演奏発表と振り返り												60分
成績評価の方法		毎回の課題への取り組みと意欲（50％）、演奏発表（50％）													
課題のフィードバック		全体への指導と個人指導を繰り返し、次回への取り組みに生かす													
テキスト		『ブルクミュラー 25 の練習曲』 出版社の指定はしない 所有している楽譜を使用してもよい													
参考文献・資料															

科目名		卒業研究A・B(猿田)		科目コード		A:1ES065 B:1ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		猿田 興子		担当形態		単独		単位数		各1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『保育者の専門性を求めて』—ドキュメンテーション(写真記録を通して)— 子どもは日々の事象に心を動かし、面白さを感じる中で成長している。そこに寄り添う保育者も、子どもとともに面白さを実感することが結果的に質の高い保育につながる。この授業では定期的に保育の中で、幼児の姿や幼児を取り巻く環境を撮影し理解していく過程を体験することで、幼児理解につながる知識・技能・表現力・実践力を身につけることを目標とする													
到達目標		(1) 保育中の観察や研究をねらいとして、乳幼児の認識・発達・思考及び動き等を写真に記録する方法を学び、その記録を活かして幼児理解につながる過程を実感できる (2) 乳幼児の様々な表現を記録・協議することを通し、幼児の育ち読み解いていく過程から幼児理解を実感し、視野を広げていくことができる													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○								
授 業 計 画	卒 業 研 究 A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間
		1	オリエンテーション 本演習の到達目標と概要・今後の予定について～								卒業研究用説明等で選択シラバス参照・確認				30分
		2	『保育者の専門性を求めて』 ～保育現場の現状を協議する中で写真活用する意味を理解する～								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				30分
		3	外部講師による講義と質疑応答 ～「安心して生活できる環境と乳幼児の姿」を中心に撮影する際の留意点とともにその方法等を聴講する～								事前：質問事項を考える 事後：課題完成を目指す				60分
		4													
		5	子どもの表情や動きから読み取る ～写真を用いてその状況を想像し、乳幼児への関心を深める～								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				30分
		6	子どもの表情や動きから読み取る ～子どもの思いを読み取り、コメント等を書き起こす～								事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す				30分
		7	テーマ「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿を探る」 ～実際の園生活の写真撮影実施～								撮影写真を現像・整理 再確認する				120分
		8													
		9													
		10	テーマ「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿を探る」 ～実際の園生活の写真撮影実施～								撮影写真を現像・整理 再確認する				120分
		11													
		12													
		13													
		14													
		15													
	卒 業 研 究 B	1	テーマ「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿を探る」 ～園生活の写真撮影を行う～								撮影写真を現像・整理 再確認する				120分
		2													
		3													
		4	「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿」内の写真を活用し ドキュメンテーションの表現活動を行う ～協議・考察を中心に～								必要な資料・研究文献・作成文具等を準備する				90分
		5													
		6													
		7	「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿」内の写真を活用し ドキュメンテーションの表現活動を行う ～保育者の専門性・保護者支援に活かす写真～								必要な資料・研究文献・作成文具等を準備する				90分
		8													
		9													
		10	「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿」内の写真を活用し ドキュメンテーションの表現活動を行う ～保育者同士で保育の振り返りを共有しあう意味や重要性について～								必要な資料・研究文献・作成文具等を準備する				90分
		11													
		12													
		13	完成ドキュメンテーションをもとに提案・協議 ～これまでの学びを振り返り、他学生の作品から視野を広げる～								作品のまとめ 作品の提案について				30分
		14	完成ドキュメンテーションをもとに提案・協議 ～ファイルの整理・展示実施・その内容確認～								作品のまとめ 作品の提案について				30分
		15	完成ドキュメンテーションから年間の学びについて振り返りを行う ～ファイル返却・作品の復元～								作品のまとめ				30分
成績評価の方法			表現作品【ドキュメンテーション】(40%)、課題ファイル(40%)、撮影・研究に取り組む姿勢(20%)												
課題のフィードバック			時間外において学外園での撮影・調査に積極的に取り組むことが不可欠で評価の対象とする。 ファイル作成用の課題も採点・評価対象となる。(デジタルカメラ等撮影カメラ必要：貸し出し可)												
テキスト			なし(必要に応じて資料を提示予定)												
参考文献・資料			参考文献：神永直美「フォトラングージで学ぶ 子どもの育ちと実習記録・指導計画」(明文書林) 保育ナビ(フリーベル館) 請川滋大：保育におけるドキュメンテーションの活用(ななみ書房)												

科目名		卒業研究A・B（加藤）		科目コード		A: 1 ES065 B: 1 ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		加藤 順子		担当形態		単独		単位数		各 1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『保育における食育』 食べることは生きるための源であり、心と体の健康に密接に関係している。乳幼児期の食に関する今日的課題や子どもの育ちを支える食育の重要性について理解を深め、保育における食育に関する文献研究や教材研究等を通して実践力の向上を目指す。													
到達目標		(1) 乳幼児期の食に関する現状や今日的課題について理解している。 (2) 保育における食育の意義について理解している。 (3) 子ども一人一人の状況や発達過程、家庭や地域社会の状況を踏まえた食育の在り方について理解している。 (4) 保育における食育の実際について具体的に理解し、保育を構想する力や実践する力など食育の担い手としての力を身に付けている。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○		○	○	○		○		○					
授 業 計 画	卒 業 研 究 A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間
		1	オリエンテーション 授業の概要や進め方について								シラバス・配付資料を確認する。				60分
		2	保育における食育について 乳幼児期の食や保育における食育の現状、課題について								配付資料や新聞記事等により、乳幼児の食について視野を広げる。				60分
		3													60分
		4	研究テーマの設定、活動計画立案 共通テーマ「楽しく食べる子どもに」の下、各自の研究テーマ設定 活動計画立案、活動準備								研究テーマや活動計画を確認し、必要な資料を集めたり材料等を準備したりする。				60分
		5													60分
		6	研究活動 共通テーマ：楽しく食べる子どもに								食に関心をもち、視野を広げる。 自ら計画を確認し、主体的に進めることを期待する。				60分
		7	各自の研究活動												60分
		8	《予想される研究テーマの例》 ・食事と健康 ・食事を楽しくするための環境、指導・援助の在り方 ・食文化との出会い ・郷土食 ・行事食の由来 (正月、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、月見 等)												60分
		9	・子どもと一緒に作るクッキングメニュー ・「食」に関わる絵本、お話に出てくる食べ物 ・「食」に関わる手遊び、歌 ・栽培活動と「食」 ・食生活に関わる基本的生活習慣												60分
		10	・「食」に関する子育て支援 ・食育に生かす教材、教具、資料等の作成 (エプロンシアター、手袋シアター、パネルシアター、紙皿シアター、ペープサート、カルタ、紙芝居、絵本、ぬいぐるみ、レシピ集 等)												60分
		11													60分
		12													60分
		13													60分
		14													60分
	15	経過報告 活動についての自己評価・報告、以後の活動についての確認								研究活動について振り返る。 以後の計画を確認する。				60分	
	卒 業 研 究 B	1	計画の確認・修正 計画の確認・修正・補足、準備								活動に見通しをもち、必要に応じて準備をする。				60分
		2	研究活動の継続、補足								自ら計画を確認し、主体的に進めることを期待する。				60分
		3													60分
		4													60分
		5													60分
		6													研究発表の準備をする。
		7	共同研究 幼児の食事・間食についての調査、実習								乳幼児の食事や間食についての資料を集める。				60分
		8									実習の準備をする。				60分
		9									実習の準備をする。 実習後の振り返りをする。				60分
		10													60分
		11	研究のまとめ レポート(研究報告書)作成								活動全体について確認し、まとめる。				60分
		12													60分
		13	研究発表 研究成果の発表								自身の発表や他のメンバーの発表について振り返る。				60分
		14													60分
		15	まとめ 研究活動の振り返り、自己評価								自身の研究活動について振り返り、今後につなげる。				60分
成績評価の方法			提出課題（60％）、レポート（20％）、授業態度・意欲（20％）												
課題のフィードバック			個人活動時には、毎時間進捗状況を確認し、必要に応じて指導・助言する。 提出された課題等にコメントを記入して返却する。												
テキスト			なし												
参考文献・資料			必要に応じて提示する。												

科目名		卒業研究A・B（鎌田）		科目コード		A:1 ES065 B:1 ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		鎌田 悟		担当形態		単独		単位数		各1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『造形表現』 ・制作活動を通して、様々な素材の扱い方や特徴、造形的な表現方法を理解する。 ・環境構成に関する情報を収集したり、それを基に制作したりする力を身に付ける。													
到達目標		(1) 造形表現につながるいろいろな素材やその生かし方について探り、多様な表現ができる。 ① 布や木等の様々な素材を集めたり、その可能性について調べたりすることができる。 ② 表現の仕方を工夫しながら、主体的に制作活動に取り組むことができる。 (2) 保育実践の場を想定した環境構成や、幼児の造形表現活動支援できる。 ① 幼稚園・保育園の季節に応じた環境構成やその方法について関心を持つことができる。 ② 幼児の心を動かすものづくりを考えながら楽しむことができる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○		○			○		○						
授 業 計 画	卒 業 研 究 A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間
		1	ガイダンス 演習の方針と年間活動計画について								活動計画の概要を知り、準備物について確認する。				60分
		2	年間計画の確認 テーマに応じた構想と制作内容の検討								参考資料等の利用に制限はないが「著作権」は留意する。				60分
		3	「校内の案内掲示板をつくらう」・・・個人制作 ①設置する場所を実際に探してスペースや空間などを確認する。								校内の壁面などを確かめて、掲示場所を決める。				60分
		4	②構想（デザイン、色、形、メッセージ等）し、下描きをする。								下描きをしてイメージを具体的な形で表す。				60分
		5	③掲示板の制作に必要な素材を収集し計画的に使用する。 色画用紙、布、フェルト、糸、木片、針金、段ボール箱 等								色画用紙等の他に布やフェルト等を各自収集する。				60分
		6	④各自のアイデアに沿って掲示板を制作する。Ⅰ 収集した素材の特徴を活かした制作								飾るスペースに応じて、作品の大きさなどを調整する。				60分
		7	⑤各自のアイデアに沿って掲示板を制作する。Ⅱ イラストや文字を活かした制作								イラストや文字を読みやすく美しい形になるよう留意する。				60分
		8	⑥各自のアイデアに沿って制作 Ⅲ								吊したり置いたりした時に安定性や破損に留意する。				60分
		9	⑦各自のアイデアに沿った制作 Ⅳ								具体的な作品の展示方法を考えておく。				60分
		10	⑧完成した作品を掲示板や壁などに展示し、鑑賞する。								展示可能スペースの確認調整をして展示する。				60分
		11	「窓辺に飾ろう」・・・共同制作（3～5人以内） ①意見交換をしてアイデアを出し合い、窓辺に飾る物を決める。								3人以上～5人以内のチームを作り、「飾るもの」を作る。				60分
		12	②どこに飾るのか、どのようにして飾るのかを考える。								飾る場所や方法等の確認、制作の分担をする。				60分
		13	③素材は何が適しているのか、どんな形にしたいのか等具体的に検討し、試作する。								グループで話し合い、試作の結果を踏まえて決定する。				60分
		14	④制作途中での評価（感想）を互いに交換しあい、気が付いたこと等を下に制作する。								感想や意見を交換し作品の良さや課題に気付く。				60分
		15	⑤予定通りに進んだこと、工夫したこと、友だちに伝えたいことなどを発表し、互いの作品について感想や意見を述べる。								ポートフォリオ等から前期の取り組みの評価をする。				60分
	卒 業 研 究 B	1	「家族に贈る感謝の気持ち～メッセージカード～」・・・個人制作 ①メッセージやイラスト等を添えたカードのデザインを考える。								卒業を迎えて家族に伝えたいことを自分なりに表現する。				60分
		2	②誰にどのような内容・メッセージを贈るか考え下描きをする。								カードの大きさや、形、デザインなど各自考えてくる。				60分
		3	③制作で使用する材料等を確認し、収集したり工夫したりして制作に活かす。								身のまわりにある包装紙やリボンなど必要に応じて準備する。				60分
		4	④のり付けやカッティング（切り込み）を行い、全体の仕上げをする。								カッターナイフはよく切れる状態にしておく。				60分
		5	⑤メッセージを書き込んだり貼り付けたりして完成させる。								紙の切り方や文字の形が美しいか最終確認する。				60分
		6	「○○をつくらう①」・・・個人制作 ①飾る、遊ぶ、ペープサートの中からテーマを選択。								各自のテーマやアイデアに沿って制作する。				60分
		7	②下図・デザイン等を決めて、試作する。								日頃から使っていた素材等を意識し収集しておく。				60分
		8	③それぞれのテーマに沿って、各自、素材を持ち寄り、制作する。								制作方法等について互いに情報交換しておく。				60分
		9	④制作の途中で、お互いの作品を鑑賞し、気が付いたことや自分の作品に取り入れてみたい技法等を取り入れる。								肯定的な相互鑑賞から成果や課題を明らかにする。				60分
		10	「○○をつくらう②」・・・個人制作 ①絵本、切り絵、版画、紙芝居等の中からテーマを選択する。								各自のテーマやアイデアに沿って制作する。				60分
		11	②イメージスケッチ・デザイン、展示方法等を考えて、試作する。								それぞれの制作内容に応じて、制作計画を立てる。				60分
		12	③それぞれのテーマに沿って、各自、素材を持ち寄り、制作する。								日頃から使っていた素材等を意識し収集しておく。				60分
		13	④それぞれのテーマに沿って、各自、素材を持ち寄り、制作をする。								カッターナイフや彫刻刀の正しい使い方を理解しておく。				60分
		14	⑤制作の途中で、互いの作品を鑑賞し、自分の作品に取り入れてみたい技法等を取り入れる。								感想をカードに書いてお互いに交換し伝え合う。				60分
		15	作品紹介と年間の履修の振り返り 作品整理（学び合い、保育の場での生かし方）								造形で学んだことを今後どう活かしていくか考える。				60分
成績評価の方法		提出課題（50％）、授業態度・意欲（50％）													
課題のフィードバック		制作全体を見渡せるように ①制作途中の鑑賞会 ②展示方法についての意見交換を実施。													
テキスト		『幼稚園教育要領』													
参考文献・資料		随時、自作のプリントを作成し配付する。													

科目名			卒業研究A・B(大原)		科目コード		A:1ES065 B:1ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者			大原 かおり		担当形態		単独		単位数		各1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性							各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要			『児童文学』 児童文学および文学関連の作品・作家・各種テーマについて研究し、作品を読み味わう力を養うと共に、他者との意見交換により広い視野で作品を理解し、造詣を深めることができる。													
到達目標			(1) 児童文学について理解する 1) 児童文学の概要を理解する 2) 各ジャンル・テーマについて理解する (2) 言語活動を通して、作品を読み味わう力や評価する力を養う 1) 作品についてディスカッションすることができる 2) ディスカッションの成果を生かして知見を広げて、研究に生かすことができる													
DPとの関連			人 間 性		専 門 性					社 会 性						
			人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
			○	○	○		○	○	○	○						
授業計画	卒業研究A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
		1	オリエンテーション －児童文学研究について								シラバス・配付資料を確認する。				60分	
		2	ブックトーク －好きなジャンル・おすすめの作品								作品選び、トーク内容を考える。 意見交換の結果を振り返る。				60分	
		3	講義1 児童文学とは 「子ども」という概念の誕生について								配付資料を読む。				60分	
		4	講義2 冒険物語について								配付資料を読む。				60分	
		5	講義3 絵本について								配付資料を読む。				60分	
		6	講義4 泣ける絵本について								配付資料を読む。				60分	
		7	講義5 怖い絵本について								配付資料を読む。				60分	
		8	研究準備1 テーマ・作品探し1								研究テーマ・作品を探す。				60分	
		9	研究準備2 テーマ探索								興味関心のあるテーマの論文等を探す。				60分	
		10	研究計画作成1								配付資料を読む。				60分	
		11	ブックトーク 研究対象作品について								トーク内容を考える。 意見交換の結果を振り返る。				60分	
		12	個人研究1 テーマ・作品の読みを深める1								作品を読み、研究テーマに照らし合わせる。				60分	
		13	個人研究2 テーマ・作品の読みを深める2								参考文献を探す。				60分	
		14	個人研究3 テーマ・作品の読みを深める3								作品や資料の考察結果をまとめる。				60分	
	15	中間報告 中間レポート提出								中間レポートを書く。				60分		
	卒業研究B	1	児童文学研究レポートについて								シラバス・配付資料を確認する。				60分	
		2	ブックトーク －研究対象関連の作品について1								作品選び、トーク内容を考える。 意見交換の結果を振り返る。				60分	
		3	ブックトーク －研究対象関連の作品について2								作品選び、トーク内容を考える。 意見交換の結果を振り返る。				60分	
		4	研究計画作成2								再度、研究を見直す。				60分	
		5	個人研究1 レポート執筆								執筆のための資料準備、相談内容などをまとめる。				60分	
		6	個人研究2 レポート執筆								執筆のための資料準備、相談内容などをまとめる。				60分	
		7	個人研究3 レポート執筆・完成部分の仮提出								添削の結果を受け、修正する。				60分	
		8	個人研究4 レポート執筆								執筆する。				60分	
		9	個人研究5 レポート執筆・完成部分の仮提出								添削の結果を受け、修正する。				60分	
		10	個人研究6 レポート執筆												60分	
		11	個人研究7 レポート執筆												60分	
		12	個人研究レポート提出								添削・点検の結果をふまえ、推敲する。				60分	
		13	個人研究レポート完成								レポートを完成させる。				60分	
		14	個人研究発表会								発表準備をする。				60分	
		15	まとめ 個人研究振り返り								自己の研究成果を振り返り、他者の研究についての見解を持つ。				60分	
成績評価の方法			提出課題(70%)、授業態度・意欲(30%)													
課題のフィードバック			適宜、添削・点検をして返却する。													
テキスト			適宜、提示、配布をする。													
参考文献・資料			適宜、提示、配布をする。													

科目名		卒業研究A・B（藤原）		科目コード		A:1ES065 B:1ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		藤原 法生		担当形態		単独		単位数		各1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『コミュニケーションと相談援助』 対人援助の基礎となるコミュニケーションと専門的な相談援助の方法について学び、その意義を理解し、基本的な技能を身に付けることを目標とする。 さまざまな演習方法で、「聴く」「話す」経験を積む。													
到達目標		(1) コミュニケーションの基本を理解している (2) 相談援助の原則について理解している (3) 相談援助の基本的な技能を身に付けている													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○		○	○		○						
授 業 計 画	卒 業 研 究 A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間
		1	研究テーマと研究方法								事後：自身の研究テーマを明確化する				30分
		2	コミュニケーションの基本① 非言語的コミュニケーションの方法								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		3	コミュニケーションの基本② 非言語的コミュニケーションの効果								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		4	コミュニケーションの基本③ 非言語的コミュニケーションの活用方法								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		5	コミュニケーションの基本④ 人間観察（表情や行動からの学び）								事前：対象や想定される状況等について検討する				30分
		6	コミュニケーションの基本⑤ 人間観察（表情や行動からの学び）								事前：対象や想定される状況等について検討する				30分
		7	コミュニケーションの基本⑥ 人間観察の振り返り								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		8	コミュニケーションの基本⑦ 自分観察（自己覚知）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		9	コミュニケーションの基本⑧ 言語的コミュニケーションの方法								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		10	コミュニケーションの基本⑨ 言語的コミュニケーションの分析								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		11	コミュニケーションの基本⑩ 言語的コミュニケーションの活用方法								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		12	コミュニケーション演習① ディスカッション								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		13	コミュニケーション演習② ディスカッション								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		14	コミュニケーション演習③ ディスカッション								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
	15	振り返りと自己評価								事後：自己評価を踏まえて後期の目標について検討する				30分	
	卒 業 研 究 B	1	研究内容と目標の確認								事後：目標達成に向けた研究方法等について検討する				30分
		2	コミュニケーション演習① ディスカッション								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		3	コミュニケーション演習② ディスカッション								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		4	コミュニケーション演習③ ディスカッション								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		5	相談援助の基本 ワーカーの基本的態度と技法								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		6	相談援助（面接）の実際 （DVD視聴）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		7	相談援助（面接）の実際 （DVD視聴）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		8	相談援助（面接）演習① （受容）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		9	相談援助（面接）演習② （受容）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		10	相談援助（面接）演習③ （質問による展開）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		11	相談援助（面接）演習④ （ロールプレイと相互評価）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		12	相談援助（面接）演習⑤ （ロールプレイと相互評価）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		13	相談援助（面接）演習⑥ （ロールプレイと相互評価）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		14	クレーム対応の方法 （DVD視聴）								事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する				30分
		15	まとめ、研究成果の評価								事後：全体の振り返りと自己評価する				30分
成績評価の方法		提出課題・演習実技等（50％）、研究（演習）態度・意欲（50％）													
課題のフィードバック		演習実技については、その都度評価と助言を行う													
テキスト		なし													
参考文献・資料		直島正樹、原田旬哉 編著：『図解で学ぶ保育 社会福祉』（萌文書林） F. P. バイステック 著：『ケースワークの原則』（誠信書房）													

科目名		卒業研究A・B（櫻庭）		科目コード		A:1ES065 B:1ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習	
担当者		櫻庭 優佳		担当形態		単独		単位数		各1		学年 期間		2年・前・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。									
授業のねらいと概要		『声楽』 主体的に自らの声と向き合い歌唱の力を高め、音楽への造詣を深める。歌うことの楽しさや喜びを子どもと分かち合えるように、自信をもって歌唱するための技術の習得を目指す。また、合唱など周りの人と共に声を合わせることで得られる喜びや達成感を味わう中で、その意義について考察を深める。													
到達目標		(1)「声楽」や「歌うこと」について、演奏技術や知識・理解を深める 1)「声楽」に対して常に課題意識を持って取り組むことができる 2) 明瞭で美しい言葉の発音に留意して歌唱することができる 3) ブレスや息の滑らかな使い方に留意し、のびやかな声で歌唱することができる 4) 互いの歌声を尊重し合い、ハーモニーを味わいながら合唱することができる 5)「子どもの歌」の総合表現を実習等で実践し、自分に必要な課題に取り組むことができる (2) 作品や楽曲に対する分析や解釈を深める 1) 作曲家や作詞家について知識・理解を深めることができる 2) 作品の音楽的な内容を理解することができる 3) 詩の内容について理解し、解釈を深めることができる							(1) 歌うことの楽しさと意義を実感し、より高い音楽表現をすることができる 1)「声楽」に対して常に課題意識を持って取り組むことができる 2) 互いの歌声を尊重し合い、ハーモニーを味わいながら合唱することができる 3) 自分の「声」に興味を抱き、向上心を持って歌唱に取り組むことができる 4) 様々なジャンルの音楽や歌に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる 5) 子どもの心身の成長に音楽が働きかける重要性について理解を深め、実践することができる 2)「聴く」「歌う」「動く」等が相互作用し合うことを理解し、表現することができる 2) 自らが心からの楽しさを感じ、また周りの人と分かち合うことができる 3)「子どもの歌」の総合表現を実習等で実践し、自分に必要な課題に意欲的に取り組むことができる						
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○		○						
授 業 計 画	卒 業 研 究 A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間
		1	オリエンテーション 各自、「声楽」に関する自らの課題を設定し、どんな研究内容にしたいかを考える								シラバスの精読 レポート課題に取り組む				60分
		2	発声基礎① コンコーネ等を用いて発声の基本に取り組む								コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習				60分
		3	発声基礎② コンコーネ等を用いて発声の基本にさらに取り組む								コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習				60分
		4	発声基礎③ コンコーネ、さらに曲を用いて、発声の基本を歌唱に生かす								コンコーネ等の譜読み 発声基礎の反復練習				60分
		5	発声基礎④ コールユーブンゲンを用いてソルフェージュの力を高める								コールユーブンゲンの予習と復習				60分
		6	発声基礎⑤ コールユーブンゲンを用いてソルフェージュの力をさらに高める								コールユーブンゲンの予習と復習				60分
		7	発声基礎⑥ ミニコンサート 各自が取り組んだ基礎練習の成果を披露し、互いに学び合う								発表に向けての練習				60分
		8	「子どもの歌」の表現あそびの実践と報告① 保育実習の中で各々が体験してきた音楽表現活動についてレポートにまとめる								レポート課題に向けての準備				60分
		9	「子どもの歌」の表現あそびの実践と報告② 保育実習の中で各々が実践してきた音楽表現活動についてレポートにまとめる								実践の振り返り レポート課題に向けての準備				60分
		10	合唱① 各パートの音取りを行う								楽譜の製本 譜読みと反復練習				60分
		11	合唱② パート練習/言葉の発音について								担当パートの練習 発音の復習				60分
		12	合唱③ パート練習/作品研究（作者や歌詞の解釈等について）								担当パートの練習 作品研究を進める				60分
		13	合唱④ アンサンブル練習								担当パートの練習 作品研究を進める				60分
		14	合唱④ アンサンブル練習をさらに深める								担当パートの練習 作品研究を仕上げる				60分
		15	合唱⑤ 作品研究の発表とミニコンサート 作品研究の発表により互いの解釈から学び合い、演奏に生かす								ミニコンサートや研究発表に向けての準備				60分
	卒 業 研 究 B	1	音楽鑑賞① 演奏会を鑑賞し、気付きや感想をまとめる								演奏会への参加 感想レポートの作成				60分
		2	音楽鑑賞② 演奏会から学んだことを報告し、互いから学び合う								レポート報告の準備				60分
		3	声楽アンサンブル（独唱または重唱）① 各自が設定した課題に取り組むための選曲を行う								選曲について考える 使用楽譜の相談と準備				60分
		4	声楽アンサンブル（独唱または重唱）② 譜読みと練習に取り組む、また作品研究に取り組む								課題曲の譜読み 作品について調べる				60分
		5	声楽アンサンブル（独唱または重唱）③ レッスンを受け、さらに練習や作品研究を進める								練習を進める 作品について調べた内容をまとめる				60分
		6	声楽アンサンブル（独唱または重唱）④ 発表に向けて伴奏合わせを行うと共に、作品研究を仕上げる								練習を進める 作品研究発表に向けての準備				60分
		7	声楽アンサンブル（独唱または重唱）⑤ ミニコンサート 演奏発表と作品研究発表を行い、互いの発表から学び合う								発表に向けての練習と準備				60分
		8	「子どもの歌」の表現あそびの実践と報告① 教育実習の中で各々が体験してきた音楽表現活動についてレポートにまとめる								レポート課題に向けての準備				60分
		9	「子どもの歌」の表現あそびの実践と報告② 教育実習の中で各々が実践してきた音楽表現活動についてレポートにまとめる								実践の振り返り レポート課題に向けての準備				60分
		10	合唱① 各パートの音取りを行う								楽譜の製本 譜読みと反復練習				60分
		11	合唱② パート練習/言葉の発音について								担当パートの練習 発音の復習				60分
		12	合唱③ パート練習/作品研究（作者や歌詞の解釈等について）								担当パートの練習 作品研究を進める				60分
		13	合唱④ アンサンブル練習								担当パートの練習 作品研究を進める				60分
		14	合唱④ アンサンブル練習をさらに深める								担当パートの練習 作品研究を仕上げる				60分
		15	合唱⑤ 作品研究の発表とミニコンサート 作品研究の発表により互いの解釈から学び合い、演奏に生かす								ミニコンサートや研究発表に向けての準備				60分
成績評価の方法		実技発表 40 %、提出物 20 % 授業態度・意欲（練習やグループ活動の参加態度など） 40 %													
課題のフィードバック		実技の習得は毎時間がフィードバックの連続です。授業者からの指導、助言が技術の向上に生きるよう、互いに良い集中力の中で楽しく学んでいきましょう。レポート等の提出課題にはコメントを記したのちに返却します。周囲と協力して取り組む研究内容が多いので、楽しさややりがいを感じ合い、共に高まっていける集団になることを期待します。													
テキスト		その都度提示や紹介・配布をする													
参考文献・資料		その都度提示や紹介・配布をする													

科目名		卒業研究A・B(佐々木)		科目コード		A:1ES065 B:1ES066		必修・選択		必修		授業形態		演習		
担当者		佐々木 啓子		担当形態		単独		単位数		各1		学年 期間		2年・前・後期		
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。										
授業のねらいと概要		保育者が行う援助・環境構成は子どもの遊びに大きな影響力をもっており、心身ともに健やかな発達を遂げるために保育者は子どもの目線に立った指導計画を考える必要がある。子どもにふさわしい援助や環境構成を考えるために、保育者に必要な知識・技能について広く取り上げ、文献や教材の研究を通して調査・研究を行い、実践力を身につける。														
到達目標		(1) 自分なりの保育者像をもち、豊かな人間性や社会性を身につける。 (2) 周囲の環境に主体的にかかわりながら、コミュニケーション能力や表現力の向上を図り、保育者に必要とされる資質・能力を身につける。 (3) 具体的な遊びや活動を直接体験しながら、子どもが環境を取り入れて遊ぶ活動を体験的に学ぶ。 (4) 子どもの発達を理解するために必要な保育者の視点について考えることができる。 (5) 5領域の特性に応じた保育実践力の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 (6) 乳幼児の遊びを理解し、発達年齢にふさわしい遊びとその指導方法や技能を身につける。 (7) 子どもが主体的に身近な環境にかかわって遊びを展開していくための多様な指導法を身につける。														
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性						
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力						
		○	○	○	○	○		○								
授業計画	卒業研究A	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
		1	オリエンテーション 卒業研究の意義と1年間の計画								(事前) 毎回の授業事前に担当者から指示された内容について調べるまた、指示がある回には事前に指導計画作成をすること、活動に必要なものの準備をすること				1時間程度	
		2	自然物を使った製作 春の園外保育「草花の葉」製作													
		3	自然物を使った製作 園外保育「草花の葉」製作指導計画作成													
		4	科学遊びⅠ 「泡づくり」調査・準備 【グループワーク】													
		5	科学遊びⅠ 「泡づくり」 【グループワーク】													
		6														
		7	科学遊びⅠ 「泡づくり」指導計画作成 【グループワーク】													
		8	子どもと創る園行事 子どもたちが主体の園行事													
		9	子どもと園行事 子どもと創る行事の環境「たなばた飾り」製作													
		10														
		11	自然と遊ぶ ネイチャージゲーム「カモフラージュ」調査・準備 【グループワーク】													
		12	自然と遊ぶ ネイチャージゲーム「カモフラージュ」 【グループワーク】													
		13	自然と遊ぶ ネイチャージゲーム「カモフラージュ」指導計画 【グループワーク】													
		14	動物園見学 フィールドワーク計画													
		15	動物園見学 フィールドワーク指導計画作成													
	卒業研究B	1									(事後) 授業内容をふりかえり、復習する活動後には作品やレポートを完成させる					
		2	動物園見学 大森山動物園フィールドワーク													
		3														
		4	子どもと創る園環境 折り紙を使った壁面装飾													
		5	科学遊びⅡ 「しゃぼんだま」調査 【グループワーク】													
		6	科学遊びⅡ 「しゃぼんだま」指導計画作成 【グループワーク】													
		7	動物園見学 大森山動物園クイズブック作成													
		8														
		9	科学遊びⅢ 「スノードーム」指導計画作成													
		10	科学遊びⅢ 「スノードーム」製作													
		11														
		12	各自のテーマで自主研究・製作													
		13														
		14														
		15	研究のまとめ 自主研究発表会													
成績評価の方法		〈A〉レポート・課題(50%)、指導計画(30%)、授業態度・意欲(20%) 〈B〉研究発表(40%)、レポート(20%)、指導計画(30%)、授業態度・意欲(10%)														
課題のフィードバック		提出された課題をもとに学生と担当者がコミュニケーションを取りながら学生自身の成果や改善点をふりかえり、自分の課題を見つけることができるようにする														
テキスト		なし														
参考文献・資料		必要に応じてプリントを配布														

実 習

科目名		教育実習指導Ⅰ		科目コード		1ET095		必修・選択		選択(幼免必修)		授業形態		実習	
担当者		佐々木 啓子		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						幼稚園教諭免許を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、教育実習について指導する。									
授業のねらいと概要		講義や映像、附属幼稚園見学等の体験を通して、実習の意義や目的を理解するとともに、実習を円滑に進めるための心構えや実践的知識を理解する。さらに幼稚園、認定こども園の役割や機能、保育内容等を総合的に学び、実践を通して自らの保育の課題を明確にし、保育者になるうえでの能力や態度を身につける。													
到達目標		(1) 実習生が遵守すべき義務について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に取り組むことができる。 (2) 実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までに習得することが必要な知識や技能等を理解する。 (3) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領および子どもの実態等を踏まえ発達段階を考慮しながら子どもとかわることができる。 (4) 保育に必要な基礎的技術を実地に即して身につけるとともに、保育の環境や保育者の役割について理解する。 (5) クラス担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。 (6) 様々な活動の場面で適切に子どもとかわることができる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○		○	○	○		○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	教育実習とは 実習の意義・目的								(事前) テキスト第2章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	2	教育実習の位置づけ 2年間の実習予定(実習の種類、内容、日程等)								(事前) 実習の手引き1,2を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	3	実習園の選択 実習園の選択と留意点								(事前) 自分が実習したい園を考え、園の情報調べ (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	4	幼稚園とは 保育所・認定こども園との違い								(事前) テキスト第1章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	5	幼稚園の生活 幼稚園の1日の流れ								(事前) テキスト第6章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	6	実習の方法と理解 DVD『保育者を目指すあなたへ』視聴								(事前) 自分がなりたい保育者像についてまとめる (事後) DVDを視聴して感じたことをまとめる				60分程度	
	7	実習オリエンテーション 内容、連絡方法、オリエンテーションのマナー								(事前) 実習の手引き4を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	8	幼稚園教育要領を見るⅠ 環境を通して行う教育								(事前) 幼稚園教育要領第1章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	9	幼稚園教育要領を見るⅡ 遊びを中心とした保育								(事前) 幼稚園教育要領第1章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	10	幼稚園教育要領を見るⅢ 幼稚園の特性(小学校の指導方法との比較)								(事前) 幼稚園教育要領序章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	11	実習における基本的態度・マナーⅠ 実習中の生活、健康管理の重要性								(事前) テキスト第4章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	12	実習における基本的態度・マナーⅡ 実習生の社会性、コミュニケーション能力								(事前) 実習の手引き5を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	13	附属幼稚園の見学 子どもの園生活の姿の理解								(事前) 実習の手引き10を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	14	実習記録の記述 教育実習Ⅰの実習記録の記述方法と留意点、保育の用語								(事前) 実習の手引き6－(1)を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	15	実習に必要な書類の作成 事前に準備すること(持ちもの、手遊び、季節の歌)								(事前) 実習の手引き6－資料6を読む (事後) プリントを見返し、授業内				60分程度	
成績評価の方法		実習評価(40%)、実習記録(30%)、提出課題(10%)、授業態度(20%)													
課題のフィードバック		実習事後に評価面談を行い、成果と課題を明確にして次の実習に活用できるようにする													
テキスト		大豆生田啓友／高杉展／若月芳浩：『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)													
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』(フレーベル館)													

科目名		教育実習指導Ⅱ		科目コード		1ET096		必修・選択		選択(幼免必修)		授業形態		実習	
担当者		佐々木 啓子		担当形態		単独		単位数		1		学年 期間		2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						幼稚園教諭免許を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、教育実習について指導する。									
授業のねらいと概要		教育実習Ⅰの経験を踏まえて、幼稚園教諭・保育教諭に必要な実践的知識を理解する。実習事後にはディスカッションやエピソード記録等の方法により省察を行い、保育者としての資質向上を目指し学びを深める。さらに自分が目指す幼稚園教諭像・保育教諭像を明確にし、保育観・子ども観を具体的に述べるができるようになる。													
到達目標		(1) 実習生が遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に取り組むことができる。 (2) 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までに習得することが必要な知識や技能を理解する。 (3) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領および子どもの実態等を踏まえた適切な指導計画を作成し、保育を実践することができる。 (4) 保育に必要な基礎的技術を実地に即して身につけるとともに、子どもの体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用できる。 (5) クラス担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。 (6) 様々な活動の場面で適切に子どもとかかわることができる。													
DPとの関連		人 間 性		専 門 性						社 会 性					
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力					
		○	○	○	○	○	○		○	○					
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容								事前・事後学習				時間	
	1	責任実習とは		保育者の動き、指導計画と環境構成						(事前) テキスト第6章・1,3を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	2	指導計画作成①		指導計画に活かす教材・素材						(事前) テキスト第5章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	3	指導計画作成②		指導計画に活かす活動						(事前) テキスト第5章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	4	指導計画作成③		責任実習、部分実習、導入の意味						(事前) 実習の手引き6・資料4を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	5	教育実習Ⅱの記述		教育実習Ⅱの実習記録の記述と留意点						(事前) 実習の手引き6を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	6	教育実習Ⅱを終えて		自己評価を通じた教育実習Ⅱのふりかえり						(事前) テキスト第9章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	7	実習のふりかえり①		グループディスカッションを通じた実習の省察						(事前) 実習の体験・実習記録を基に、実習のふりかえりをまとめる (事後) ディスカッションでの気づきや学びをまとめる				60分程度	
	8	実習のふりかえり②		実習エピソードによる実習の省察						(事前) 実習の体験・実習記録を基に、最も印象に残ったエピソードをまとめる (事後) エピソードから客観的に学びをまとめる				60分程度	
	9	実習のふりかえり③		保育現場に向けての自己課題						(事前) テキスト10章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	10	子どもの生活と発達①		総合的発達の特徴						(事前) 3歳以上児の発達の特徴について調べる (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	11	子どもの生活と発達②		遊びや生活の姿から発達を読み取る						(事前) 3歳以上児の生活の様子から発達を考える (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	12	環境構成と自発的活動としての遊び		子どもが環境とかかわる重要性						(事前) 幼稚園教育要領第2章第3節を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	13	保育者の専門性		保育者としての自覚、専門性についての理解						(事前) テキスト第4章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容の復習をする				60分程度	
	14	環境構成を考える		環境図を使用した指導計画の作成 (ICT活用)						(事前) テキスト第5章を読む (事後) 指導計画を完成させる				60分程度	
	15	援助のポイントを考える		様々な援助についての理解						(事前) 多様な援助について考える (事後) 前回作成した指導計画を見直し、援助の加除修正をする				60分程度	
成績評価の方法		実習評価 (40%)、実習記録 (30%)、指導計画 (20%)、授業態度 (10%)													
課題のフィードバック		実践力に結びつけられるよう教育実習Ⅰの経験をふりかえるとともに、実習後には面談を行い2年間の実習の総括をする													
テキスト		大豆生田啓友／高杉展／若月芳浩：『最新保育講座 12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)													
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』(フレーベル館)													

科目名		保育実習指導Ⅰ(保育所)		科目コード	1ES099	必修・選択	選択(保育必修)	授業形態	演習	
担当者		猿田 興子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、保育実習(保育所)について指導する。					
授業のねらいと概要		実習に向け児童福祉施設の目的と機能を理解し、実習を円滑に進めていくための実践的知識や心構えを会得する。さらに実習の内容を理解し、自らの課題を明確にするとともに実習の事前事後授業を通して保育者として必要な資質・能力・技術の理解を深める。保育の実践を体験的・総合的に理解し、保育実践並びに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。								
到達目標		(1)実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加することができる。 (2)実習までに学んだ保育に関する専門的な知識・理論・技術等を保育内に実践するための基礎づくりができる。 (3)実習を通して得られた知識と経験を振り返り、資格取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 (4)保育に必要な基礎的技術(話術・保育形態・保育展開・環境構成など)を身に付けるとともに適切な場面で自身の技術を活用することができる。 (5)保育者の役割と職務内容を理解し、様々な活動の場面に応じて適切な対応を考慮しながら関わり行動できる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○		○	○	○		○	○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	オリエンテーション ー通年における保育実習の回数・期間・種類と準備についてー					実習の手引きを読む 授業後内容確認		30分	
	2	各実習の内容とその位置づけ ー実習の目的とその概要についてー					実習の手引きを読む 授業後内容確認		30分	
	3	実習園について ー実習先(児童福祉施設)の事前調査と保育内容についてー					説明会の学びをまとめる 課題完成に取り組む		30分	
	4	実習の方法と理解 ー映像を通して実習をイメージするー					説明会の学びをまとめる 課題完成に取り組む		30分	
	5	保育所保育指針・教育・保育要領から ー子どもの発達とその特徴 幼稚園教育要領との違いからー					教科書を読んでおく 課題完成に取り組む		30分	
	6	保育所保育指針・教育・保育要領から ー子どもの生活環境と保育園での生活の流れについてー					教科書を読んでおく 課題完成に取り組む		30分	
	7	実習園におけるオリエンテーションについて ー連絡方法・態度・持ち物・事前準備・指導案等についてー					教科書を読んでおく 指導案作成に取り組む		30分	
	8	実習における基本的態度・マナーと意識 ー実習生の生活習慣・健康維持・マナーと生活からー					配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		30分	
	9	実習における基本的態度・マナーと意識 ー実習生の社会性・その重要性をテーマに考え合うー					配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		30分	
	10	保育実習における安全管理の重要性 ー守秘義務の重要性・養護と教育の実践事例を通してー					配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		30分	
	11	保育実習記録の記述を中心に ー保育所の目的と機能・保育のねらいについてー					配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		30分	
	12	保育実習記録の記述を中心に ー保育所生活の流れ・保育の見方・子ども理解につながる記録ー					配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		30分	
	13	保育実習記録の記述を中心に ー保育用語・記録法・記録時の留意点についてー					配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		30分	
	14	乳児保育における養護と教育について ー乳児への保育者のまなざしと望ましい援助についてー					乳児保育Ⅰ教科書読む 課題完成に取り組む		30分	
	15	0・1・2歳児の生活と遊び ーその特徴と配慮点を深める・適切な環境についてー					乳児保育Ⅰ教科書読む 課題完成に取り組む		30分	
成績評価の方法		レポート・小テスト(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(30%)、実習記録(20%)								
課題のフィードバック		保育実習活用のため「実習ノート」を作成して学修に活用するとともに採点に活かし、その後返却する。授業内の課題は提出状況と内容を評価に活かし、その後返却する。								
テキスト		大豆生田啓友／三谷大紀／松山洋平：『新しい保育講座1 保育・教育実習』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料		幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞								

科目名		保育実習指導Ⅰ(施設)		科目コード	1ES100	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習	
担当者		猿田 興子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性					保育士資格を有し現場経験のある教員と各種福祉に関する資格を有する教員が、現場での知見を生かし、保育実習(施設)について指導する。					
授業のねらいと概要		実習に向け児童福祉施設の目的と機能を理解し、実習を円滑に進めていくための実践的知識や心構えを会得する。さらに実習の内容を理解し、自らの課題を明確にするとともに実習の事前事後授業を通して保育者として必要な資質・能力・技術の理解を深める。保育の実践を体験的・総合的に理解し、保育実践並びに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。								
到達目標		(1)事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲に参加する意識を持ち、事後指導では実習の成果と課題等を省察することができる。 (2)実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに実習の意義を相互的に理解できる。 (3)実習までに学んだ保育に関する専門的な知識・理論・技術等を保育内に実践するための基礎づくりができる。 (4)施設における保育者の役割と職務内容を理解し、様々な活動の場面に応じて適切な対応を考慮しながら関わり行動できる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性			社 会 性			
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○		○	○	○		○	○	○
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					事前・事後学習		時間	
	1	3・4・5歳児の生活と遊び ーその特徴と配慮点・適切な環境についてー					指導案の見直しと準備物 実習の振り返りと提出物		30分	
	2	保育実習を終えて ー学生同士の協議・省察・報告書記述で振り返りー					事後作業(実習記録) 報告書完成に取り組む		30分	
	3	児童福祉施設(施設)実習に向けて ー学生同士の協議を通してイメージの伝え合いをするー					教科書を読む 課題完成に取り組む		30分	
	4	児童福祉施設(施設)実習に向けて ー施設の種類とその特徴ー					教科書を読む 課題完成に取り組む		30分	
	5	児童福祉施設(施設)実習に向けて ー施設の生活と保育者の援助 実習生の援助ー					教科書を読む 課題完成に取り組む		30分	
	6	児童福祉施設(施設)実習に向けて ー施設職員の職務内容と保育士の役割についてー					教科書を読む 課題完成に取り組む		30分	
	7	施設別実習事前オリエンテーション ー学生・施設別担当教員による協議を通しての学びー					配付資料を読む 課題完成に取り組む		30分	
	8	施設別実習事前オリエンテーション ー学生・施設別担当教員による協議を通しての学びー					配付資料を読む 課題完成に取り組む		30分	
	9	施設実習記録の記述について ー施設別先輩実習生から実践事例を聞くー					配付資料を読む 課題完成に取り組む		30分	
	10	施設実習記録の記述について ー施設別先輩実習生から実践事例を聞くー					配付資料を読む 課題完成に取り組む		30分	
	11	施設実習を終えて ー学生・施設別担当教員による協議を通して省察するー					配付資料を読む 課題完成に取り組む		30分	
	12	施設実習を終えて ー学生・施設別担当教員による協議を通してエピソードにまとめるー					配付資料を読む 課題完成に取り組む		30分	
	13	保育所保育指針・教育・保育要領から ー子育て支援の現状と保育者の役割について学ぶー					教科書を読む 課題完成に取り組む		30分	
	14	保育所保育指針・教育・保育要領から ー保育者の専門性について 実習体験のまとめー					教科書を読む 課題完成に取り組む		30分	
	15	2年間を通した保育実習のまとめ ー乳児・幼児・入所児の内面理解と自身の変化についてー					これまでの実習記録を読む ゆりかご作成に取り組む		30分	
成績評価の方法		レポート・小テスト(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(30%)、実習記録(20%)								
課題のフィードバック		保育実習活用のため「実習ノート」作成して学修に活用するとともに採点に活かし、その後返却する。授業内の課題は提出状況と内容を評価に活かし、その後返却する。								
テキスト		大豆生田啓友／三谷大紀／松山洋平：『新しい保育講座1 保育・教育実習』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料		幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典								

科目名		保育実習指導Ⅱ		科目コード		1ES062	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習
担当者		猿田 興子		担当形態		単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性						保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、保育実習（保育所）について指導する。				
授業のねらいと概要		これまでの実習体験を活かしながら部分・責任実習に向け指導計画の理解・作成・実践・評価について総合的に学び理解する。さらに実習事後のグループ討議・省察をを通して保育の観察の為に、記録の仕方及び自身の保育を振り返ることで指導計画における評価と保育の改善について実践的に深める。								
到達目標		(1)事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲的に参加する意識を持ち、事後指導では成果と課題等を省察するとともに資格取得に向け修得すべき知識や技能等について理解できる。これらを通して保育実習の意義を総合的に理解することができる。 (2)これまで学んだ保育に関する専門的な知識・理論・技術等を活かして実践するための基礎が身についている。 (3)各要領・指針と幼児の実態等を踏まえた適切な指導計画を作成し、保育を展開することができる。 (4)指導計画の作成・実践・評価を通して、改めて保育者の役割と職務内容を理解し、実践に活かすことができる。								
DPとの関連		人 間 性		専 門 性				社 会 性		
		人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○	○		○	
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容						事前・事後学習		時間
	1	保育所保育指針から －指導計画の理解・作成・実践・評価について総合的に考える－						指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		30分
	2	指導計画について －幼児理解と「教育」「養護」の関連について－						指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		30分
	3	保育実習における計画と実践・評価 －附属幼稚園児 模擬保育を通して（活動と遊びの姿を捉える）－						指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		30分
	4	保育実習における計画と実践・評価 －附属幼稚園児 模擬保育を通して（計画と実践の関係性について）－						指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		30分
	5	保育における活動の捉え方について －保育者の願いと子どもの思い 事例から考える－						指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		30分
	6	保育における活動の捉え方について －子どもの興味関心・発達段階・季節・経験から考える－						指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		30分
	7	遊びを通した総合的な発達とは －遊びと生活の実践例から考える－						教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		30分
	8	遊びを通した総合的な発達とは －事例を通して記録・振り返り・評価・保育の展開へとつなぐ学び－						教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		30分
	9	子どもの生活する姿を通して －事例を通して記録・振り返り・評価・保育の展開へとつなぐ学び－						教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		30分
	10	保育実習における活動の捉え方 －園生活の実態と指導計画について－						教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		30分
	11	望ましい環境構成と主体的遊びについて －子どもの立場から環境を捉え直す－						教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		30分
	12	保育実習に向けた指導計画立案と作成 －まとめとして 発達・時期・興味・関心と子どもの姿を中心に－						教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		30分
	13	保育実習の振り返り －責任実習を通して他学生との協議を通して視野を広げる－						教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		30分
	14	保育実習の振り返り －保育における計画と記録・そして評価を考える 保育要録記述－						教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		30分
	15	2年間の学びと自身の変容について －まとめ 子どもを理解するための視点－						これまでの実習記録を読む 課題の完成に取り組む		30分
成績評価の方法		レポート・小テスト（30％）、授業態度・意欲（20％）、実習評価（30％）、実習記録（20％）								
課題のフィードバック		保育者に求められる基本的な実践力を養うために「指導計画」も採点対象とし返却する。授業ごとに実習に関する課題も採点し、実習で使用した後返却する。								
テキスト		大豆生田啓友／三谷大紀／松山洋平：『新しい保育講座 12 保育・教育実習』（ミネルヴァ書房）								
参考文献・資料		保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典								

